

生活文化

生活文化同人会報

1997(平成9)年 1月号 No.23

次回定例会案内	...	1
(も) 韓国建築文化研修ツアー報告	...	2
(く) シャガン その19	...	19
(じ) 私の近作／小林一元	...	20
新連載「夢屋ものかたり」	...	22
小国木造フォーラム研究集会報告	...	24
「大乗院庭園文化館」景観調和デザイン賞授賞	...	26
同人紹介／高橋昌巳	...	28
1996年度総会報告	...	30
世話人会報告・同人活動	...	31
事務局より	...	32

□定例会 97/2/21(金) 6:30~8:30PM

於：中野区立商工会館大会議室

(tel:03-3389-1181)

「同人の仕事を見よう！」シリーズ第1弾

【私家版】3人組の仕事

小林一元・松井郁夫・宮越喜彦

世話人：太郎丸

仲間がどのような仕事をしているのか、同人同士の仕事を紹介し合いながら、意見交換をしようと思います。シリーズになるかどうかは「？」。

今回は、この2月で建築知識に2年間連載の木造住宅【私家版】仕様書が終了したこともあり、執筆にあたった3人の仕事を見ながら何が

雑誌とパソコン通信との連携

どうだったのかなど

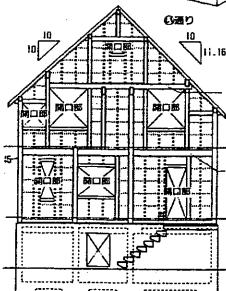
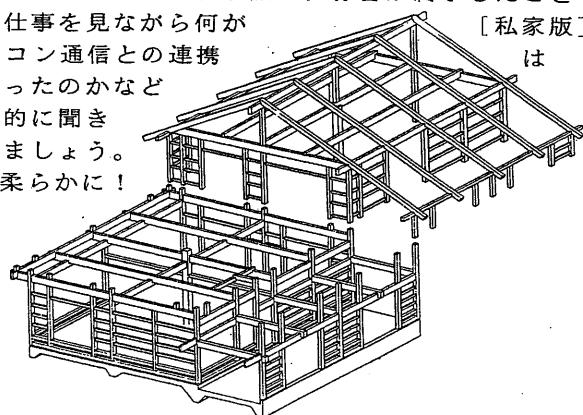
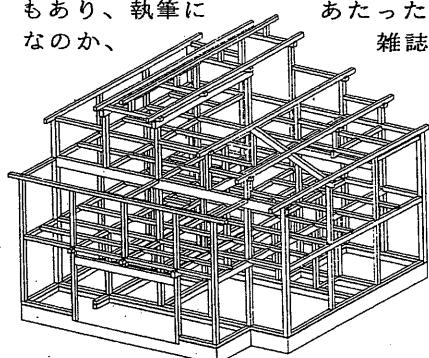
徹底的に聞き

出しましょう。

お手柔らかに！

[私家版]

は



最終回—「新しい伝統」に向けて

をさらなる実踐の世界へつなげたい。

新しい課題や提案が採まれ、生まれる。この熱気

試みも蓄積も、会場の言葉に語られた。揺れながら

が、実は「私家版仕様書」の本当の意味での始ま

りの日なのかもしれない。2年間「わざわざ私たちの

等々、ワークショップ当時は諂ひ上では疎むことの

「この仕様書は誰に向けて書かれていたのかや」「仕

オーブンシステムを目指せ

木造住宅「私家版」仕様書

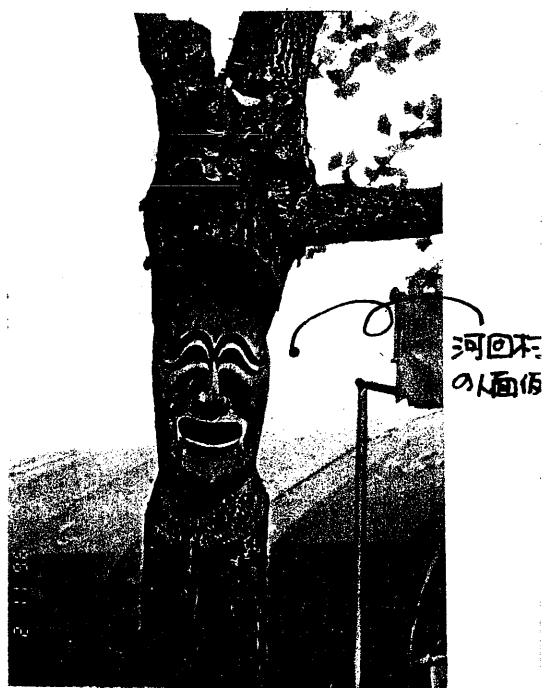
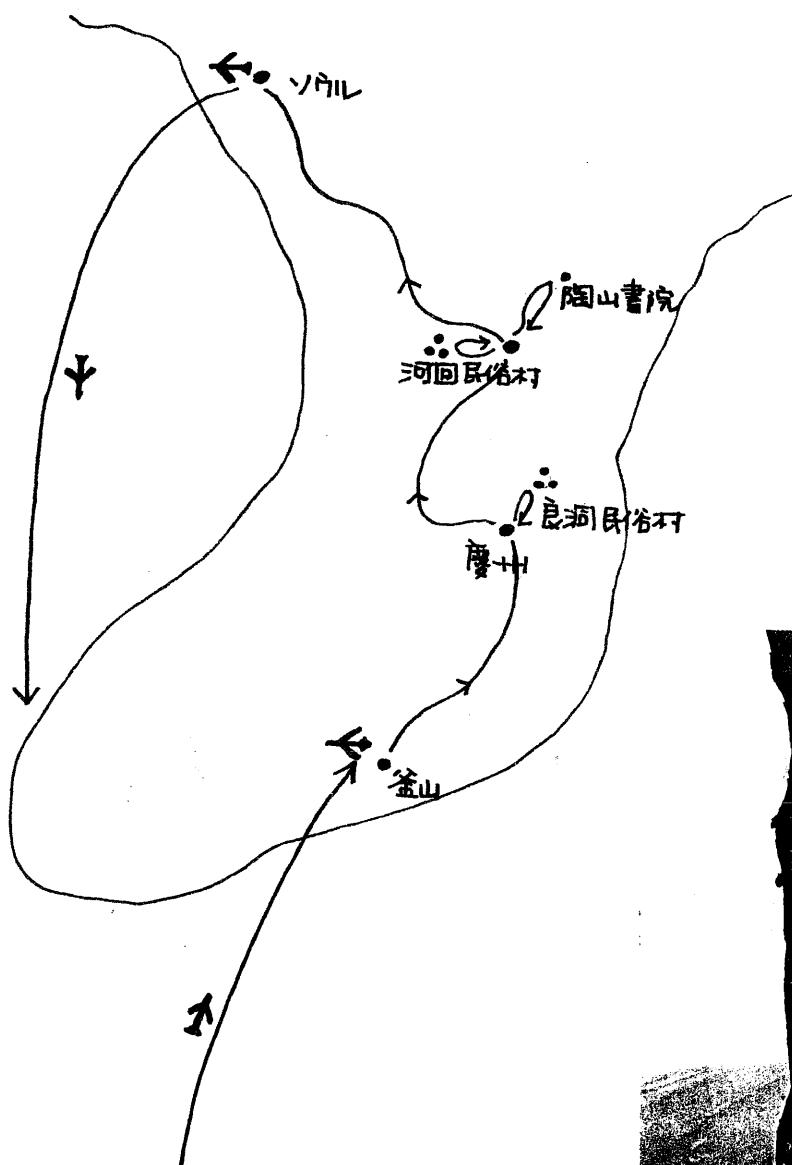
私家版仕様書研究会

*参考文献：建築知識95.02号、95.03号～97.02号連載記事

木村真理子+木村佐近

昨年、11月1日～4日まで、3泊4日の旅程で、慶州（キョンジュ）安東（アンドン）ソウルと、韓国の伝統建築と民家を見てきました。

あいにくの小雨続きで、駆け足旅程にもかかわらず、吉田先生はじめ、韓国通の諸々氏のおかげで、大変充実した内容の旅行で、韓国の風土・建築・国民性・味覚等ひとつおり見て、聞いて、感じさせていただきました。以下は、その報告です。



河回村の石燈籠

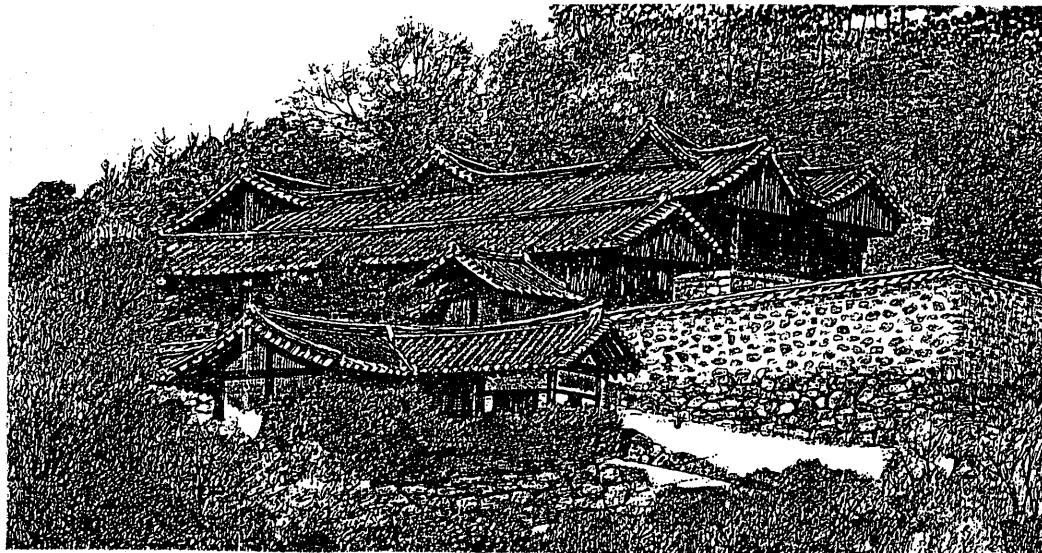
1日目 月城良洞村

釜山、金海空港から、専用バスで一路良洞村へ。

車の手配や、ガイドブックのチェックをしなくても、専用バスが迎えに来てくれ、しかも車内では、旅行社のガイドさんに加え、吉田先生、住建の石川さん、そして、現地で合流の韓国建築が専門の富井先生と、専門家ガイド陣の説明を聞きながらの贅沢な移動。専用バスから降り、小雨降る中、初めて目にする晩秋の村は、人影も少なく時間が止まってしまったようなうら悲しい様な懐かしい様な風景。「天平時代の奈良盆地の風情」とはこのことか、と感慨を覚えてしばし眺める。目標物を目にするなり俊敏にカメラを構え、あっと言う間に次の目標へ移動している同行諸氏の後ろを遅れないように追い掛けながら行く道々に建つ民家を見てみると、草葺きの崩れそうな家でも適宜修理しながら人が住んでおり、牛舎や土塀で囲われた庭には、小さな畠や井戸があり、キムチのかめが並んでいる。唯一タイムスリップ感からもどれるのは、プラスティックのバケツ、電気洗濯機（でも、2槽式）やボイラーラしきものが軒下に置いてあるところか。

2日目に行った河回村も含め、韓国の民俗村は、文化財の指定を受けても人が住み修理しながら旧態の暮らしを守っている姿勢に感心する。

良洞民族村では最初に觀稼亭（クァンガジョン）（現在、人は住んでいない）、2番目に香堂（ビヤンダン）（ぬかるみだらけの上り坂を靴をどろどろにして登ったにもかかわらず、亭主不在で入れず残念。南傾の土地に合わせて南に開きながら段々に屋根が重なっていく姿は、吉田先生の絵のとおり。）



3番目に心水亭（シムスジョン）、最後に書百堂（ソウォペクダン）（孫東満さんの家、御亭主と姑さんを相次いで亡くし、3年間喪に服している最中というにもかかわらず、女性に限っては、内房（アンバン）まで見せていただき感激する。螺鈿細工の嫁入り道具と、今も大庁（デーチヨン）で執り行われる一族の集会儀式の話など、奥様の説明の随所に、今も脈々と引き継がれている両班（ヤンバン）家の直系の誇り、長男の嫁の立場と自負に圧倒される。）

と、いずれも15～16世紀（李朝前中期）に建てられた両班（ヤンバン）（官僚）の家を見学する。

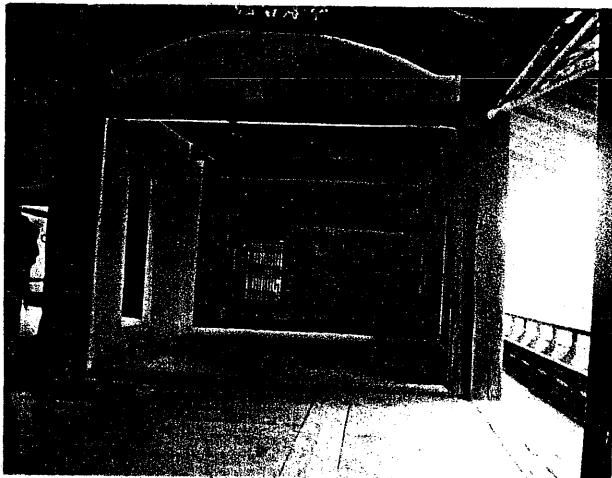
構造は、石積みの基壇の上に四角い束石を置き、一定のピッチで柱を建て、梁をかけた軸組工法。タルキは丸太のままを使い、途中で曲がっていても、ピッチが変わっても良し、のおおらかな造り。大庁etc.の板の間は、天井を張らず、構造がそのまま表されているためか、丸太間をしつこいで塗り固めてある。

壁も真壁造りで白壁だが、柱や梁とのちりはおおらかで、逆に壁の方が柱より出でていたりするところもある。

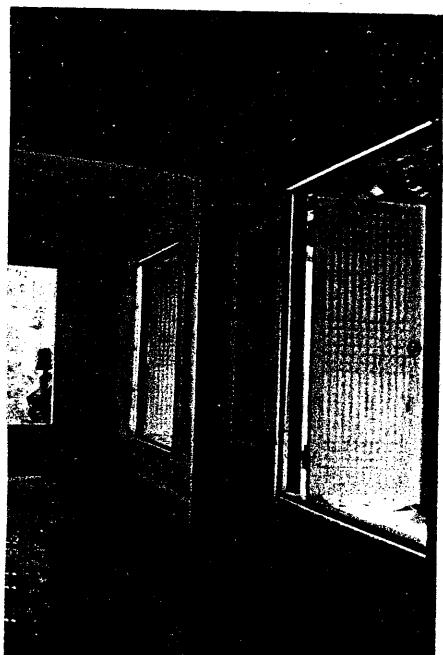
屋根は本瓦葺きで、テントのように両端をつまんで引っ張り上げたような形をしている。木床部分は、大引に厚い床板が同面で落し込んである。

大庁や楼抹楼は、吹きさらしで、建具のないダイナミックな開放的な空間。それに対して房は、天井も低く開口部も小さく、紙でくるんだ建具を何重にも装備している狭小空間。しかし、白紙を壁・天井にはりめぐらせており、思いのほか、明るく閉塞感はない。また、各房の床は、オンドル床で、床下からの一酸化炭素を遮断するため、漢紙を重ねてワニスで塗り固めてあり、つるつるしている。

建具が面白い。紙障子の非常に細かい桟が、いろいろにデザインしてあったり、金具が、原始的だが、大工夫してある。開き勝手がスムーズとはお世辞にも言えないが、開閉の方法も、折れたり、開いたり、また、ハネアゲられたりと、感心させられる。



観音亭の樓抹樓より、舍廊房をみると



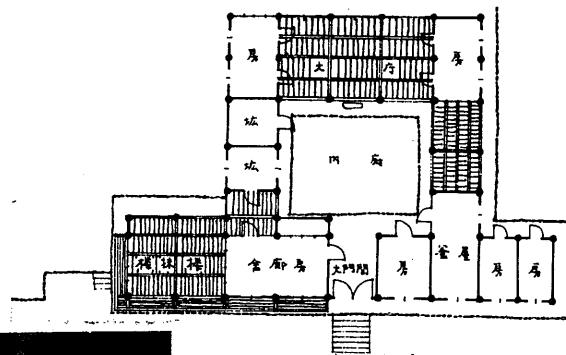
房の内部より
は見えます。

真っ盛りの紅葉と雨の中を歩き回った良洞村に後ろ髪をひかれながら専用バスは、慶州のホテルへ。途中で、夜の飲み会用のお酒を買いに寄ったコンビニエンスストアの周りのアメリカ西海岸の様なシーンと、先程の良洞村のシーンとのあまりの対比に驚きながらホテルに着く。(夜は、恒例、吉田先生の部屋で感想会?あり。)

本瓦をのせた大きな石混じりの土塀に囲われた屋敷内に入ると、まず土石混合の基壇の上に大門(長屋門)があり、正面に、何もない内庭と、内庭を囲んで大厅(デーチョン)(儀式のための広間)、房(パン)(個室)、拡(カン)(倉庫)、釜屋(プオク)(釜場)が目にはいる。これが内庭に開かれた主屋のほぼ全望で、一番入口に近い見晴しの良いところに主人の接客や遊興のための楼抹楼(ルマル)がある。

また、両班の家は風水によって成り立っているため、ゆるやかな南傾斜の土地に建っていることが多い。

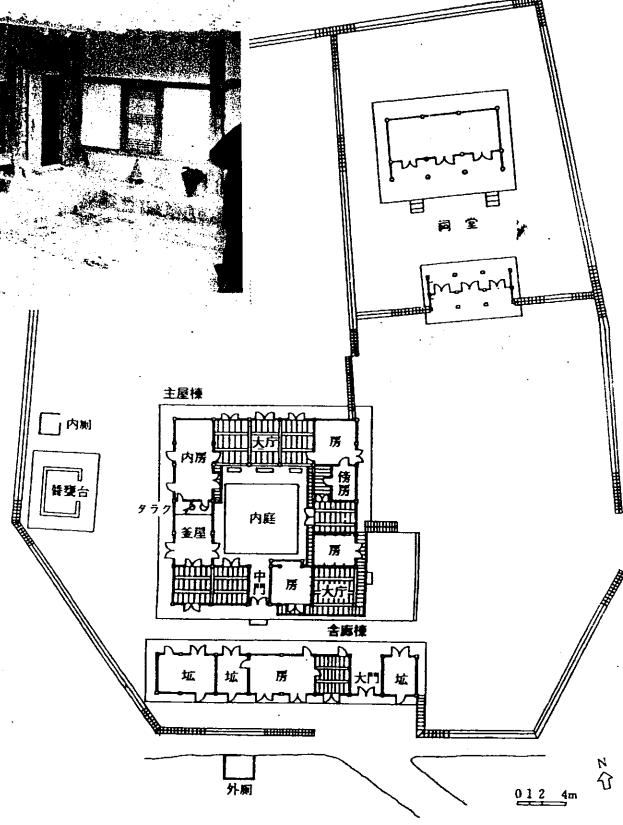
敷地の東北の奥の、高い眺めの良いところに、先祖をまつる祠堂(サダン)がある。



觀櫻亭のフロア



觀櫻亭の大廳を見る



孫東満氏住宅

書白堂のフロア

2日目 河回村

朝。旅程だけではモノならない有志は、2グループに分かれて、昨日の良洞村と石窟庵へ行く。その後、専用バスで安東近郊の河回村へ。

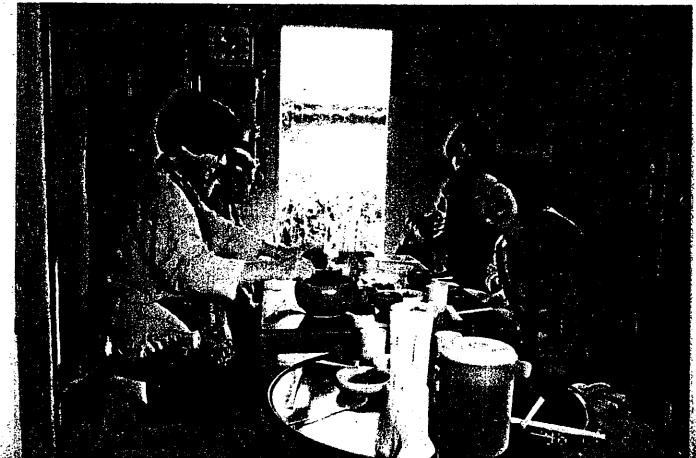
慶州から安東への道のりには、セマウル運動で建て替えられたというカラフルな2階建ての家が点在している。(今は、温水式オンドルのため2階建てOKなのだ。)

河回村の方は、良洞村より密集した集落で、いかにも民俗村という感じがする。河回村の土塀は、良洞のそれが赤土に丸石を混ぜて積み上げていたのに対し、平瓦を土の間に水平に積んだもの、ナナメに積んだもの、石の密度の大きいもの、小さいもの、とバラエティに富んでいる。

忠孝堂(チウンヒョダン)を外部からのみ見学し、その後、養真堂(ヤンジンダン)を見学する。(長屋門を入って、中庭に入ると、真ん中にナツメの樹が植わり、キムチのかめが大小並んでいる。また、大庁(デーチョン)には、採ったナツメの実が干してあり、今様にアレンジして暮らしている様子である。空間的にも、基壇でレベル差をつくったり、高床(中2階)の物置や軒下を通る廊下があったり、楼抹楼(ルマル)の屋根も太い梁を使うことで大きな空間を確保した入母屋の架構に工夫が見てとれる。)

その後、渡し舟で河を渡り、対岸の丘の上から河回村を一望に見下ろす予定であったが、舟こぎのおじさんが、昼酒していて動けないため急きょ中止。なんといふ加減さ。のんびりしているナア。

あきらめて、また来た道を引き返し昼食ということになったが、ここで出てきた「トンドンチュ」と言うお酒がとてもおいしく、皆元気を取り戻す。



河回村を後にして、専用バスは、安東市内を通り過ぎ、つぎに、陶山書院(儒学者 李退渓の学問を伝える私的な学校)を見学する。

陽もとっぷり暮れて、安東の宿に着く。むらさき色の照明が光る場末のバーのようなホテルだが、初めてのオンドル体験は、なかなか快適。窓を開けていても本当に暖かい。

夜は、安東の街中に繰り出して、市場見学したり、現地の女子学生と成り行きの親交を深めたり…。

3日目 ソウル

朝、安東市内の用の家(李氏宗宅)を見学後、専用バスでソウルへ。バスの運転手が気を利かせて国立公園の中を走るルートを選んでくれたため、景色は良かった（？…報告者は、ずっと寝ていたため、不明）が、ソウル着が大幅に遅れ、期待していた秘苑の見学はお手上げ。残念なことひとしきり。その代わり、宗廟(チョンミヨ)をゆっくり見学。そして李朝時代の面影が残る市内を、そぞろ歩き。古い都市型の民家の様子をかいま見る。途中、金寿根氏のアトリエにも出くわした。最後の夜は、コリアハウスで、韓定食と言われる宫廷料理をいただき、古典芸能を鑑賞して、一通り観光気分も味わう。その後、各人最後の飲み会。2次会、3次会の人もあり。

4日目 ソウル

各自、ショッピングやタウンウォッチングに繰り出し、各人、フィルムと本と食材をみやげに午後の便で帰路につく。

FIN

● 蛇足ですが、ちょっと感想を (木村佐近)

韓国には、両班(ヤンバン)と呼ばれる武官・文官(官僚)と、農民との2つの身分しかなく、私達の訪れた両班の家は、儒教の教えを明確に空間化していました。

すなわち

○家族主義

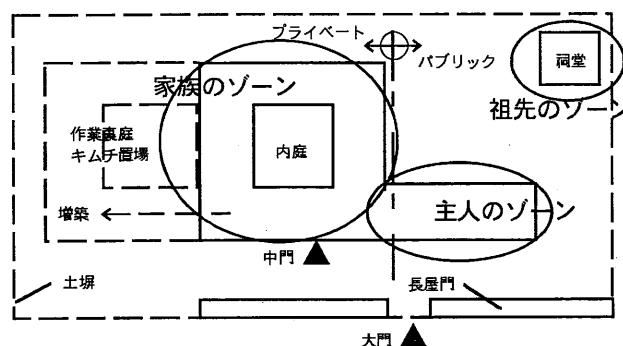
--- 大家族で住む

○年功序列

--- 年上・目上を敬う

○男女分別

○祖先を敬う



を空間の序列に置き換えています。

家全体は、外界に対しては閉じられていますが、内部は内庭に向かって実に開放的な大厅(デーチョン)の板の間と廊下でつながり、オンドルを備えた気密性の高い房(パン)(個室)が配されています。そして、感動させられたのは、これらの空間が、平面的ではなく石段や棟同士の床レベルの上げ下げによって、立体的に構成されて、ヒエラルキーに富んだダイナミックでメリハリのきいた住空間を形づくっていることです。微妙なレベル差と棟配置により、立つ位置によって、住居内風景は、見通せたり、見透かしたりと、様々な顔を表します。大家族がこの中で、お互いの気配を感じながら、長い年月を生きてきたことが、伝わってくるようです。

時代の流れに伴い、韓国も都市部を中心に、価値の多様化や核家族化が進み、儒教の教えも弱まりつつあるそうですが、大家族が、秩序ある関係を保ちながら、ダイナミックな住空間で開放的に暮らす韓国民家を見て、昨今の日本の、床段差なし、手摺だらけ、重装備バリアフリー住宅での年金生活…などは、少し、方向違いではないか、と感じながら、晚秋の美しい村々を後にしました。私達が置き忘れてしまったものを、久しぶりに目にした妙な安心感と親近感ときびしさを思いながら。

残影哀悼

吉田桂二

昔の韓国の建築を見てまわると、

これが日本の建築の原点を定めた存在なのだという、われらに共通する要素の多さに眞付くことだろう。

そしてそれらは、遠い過去へといざない、醉わせる。

過去を甘く感じられるのは、遠い過去ゆうこと、

記憶に残る過去は決して甘いものではなかつた。

しかし今、美しく修景の進む民俗村にふれると、

それが美しくなることを喜びたいと思う反面、

現代のこの国がそれと無縁なものになつてあることを、どうつないで納得したらよいかに苦しむ。

伝統的な韓国の食事と芸能を楽しむ、

コリアハウスもまた外国人のための施設なのだろう。

伝統的なものは観光資源としてのみ手厚く保存される。

この國の人達はそれに何を想うのか。

美しかつたこの國の残影だけを見るための旅。



自然のままの大小の石を塗りこんだ土塀が、赤土の道に沿ってゆるやかに登っていく。日本と同じ風情で咲く野菊。温突の煙が霧雨の中を静かに上がって、周りの木々にとけこんでいく。慶州から少し離れた山里、良洞村の風景は平安文学の中へ入り込んだようで、身にゆったりとしみこむような情趣があった。

中門を入ると、内庭を介して閉じた空間と開かれた空間が展開している。閉じた方は房、温突の部屋である。開かれた方は大庁、内庭に向かって開放された板の間。内庭に面した部分には、建具はない。気候の良いときは、ここで食事をしたり、家事作業をするのであろうが、寒い冬などはどうの様に使っているのだろうか。屋敷全体、良く手入れがされている。内庭には草木は1本もない。家族空間にある庭だが、日本の中庭にある気楽さはここからは伝わってこない。

書百堂（孫氏宗家）と呼ばれるこの家は、李朝前期に建てられた。すると、600年近くもここでの暮らしが続いている訳だ。最近ご主人を亡くされて、3年間の喪に服している孫夫人にお会いする。儒教の思想にしたがって、家の伝統、しきたりをしっかりと守り維持していることがうかがえる。白い袴姿^{チャマ}で開け放たれた大庁に立つ姿には、孫氏宗家の守り手としての自負と誇りがあった。

安東市では、数人で夜店をまわっていると、韓国の婦人から声をかけられお宅に招かれた。1、2階貸店舗で、その上が住宅となっている。居間には暖炉がしつらえてあり、寝室は温突であった。韓洋折衷である。

夜遅くではあったが、ご夫妻と共に親しく歓談した。その折り、夫人が大事そうに傍から一冊の本をとりだされた。「柳宗悦」の本であった。夫人の名は柳乙桂さん、同じ柳姓である。宗悦の先祖もこの地の出身ではないかと言われた。韓国人から敬愛されている日本人は、3人いるそうだ。そのうちの1人が宗悦である。それにしても、日本人が敬愛している韓国人の名を即座に言えるだろうか。

夫人は女性団体の会長を引き受けたり、河回村周辺のリンゴを世界に宣伝する役をかってたりしている。自由闊達な方であった。一言、二言の交流でも、あるのとのないのでは、その国への理解度が大きく違ってくる。今回の旅は、そこで生活している方との出会いがあり、貴重な機会を得た。

最後に、ソウル市を南から入るルートが素晴らしい。豊かな流れの漢江、その川面の向こうに広がるソウル、風水地理説により造られた都市、その景観は強く心に残った。

浅川 淑子

慶州郊外の良洞民俗村の看板家（人々が生活したまゝ保存）を訪ね
歩く。時に、ふと手にした小トロピカル（新刊案内書）に建築。
車内音らしい音影が走る。同行土井先生とT先生がT先生
に示し、本に丸印が付けていた。

T先生はYウル市街に、最近オープンした新宿喫茶店の5階に
広大な床面積を誇る喫茶店があるから、他の看板も声色付けて御案内
しようと約束していた。

それで、最終日の夕刻、私は勝見坂を下りてT先生の研
究室の方へ向かう。その書店に行き、建築書コーナーを中心とした韓國
建築文化に関する本探しを終らせておいた。

先の新刊案内に載っていた二冊の建築技術史を良かずか。
『韓國建築大系』の一冊で『木造』（張起仁著）編の内容が、伝統
建築の技術に多くの図版が豊富で興味深い。

何冊かでは「建築」を「건축」（Köncchuk）と書くが、二十二合目
た「建构」の語を解体すると（？）大工が「（サジガキ）」で建てる
の訳で、さすがに中國では漢民族がたゞ感心し、日本を吉田
先生に伝えると師走微苦笑せられた。

益子 昇

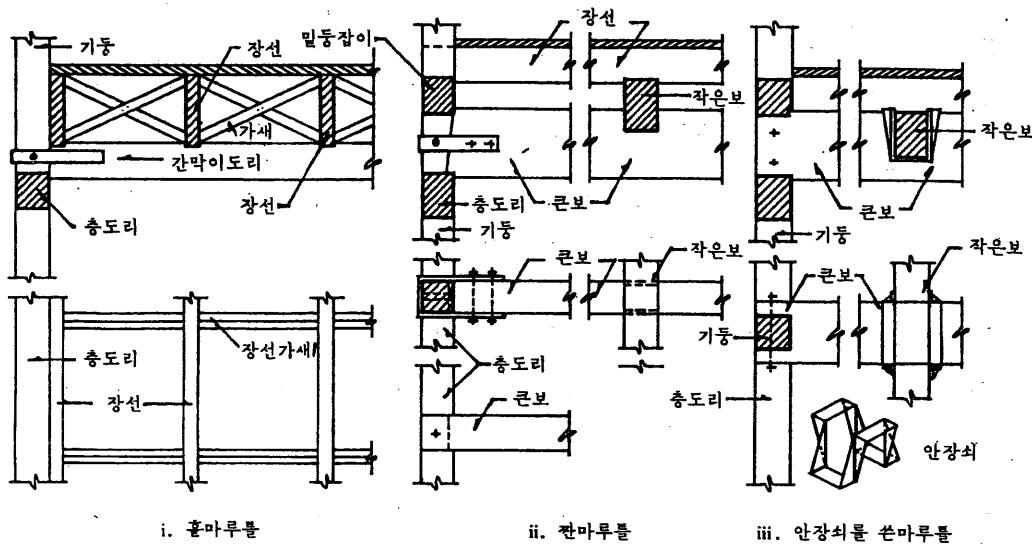


그림 10-4 각종 상층 마루틀

10-2-3 우물 마루

대청이나 마루간의 전후기둥에 장귀틀을 건너지 않고 거기에 직각으로 동귀틀을 걸은 사이에 짧고 넓은 널을 끼워댄 마루를 우물마루·귀틀마루(耳機抹樓) 또는 고물마루라고도 한다. 우물마루는 지층(地層)에서도 쓰이고 이층 누마루에도 쓰인다. 따라서 이층에서는 장귀틀이나 동

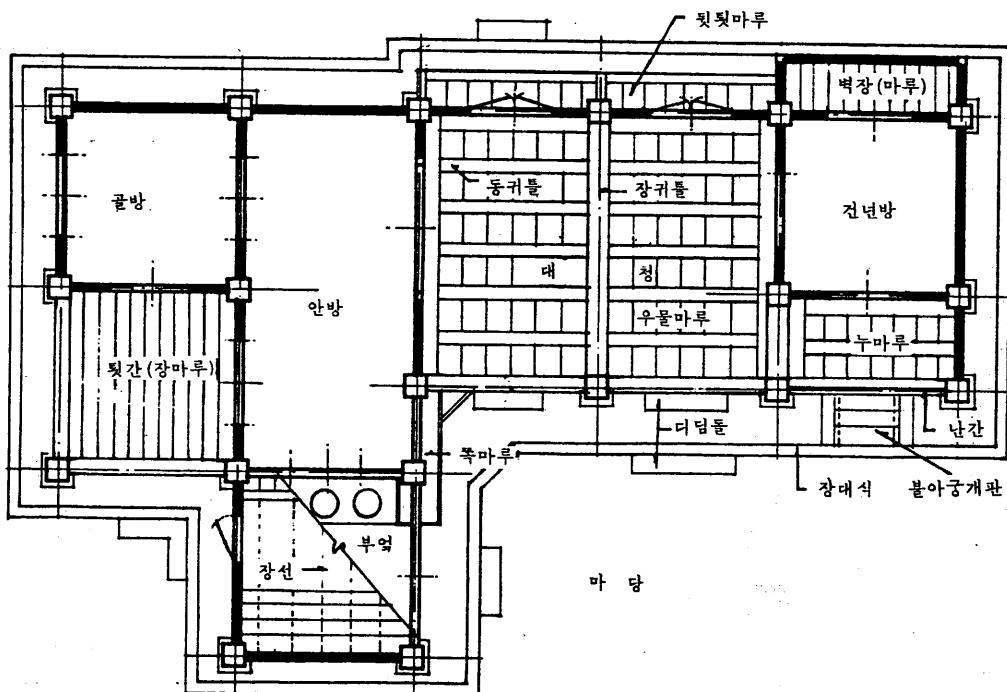


그림 10-5 주택 우물마루(대청)·장마루 평면도

土、木、紙。それぞれの素材の持つ味がほんのちょっとわかつた気がした。

特に、緩やかに湾曲しながら延びてゆく土塀は、何とも言えない暖かさがあり、村を散策していると何だかとても穏やかな気持ちになった。

田島美沙子



韓国旅行記

伊東多津子

今回の韓国旅行は思うところの多い旅でした。

良洞村にはバス停から離れていた。ピーンと3張って並んで空気の印象は格別でした。黄金色に輝く田んぼの稻穂（どうにあんぽは）（金色なのですか？）から、印もやかに油緑を描いてのはるかなる道、そして土塀、散在する家々、大山に熟した柿の実、色々な木々小高い丘へ続く秋一色の景色、犬も猫も鳥たち、人々の音や声、全て自然ひとつ、ついで歩く人々の姿が景色の中に溶けこみ、「ゆくりと時が流れます。

大きながめが並ぶ中庭に面して房の窓から白いティゴリを着たおばあさんが言ひかける。玄関には昔田舎の家で見た初月曆が吊られ、なつかしいがまごや手である。オトル。焚き口の大さはばべ、簡素で力強い民家が、いや生活が、えんえんと今も生きている。

ついでソウル。近代的に行き中世が残っています。人々の流れの中には椅子を差し出し、"チニニ、チニニ"といひかけ(?)大声で手をひかりる貴婦の朝鮮婦あはさん。ほんとうに顔には大きな豚の頭がありあらる朝鮮婦とうかうらの赤い髪。あの市場は近代化の波にいつまで抵抗しつづけていたのか。

今も厳然と人々の生活の中で見つめられるあのリズム。ふつてしまふ色、高い品格と誇りが伝わってくる。素晴らしい。

ふと故郷に戻ったとき、何がかい、リズムも、色彩も、音韻も、聲も、

「一番近い国」

韓國

「韓国は一番近くて、だけど一番遠い国」と、言った人がいます。これは、距離的には一番近いが二国の間に横たわる悲しい歴史が日本と韓国を遠ざけているという意味でした。在日韓国朝鮮

人の人々について書かれた本を読み、日本に住む60万人の人々が彼の国の伝統を守り苦労をしながら暮らしていることを知りました。そして日本に対しいつもナーバスな反応を見せる韓国人達を新聞紙上でみるにつけて、両国の確執がまだ終わっていないのは仕様が無いことなのだろうと思っていました。一方で、日本にはフランス料理屋の何倍もの朝鮮料理屋があり、それにも増して沢山の日本人が気軽に韓国を訪れています。彼らがどういう気持ちで出掛けて行くのだろうかといつも訝しく思っていました。というわけで私は韓国に対しては頭でっかちそのもの。好きとも嫌いとも言えない複雑な感情を抱いていました。それで、これはもう行って見てくるしかないと思いこの旅に臨みました。たった四日間とはいえ、書物や映像ではない生の韓国に初めて触ることができました。そして思いました。やはり韓国は日本にとって名実共に一番近い国であろうと。紛れも無く日本は朝鮮の延長線上にあるのだと。まず、顔つきが同じ。ファッショングが同じ。頭を下げてお辞儀をするのが同じ。紅葉狩りで交通渋滞が起きるのが同じ。毎回の食事でご飯とお汁を食べるのが同じ。現代人がアメリカかぶれしているところが同じ。床に座って生活するのが同じ。田舎の農村風景が同じ。うどんが同じ(麺と汁が同じ、おまけに薬味はネギと揚げ玉)。あげればきりがありません。勿論違うところも少なからずあるのでしょうが、それは日本の中でも九州と東北の風土が違うように、地域差の範囲での相違に過ぎないような気がします。大きな目で見れば韓国と日本は世界の中でも年子の兄弟のような存在だと思います。共に中国を親にもち歴史を歩んで来たのですから。私にはむしろ、彼らが話す言葉の意味が理解出来ないことや目につく看板がハングルで書かれていることの方がなんだかS Fの世界にいるようで不思議な気がしました。逆説的ですが、以前に訪れたマレーシアやベトナムでは日本と似ている料理や習慣を知らず知らずのうちに探しているのに対し、韓国では違うところが見えると意外なかんじがするという具合でした。

安東(アンドン)での夜、日本語を学んでいるという若い女性二人と知り合いました。居酒屋の狭い座敷でトントン酒を飲みながら、肩寄せ合ってカタコト日本語の彼女たちと話をしたのはとても楽しい一時でした。短い時間ですぐに打ち解けられたのは、なんとなく顔も私と似ているしきっと血が近いのだと一人納得しています。懐かしい土地に戻ったような心地よい四日間でした。そして、今まであちこち脈絡なくたずね歩いた外国も、日本から連綿と続く隣の隣のそのまた隣の国々なのだということを知った旅でもありました。

勝見紀子

桂今春

桂





大久保 歩

自分にとって初めての東アジア
(韓国) 旅行でした。本の知識
として日本のルーツがあると知
っていたのですがそれ以上に同
じ物、言葉があり驚きました。
次回はもっと言葉・文化・歴史
を覚えた上でもっと韓国の魅力
を味わいたいと思いました。

大久保 歩

陶山書院

ラーメン チュセヨ

岡部 麻美

家を見ると、ほとんどが赤松で作られている。そして今、日本でも騒かれている風水が、関係しているのか古い家には、庭木として必ずといっていいくらいに植えられている木がある。ビャクダンとエンジュの木がそうだ。
本当のところはわからないまま帰国。

最近の木造の家がないが、古い民家の建築自体は素晴らしいと思う。これから日本の住宅づくりにもこれが、キーワードとなるのではないか?それは、実践あるのみ。

食い物いまいちだが、酒はうまいし、ねえちゃんきれいだ。もう一度行ってみたい韓国だ。

(聞き書き 義姉)

3月4日、韓国研修旅行へ出会い～

まず、感想を述べさせて丁度前に 今日の旅行に向けて企画から案内、ご指導頂いた、吉田先生、石川さん、現地で会流した神奈丈翁の先生へ心より深く充実した旅に参加させて頂いた事を深く感謝申上げます。さて、昨年11月初旬、木々は紅や黄と、田には、黄金の稻穀と共に衣袴の頃、日本より1時間強の韓国の奥地に、降り立ち、あいにくの雨と、流暢な日本語を話す美しいガイドさんと“韓國風のり巻”的に成り出迎えられスタートしました。（あいにくの雨も後々には、通常乾燥して、ホコリっぽい景観に異行せず出し雨の韓国を見る事が出来、幸運の雨となつた。）

今回の旅行は慶州・安東・ソウルとそれぞれ時間の流れの違う3都市を巡り、その土地ごとに産、価値の基準より現れる風景に人々の関わりを通じて触れる事が出来たにござつた。

良洞村での伝統的なつくりの家々と昔ながらに自然と共生する生活の残る集落で“家”を見学させて頂いた貴族の婦人に近年、ご主人と、お母様を亡くされた最中、婦人のお部屋に（オヌル床）迎えて頂きいろいろな質問に親切に答えて頂きました。聞かれる、生活や家族等の話題を聞く事が出来ました。

そして、土蔵が達並が河回村での田舎料理の昼食の時、日本語を話せる中年のおじさんから「今の人達は、田舎料理を食べなくなつたのが…最近になり、美味しいのに健康食品もあり見直されている」と話してくれた。

陶山書院では、きっちりと達並がそれぞれの建物のつくりは、例れば、曲がった丸太の垂木をそのまま生かし人の手でうまく調整され尋を加えられて整然と立ち並んでいた。そして韓國の文化より産まれた教會に深く感動を覚えました。

ソウルでは、名物である交通渋滞の中“NICE DRIVING TECHNIQUE”（シムトコスター＝乗るほうは止む）大都市を走りました。宗廟では、結婚用に貴族の民族衣装を着て撮影しているカツブリや、スリーモデルのおうな装いの女性達と併せ、コリア・ハウスという宮廷料理と、古典芸能の公演付きのレストランでは、日本でいう懷石料理のような美しく美味しい食事と藝術性の高い極めて美しい舞台に韓國のイメージを手で改め、南大门の市場では脈々と流れる血を感じソウルでは、様々な物事が

共存し息づく慈溪山の千ヶ峯へ出会いました。

T-TBなどの都市も通じて、人々は昔のすばらしさを再認識し誇りを忘れず“未来につなげ”を行ふと（保存・創進）して、姿が国境を越えて“ハ”打たれました。そのうちみすばらしい出会いで巡り会えた旅行でした。（END）

石川一浩子

韓国 バスの旅

鳥田真弓

2度目の外國旅行でした。

日本に帰ってきて少し寂しい感じで、はじめて外国へ行ったことを実感するようです。 お団は、幕張あたりで海岸の排気ガスとかすみ道路標識を見て、少し寂しかった。

今回は、横浜駅の地下連絡通路の階段を登って、いく邦人のダーフィーと後姿を見た、少し寂しい気持ちでした。

11月の韓国は落葉し始めた雑木林の里山が、ゆるやかなく起伏を描き、平地には田畠が広がり、縁どりのように住宅や店がありました。

色ありは、やわらかく、目に付くような物も見当たりません。看板・ネオンサイン・ゴミ・捨てかねて積みあげてある家財道具、物置・ホームレス……ほとんどの目にかかる、教会の尖った屋根だけが、回りと違つて目立つていました。

2日に渡って歩きまわった良洞村は、雨が止みませんでした。丘の中腹に建つ貴族の館とたずねて、途中にあります納屋が、まさにこのようです。 地ベタの粘土がそのまま建ちあがりにされ、おからほの頃のようなカヤ葺きの屋根が、その上に乗っています。

夫を七くさんで、服装中の夫の部屋にも入れてもらいました。

オトル部屋といふことで、床暖房のよろづでした。

螺旋の階段、低い天井の上にTV だけの簡素な部屋ですが、村の長老未亡人としてのほんりを支えに、多くの責任を果して暮らしていますと通訳を介しておしゃって下さい。

「でも、本当に言いたいのはあの」と目が苦しく、口ぶりに思ひだされたのです。
おじけでしゃうか?

ソウルの街中を歩いて、宿の中から話かけてきたあはあさんにもうた
ナツメの実 どう料理すれば良いのでしょうか?
??この旅行でした。お世話を下さった方々に感謝します。

見学をはじめてから小一時間もたっただろうか、入り口に向かって階段をおりていくと、下から昇ってきたおじさんが右へ行けと合図をする。何のことかわからぬので私のことではないと思い、そのまま進んでいると、擦れ違いざまに、右へ行けとまた合図をする。右手を見ると小さな木戸があり、見学者がそちらへ進んでいる。何だろうと思いつつ、入り口をみると閉まっている。“もう見学時間はお終いだよ、出口はあっち”といっているみたい。安東から車で少しいったところにある陶山書院。大儒学者李退渓の所縁の書院。退渓の死後、彼の学問を学び伝えるための両班の私的な学校。山の斜面に沿って点々と小さい建物が並ぶ。風水の思想によって、前に川を、後ろに山を背負う位置に建物は建つ。地の材を使い、曲りのある材はそれなりに、角の落とし方もすくなく、材を最大限に生かす使い方をしている。模様の付け方も、まがった材にそって自由におおらかに、それなりに描かれている。自然と木と人間とが一体になってしまったような気がしてくる。

韓国へきて二日目。慶州の月城良洞、安東の河回村と二つの民俗村を見学したあとで、私の肩の力もだいぶ抜けて、リラックスしている。もっとゆっくりしたかったのに。

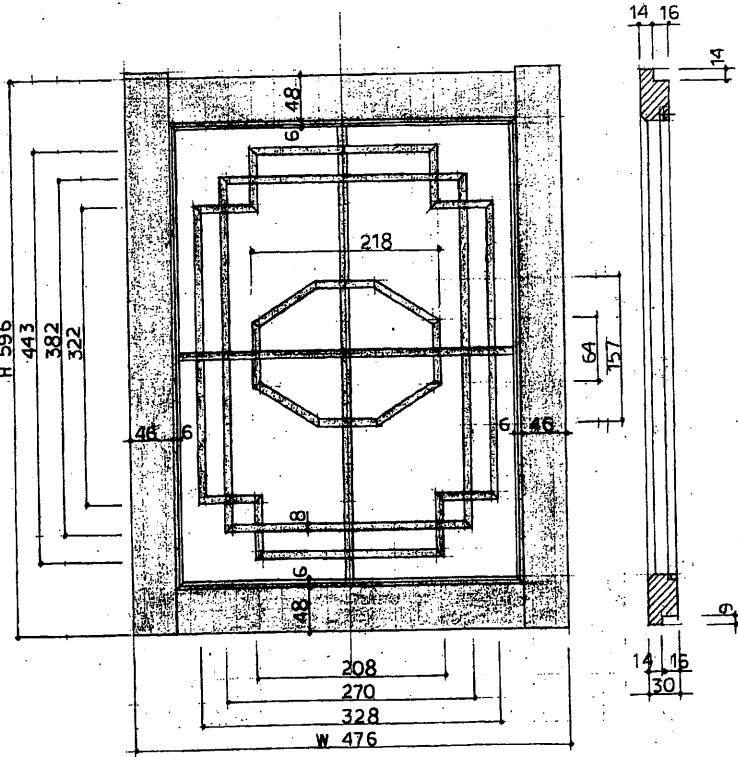
退渓を偲び、弟子たちに因って建てられた典教堂は、当時の書院建築の代表といわれている。ここで勉強したらお利口になれるかしら。

(石川正子)

僕は韓国の旅で捨ててあった建具を拾ってきた！

日影良孝

拾った建具実測図



行ってみたい所は沢山あったのに、初めての海外旅行が韓国というのは、行くべき所へ行ったという気がしてならない。父が生まれてから、旧制中学を出るまで育ったところであり、小さい頃祖母によくその頃のことを聞いていたので、何時かは訪れてみたいと思っていたのが韓国だった。

空港に下りると、ハングル文字が目に入った「ワ一日本じゃナ一イ。」と、初めての外国に感激をした。軍用機が一般の空港にあるというのは日本では考えられないことだ。バスからの景色は、昔の日本の田舎と似ており、「地形は栃木県みたいだ。」と同行した義弟はつぶやいた。山には大木はなく、それも大きくない松が多くたったように思う。水田地帯が多く畑には大根、白菜、ほうれん草、ネギと家の畑とも変わりがなかった。

建物は、日本の民家とは形こそ違い独特だが、そこへ入ると生活が想像できる雰囲気があった。日本のように大空間ではなく、部屋がくっつきあって建っている感じでとてもきれいだった。傾斜に建てられ複雑に庭を取り込んでおり、素人の私でさえも設計が大変だったろうと感心する。日本で移築された韓国の民家を見た時は、日本に文化を送りながら、それからの木造の技術の腕を、何故磨かなかつたのだろうかと思っていた。歴史的な背景があるだろうか、日本の民家の裏山には、りっぱな木が沢山立っているが韓国には殆どない、だからあんな風になつたのか、しかし残っている民家の尺からある柱はどうしたのだろう？

近年の住宅は、一時期流行ったというセマウル住宅というのが、かなり見られたが、それ以外の木造住宅は、建設されなかつたのだろうか？ 古い民家を見た後バスに乗り込み、畑の間から見えたのは、マンションの立ち並ぶ高層ビル街であるでオムニバス映画を見ているようだった。

古い民家には、日本の民家と同じように気候風土、歴史を考えた住宅作りが感じられた。しかし今のものは、日本同様「その土地ならでは」のものがなくなり、電気エネルギーに頼った家作りになっているのが感じられた。

元氣で気の利くガイドさんと運転が上手で責任感のあるドライバー、そして現地で合流した韓国通の神奈川大の富井先生の御陰で、楽しく充実した3泊4日の研修旅行となつた。富井先生のグループは物静かなグループ、それに引き返えこちらはこれっきりという位に個性的な人ばかり。同人の尺度で計れば何という事もない出来事も、真面目な？向こうのグループには、かなりのひんしゅくもんであった事は言うまでもない。

今回は東から北の地方を廻った、次は南と西を見に行けたらいいと思っている。

(もう一言) トイレに入ると全部便器が前向き、中には扉のないところもある。面白がって写真をとっていると、邪魔だとばかりにおばさんに背中をこすかれた。やはり、その国の歴史的背景はトイレと人の動作に出てくると痛感。

年が明りまして、寒に入りましたか。今年は例年より暖かい日が多く職人にしてはとても仕事外しやうりめけです。ひも雪にはやりとまうね……

ひ本題です外、梶玉物外把毛上か、たぬけですね。それでも、乙また生なゆけひすから下の台にヒタタリとはり付りこしまってます。ニルも普通にはかして取るヒバ・キン乙なもんじ、こニシ職人技ひ、台をただひて取るんひす。か、力主かせにたたくし。



江戸職人歌合

人倫訓蒙図彙

もちろん梶玉モンは罰れこしまります。ニルも奇麗に取子にわ縫線を用ひみようひすよ。ひ、台からハクリしちり手ひき」と持ち上げ、別に用意しておいた東平らが台の上に置き乾燥させますひす。手ひな所ひなりと物が生立のひくらしこしまうゆけひすね。また梶毛物は梶ひた方だけが密度や方ひのひ・硬化する所に台側よりアゲル。ひよ、こしまりやすく、乾燥しき、乙から通りを見直せまじと便て五かじうか、おめなら一かじですぬ!! あめり。



私の近頃の仕事

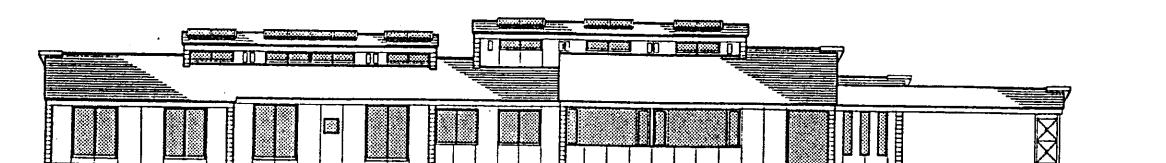
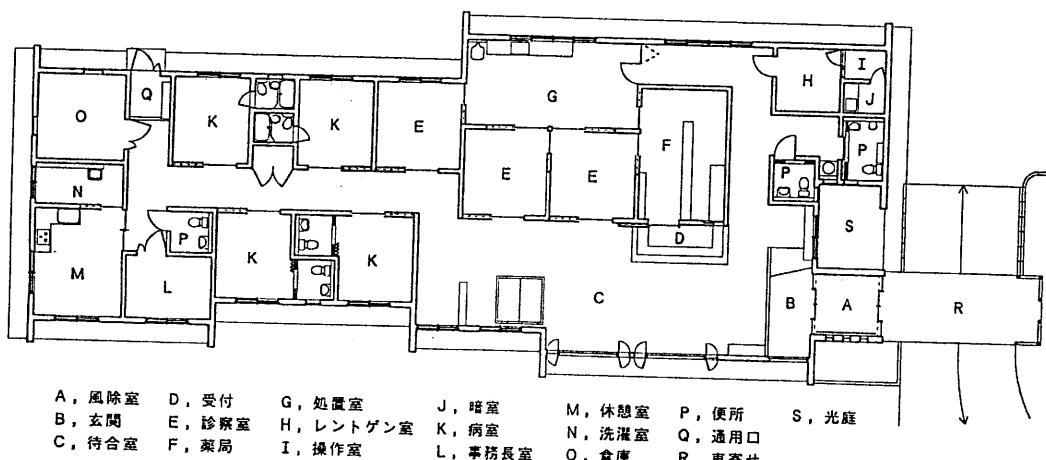
小林一元

今回の会報から、同人メンバーの日常の活動を伝える情報交換の場としてこのコーナーが新設されました。まずはトップバッターとして近頃の仕事のひとつを報告します。

ここ数年は吉田先生や同人の仲間たちと建築雑誌などの出版の原稿に関わり、特に昨年はいくつかの原稿が重なって、本業との時間の配分に苦労しました。今年は本来の木造住宅の設計監理業務に専念したいと考えています。

今回紹介する建物は、住宅ではなく、独立して初めての診療所です。独立してすぐにお話があり8年がかりで95年暮れに完成しました。私も住む寄居町で、施主ご夫婦は開業医を営んでいます。以前の診療所が古くなったのと、長女の方が通いで診察に加わるのを期に、既存の診療所の地続きの土地を求め新築することになりました。建築物概要 用途 診療所
広い敷地を生かして平屋の木造の診療所を提案しました。以前からPACの機械を使わないパッシブソーラーの住宅を設計していて、用途は違ってもその利点は充分生かせると考えて推薦したこの工法も採用されました。

建設地 埼玉県大里郡寄居町
敷地 3032.34m²
延べ面積 365.19m²
建築面積 385.29m²

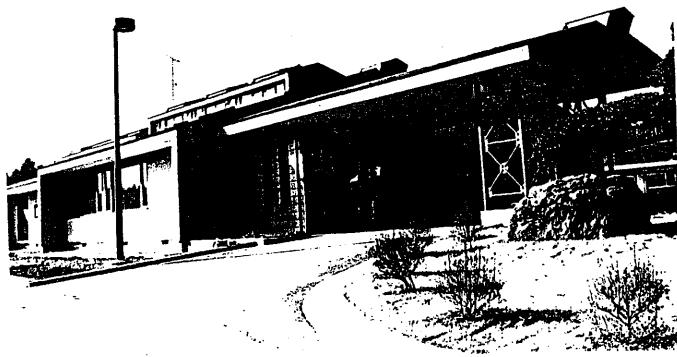


南立面図

この診療所の計画上の特徴は、診察を待つ間も患者が快適にいられるように待合室を南面させ、ボランティア活動などの集まりにも利用できるように広めに計画したことです。さらに3つあるどの診察室からも処置室につながり、患者の動きが交錯しないように動線を計画しました。中廊下や2つの診察室と薬局は外部に面しない間取りで、換気・排煙の為のハイサイド窓と採光のための

トップライトを組み合わせた越屋根を設けています。車で患者を送り迎えするこの地域では車寄せの大きな屋根も欠かせません。PACによって建物内部の温度差が小さく自然の温かさ、涼しさで快適なせいか、開院前から待ち合いにいて長居をする患者が増えたりしているそうです。

事前にコンピュータシミュレーションに拠って通常よりも小さめに機器を設定したにも関わらず、冷暖房機を運転する時間は非常に短く、この建物は同規模の診療所に比べて小さな運転エネルギーコストで済んでいます。



アプローチから見る外観



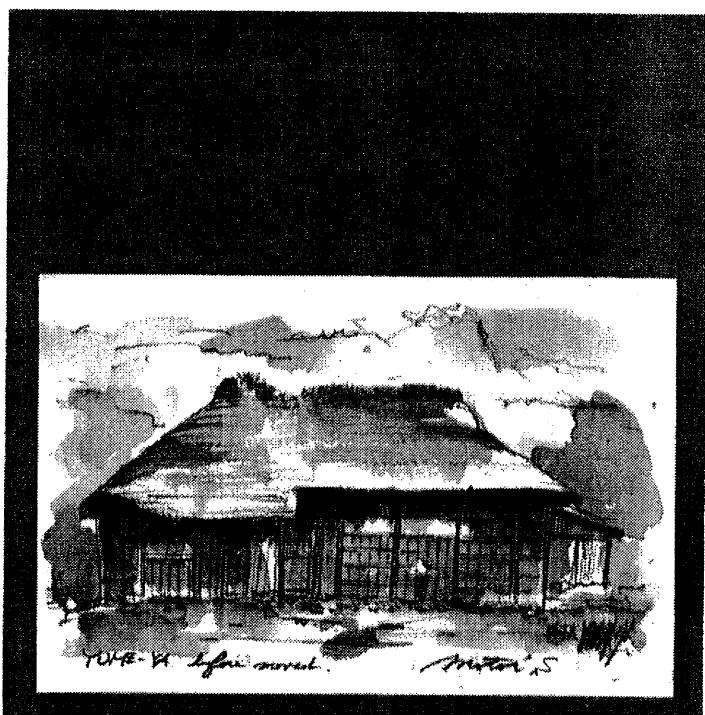
待合室

ぼくは毎日、学校がひけると、自分ちに帰つてもだあれも居なかつたから、夕飯ときまでおばあの家に居た。

うす暗くじめつとした広い土間。その向こにいろいろのある、良くなきこまれてぴかぴかひかっていた十畳ほどの板張りの居間。部屋のすみに小さな茶ダンス。そのとなりにはくの身の丈ほどある、大きな古い柱時計があつて、カチコチ重々しく、くすんだ金色の振り子を左右に振つていた。

おばあの家は、この地方に多い「中門造り」と呼ばれる間取りで、百五十年も昔に建てられた。おばあのおばあ、そのまたおばあがまだ若くて、つやつやとした黒い髪を頭の上に高く結い上げていた時分のことだ。おばあが言つたのは、ついこの間まで馬も同じ屋根の下に暮らしていたそうだ。柱の梁も災難よけの火伏せも真っ黒だった。どの木もいろりにいぶされて、表面が黒いかさぶたにおおわれている。いろいろの部屋の向こうには、いろんな

神様の御札やら「先祖様の位牌のある棚があつた。ぼくは棚の前に立つたびに、思うのだけだ。いつたいこの家には、今まで幾人の人々が住んできたのだろう。二十人か三十人か、あるいはもっとか。この家に住んできた人々は、優しい人たちだったのか、こわい人たちだったのか。しあわせだったのか、不幸だったのか。みんななくなつて、木の位牌だけになつたんかなあ。ずらりと並んだ小さな板をながめると、いつも不思議な感じがした。



あらすじ



ものがたり

(1)

ぼくは、雪国の過疎の進む山間の村に住む小学生です。ぼくには、おばあと父さん母さんが居て、父さんは森林組合で働き、母さんは保健婦として老人ホームに務めています。屋間、仕事で父さん母さんがいないぼくは、おばあの家で赤ん坊の頃から過ごしてきました。

おばあの家は、古いぼろやで、薄暗いじめっとした土間を入れると、いつも囲炉裏に火が燃えています。新しい家がすぐそばにあるとうのに、おばあは、この古い家を離れたがらないのです。ぼくは、学校から帰ると、おばあの家の囲炉裏で、おやつを食べながら宿題をしたり、遊んだりして夕方まで過ごし、夜は、新しい家に帰るという生活をしています。休みの日には、父さん母さんといっしょに、おばあの家で一日過ごすことが、常になっていました。

父さんは、無口で囲炉裏や風呂の焚付けをこしらえたりしているけれど、母さんとおばあは、大根を畑で抜く時も台所で料理しながらも、おしゃべりに夢中なのです。ぼくと、父さんはなかばあきれながら、女たちを見ていました。

秋に冬支度が始まり、いよいよ雪が降ってみると、ぼくら子供は急に賑やかに遊ぶようになります。除雪の作業は、子供にとって楽しい遊びの一つかもしません。大人たちにとっては、そうではなさそうなのですが・・・。雪に埋もれた古い家で、おばあはひとり、相変わらず囲炉裏をたきながら、寒い冬を過ごすのです。

ようやく春を迎える、フキノトウが川べりに頭を出す頃、おばあは静かにこの世を去ります。

おばあの住まなくなつた家は、おばあの遺志で村に寄付されることになりました。ある日、二人の男がおばあの家にやってきて、家をもらおうと話しているのを、ぼくは聞いてしまうのです。

しばらくして、おばあの家が取り壊され始めます。ぼくは、夢中で「いやだ」と言うのです。いつかの男は、おばあの家を壊すのではなく、イチクするのだと、ぼくに語るのです。ぼくは、それがどういうことか分からなかつたけれど、「イチクが完成したら見せてやる」と言った男のことばを信じて、待つことにしたのです。

おばあの家は、ひどいぼろ屋だ。

茅葺き屋根のてっぺんには、ペンペン草がはえていて、ところどころ壁に穴があいていたけれど、それでも家は建っていた。

つい五、六年前までは、おばあの家と同じような家が、山を背景にして、そこそこに、ぽつんぽつんと五軒ほどあったと思う。それが、一つ壊され一つ建て替わり、いつの間にか無くなつていった。その後に、豆腐に目鼻のついたような四角い家や、赤い三角屋根の家、瓦をのせた鶯色の壁の和風の家とてんでんばらばらな、新しい家々が建てられた。

同じ山を背景に見ていているのに、ぼくはもう、前の風景を思いだすことができない。ただ、おばあの家の建つているあたりだけが、かるうじて以前のままだった。

建て替えられた家々に囲まれて、その風景は時代に取り残されたように寂しげに見えたかもしれない。それでも、おばあの家は建つていた。

大庭 桂

木造建築研究フォラム研究集会（小国）報告 「民家再生－坂本善三美術館をめぐって－」

パネラー：吉田桂二（連合設計社市谷建築事務所）

坂本 寧（坂本善三美術館館長）

司 会：立松久昌（建築思潮研究所顧問）

副 司 会：安藤邦廣（筑波大学芸術学系助教授）

昨年（1996年）11月30日、ちょうど季節が秋から冬へと移り変わろうかという頃に、小国町と木造建築研究フォラムとが主催する研究集会が、熊本県阿蘇郡小国町で開かれました。羽田空港を飛び立った1時間半後、熊本空港に降り立つ私たちは予想外の寒さに戸惑ったのですが、さらにその暫らく後には阿蘇の山間道路ではらはらと雪も降りました。今シーズン最初の雪を南国「熊本」で見ることになるとは全くの驚きでした。

私たち一行はその足で坂本善三美術館を訪れ、内部を見学し、設計者である吉田桂二氏と館長である坂本寧氏の話を美術館展示棟内で聞くことになりました。再生民家の本館は空調設備がなく、小雨まじりで気温の低かった当日は、民家の寒さが身に染みるような状況であり、暖房の効いた展示棟内へ足を踏み入れたときは思わず安堵してしまったほどでした。

その日の午後に小国町の「木塊館」にて開かれた研究集会の目的は、「民家再生」にみる木造建築のあり方であり、特に今回の場合は「住まい」としてではなく「美術館」という全く新しい用途へと転用する試みであることから、民家の再利用を超えた深い意図の探求、言い換えれば「民家空間の新たな可能性」について引き出すことを目的としていたようです。司会の立松久昌氏はご存じのように冗舌なお方であり、「この美術館が建設されることになった経緯について…」なんて言いながら、初めのほうは本当に独演会さながらであったことは言うまでもありません。

集会での論点の一つである「なぜ民家を美術館にするのか」という点については、

(1)坂本善三自身が民家をアトリエにして創作活動を行なっていた

(2)小国の風土から生まれた坂本芸術の展示の場としては、やはり小国の風土に培われ

その生活のなかで生まれた民家が相応しい

という2点が挙げられます。この「民家を移築して美術館にする」構想は、設計者である吉田桂二氏に話が持ち込まれる前に、益田祐作氏（坂本善三と交遊のあった芸術家・美術史家）、坂本寧氏（後の美術館長で当時は小国の医者）、そして世田谷美術館長の大島清次氏によって練られたものでしたが、空調をはじめ火災や盗難、壁面の少ない民家空間での展示といった現実的な問題が山積していたようでした。

こうした課題を踏まえて吉田桂二氏の設計が始まりますが、作品のほとんどはRC造の

安全な展示棟に掲げ、収蔵庫も別にRC造（とともに木造置屋根）で設けることで解決を図りながら、前述の大島館長による「民家を本館にするからには展示がなければならない」というコトバを受け、2点の代表作を民家空間内に展示することが実践されました。その方法ならびに配置計画

を含めた設計方法については『住宅建築』（1996年10月号）に詳しいのでそちらを参照していただきたいのですが、ALCの箱を床の間に隠し入れてシャッターを装着し、火災と盗難に備える一方、「ガラス越しの絵画鑑賞は好ましくない」ためにエアカーテンで空気を遮断する方法を用いています。

「民家再生」についての話の中で吉田桂二氏が強く言っておられたのは、「標本」のような静的保存だけでしか民家を残せないできたことへの疑問であり、それは民俗資料館といった類の埃を被ったような保存民家も含まれると思いますが、民家をあるいはそのどこか一部分を創作の素材として捉えるという姿勢に通じるのだと思います。「部分を残すだけの再生というものもあり得る」という言葉には考えさせられるものがありました。

集会のなかで将来の展望について話が及び、初期計画では「山奥の美術館に人が来るのか」といった消極的意見が多く、展示に最小限のスペースを確保したに止まったエピソードが披露されました。そして山奥にあって来館者の出足は好調である、という話に続いて坂本館長は、常設展示と企画展示という2機能をフルに全うするためには少なくとも2種類の展示室が必要であり、展示空間は大きければ大きいほど良いと述べられ、討論の席で宮崎町長にプレーンな別館建設の要望を申し入れる一幕もありました。

小国山懐に何気なく、それでいて存在感たっぷりに構えた坂本善三美術館、是非とも皆さんも一度足を運んでみてください。蛇足ですが、年内に美術館駐車場内に蔵造り風の公衆便所が建ち上がります。昨年春に私が事務所に入って最初に任せられ、松本昌義さんに手とり足とり教えを請いながら図面を描いたものです。美術館にいらっしゃる際は必ず用を足しにお立寄りください。

岸 未希亞／連合設計社市谷建築事務所)



吉田桂二さん設計の「大乗院庭園文化館」が

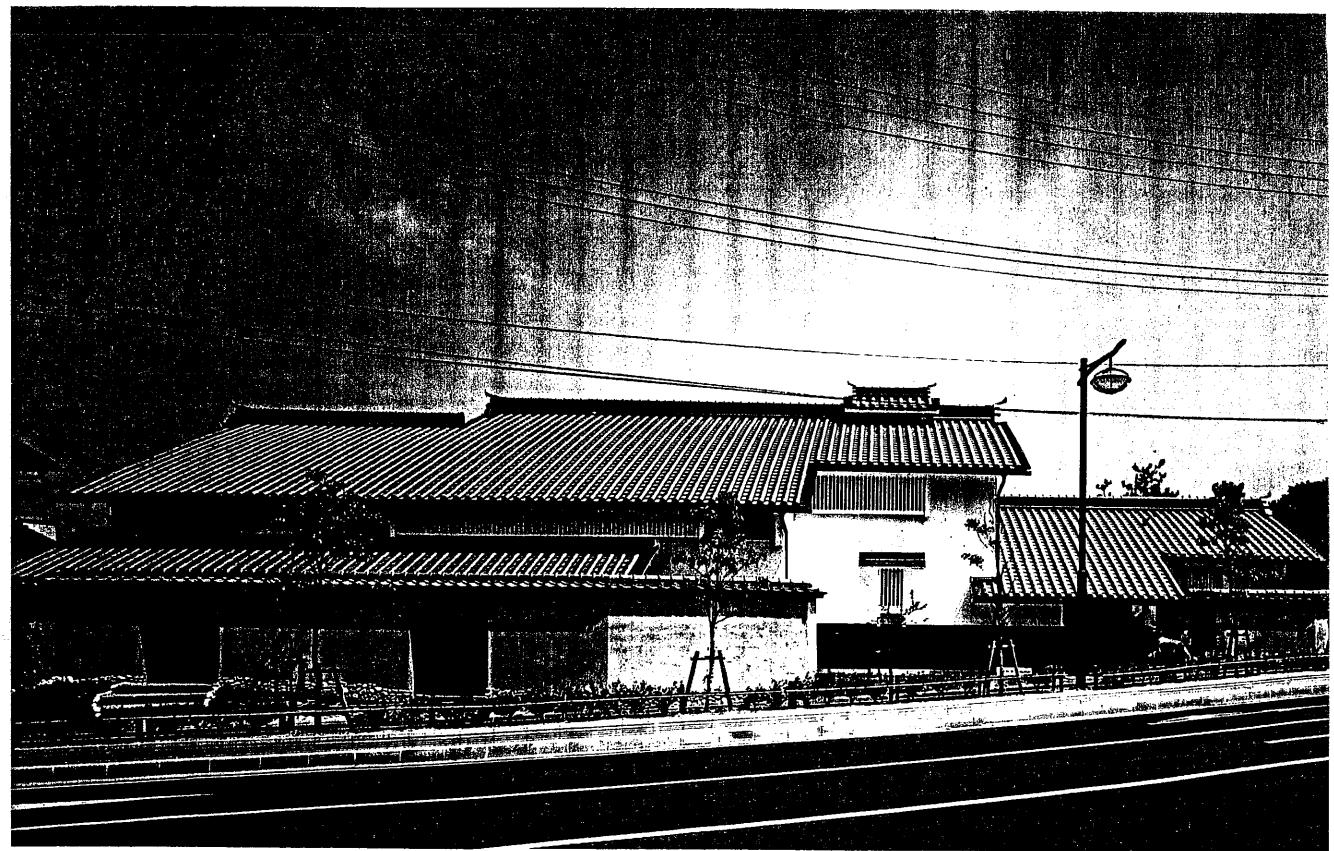
'96第7回 奈良県景観調和デザイン賞知事賞
を受賞しましたのでご報告いたします。

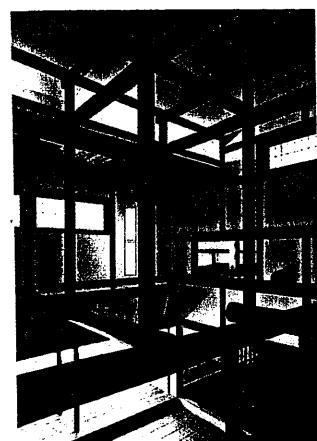
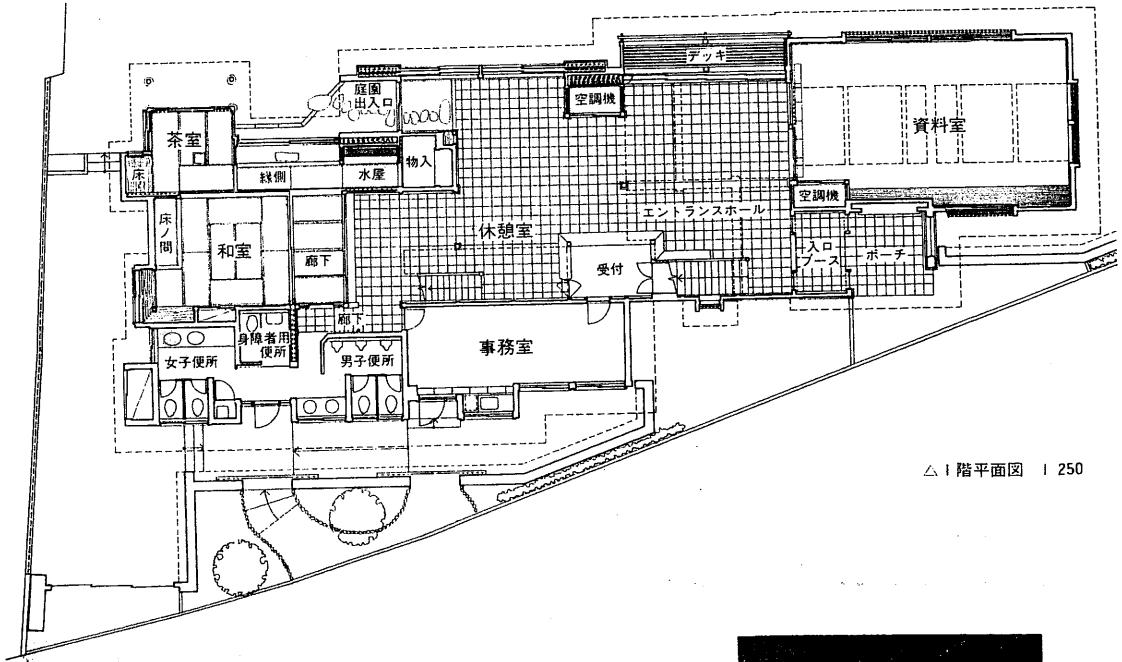
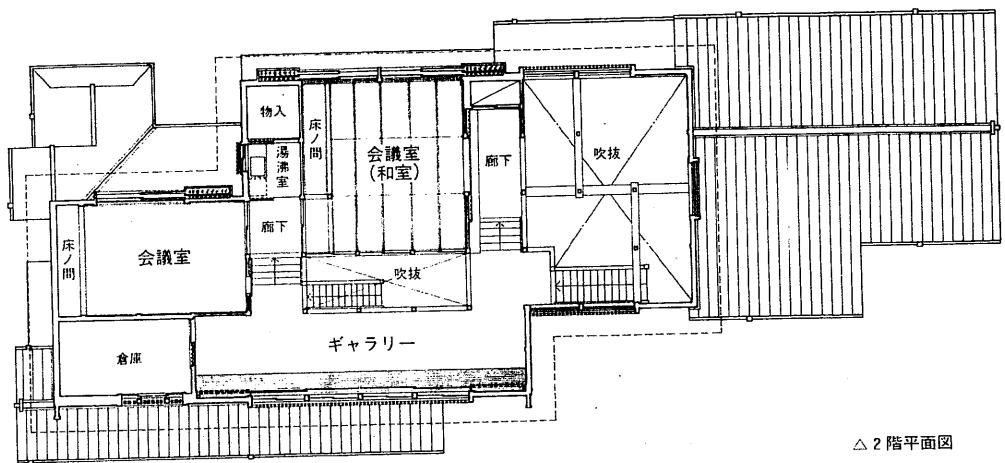
報告者 松本昌義

大乗院庭園文化館は奈良ホテルを望む名勝大乗院庭園（平安時代の寝殿造りの遺構）のほとりに、（財）日本ナショナルトラストの第4のヘリティジセンターとして'96年3月に竣工しました。外観は奈良近辺の造形言語によってまとめられ、内部は地元の吉野杉を多用した木造架構を化粧で露しています。

建物の内容としては、大乗院関連の常設展示室と企画展示ギャラリー、休憩室、茶室、会議室などによって構成され、利用者も多く評判は上々と聞いています。

現在、庭園は整備工事中ですが、建物への入場は無料（ただし月曜日は閉館）ですのでこの辺りにお出かけの際は立ち寄ってみてはいかがでしょうか。詳しくは「住宅建築」96年11月号をご参照ください。





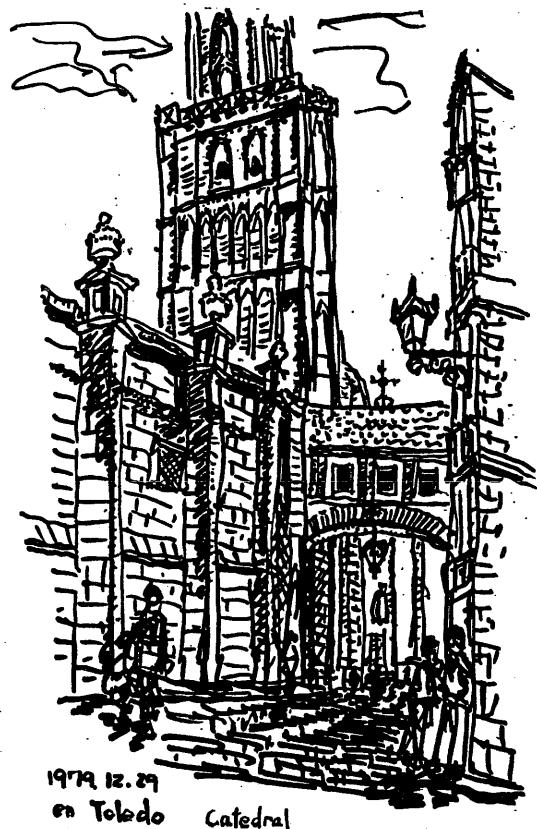
同人紹介：高橋昌巳

プロフィール 1953年 東京生まれ
 1975年 芝浦工業大学卒業
 1986年 シティ環境建築設計設立
 現在に至る

2年前の定例会で「左官仕上げの可能性」というテーマで話をさせていただいて以来、木造建築に真剣に取り組む同人の仲間には励まされたり助けられたりしております。昨年の夏には、家族5人で大平建築塾に参加し、時代のテーマでもある環境共生について共に考える機会を持つことができました。歴史のある民家風の宿で三食温泉付の家族旅行をイメージしていた家内にとって、「掃除と薪割りから始まる生活」は、想像をはるかに越えたものがあった・・・らしいのですが、夜の星の美しさが子供たちを含めていい思い出になりました。

事務所を開いて、今年で11年目になります。独立1作目が肝心とよく言われますが、私にとって、自宅脇の小さな事務所が木造に本当に取り組む始まりでした。青森ひばを仕入れに下北半島へ、土佐漆喰を求めて高知県安芸市へ、天然スレートを見に宮城県雄勝町へ行って素材を確認し、三戸の大工・日沢良雄氏と埼玉の左官職・加藤信吾氏に工事の内容を説明して直接仕事を依頼して、いきなり直営工事で始めました。以来これまで10年間の間に様々な仕事を通じて、木の取り扱い方や納め方、左官の仕事の段取りと表現について、この二人の「先生」に学んだことがほとんどといっていいくらい、多くのことを教えてもらいました。同様に、知り合になれたいくつかの製材所、色土の原土を製粉する作業所、地場の瓦を造る工場、紙漉き工房などで働く方に、建築素材に込めた思いを聞かせてもらうことができました。

素性の確かな素材を使い、経年変化を考えた納まりで仕事を続けることが、必ずしも当たり前でなくなってきた現在、一つ一つを自分の目で確認しながら作業をしていくことが、最も納得のいく方法だと信じています。土や木という素材は、効率や均質化を価値とする現代ではその欠点が指摘されたりもします。しかし、じっくり腰を据えて取り組むと、構法でも表現でもまだまだいろいろな可能性が発見できると感じています。実は、昨年の秋、SDレビュー1996のパーティー会場では



とても嬉しかったことがありました。土壁のカーテンウォールで古民家を包む「土の自由被膜」という提案作品の前で、構造家の渡辺邦夫先生から「技術的な挑戦を今後も続けることを期待します。」と言つていただいたことです。勇気百倍・この一言で、今後も土や木との格闘をしばらく続ける元気が出てきました。

こんなスタイルで仕事を続けていると、雑誌などを見て30歳前後の元気のいい人が何人が依つてきています。その一人で、昨年まで木曾上松で林業の仕事に従事していた下本晴夫さんは、林業の延長にある大工になる決意をして12月から青森の日沢さんのところに弟子入りしてしました。現在、道具作りから初めているらしいのですが、あせりを感じながらも充実した毎日を送っているそうです。岩手大学の大学院を出たので、知人が多い盛岡で将来は独立を考えている好青年です。ちなみに奥様は桶を作る職人をされているそうです。

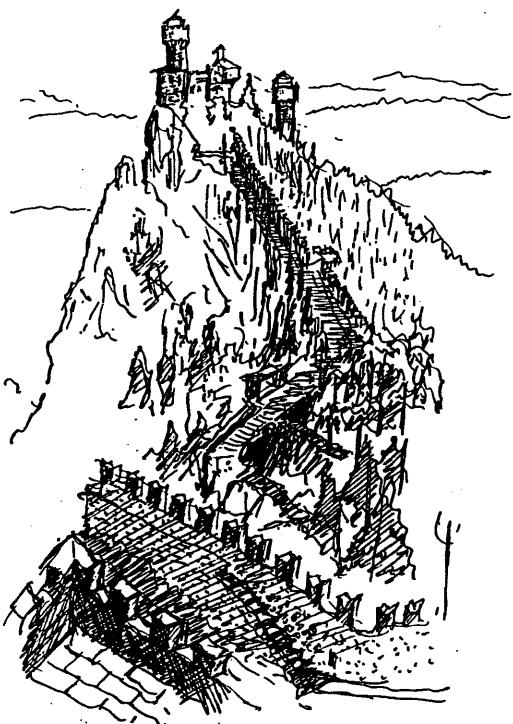
写真家・橋本史一氏のパートナーの佐野紀美子さんは、イギリス家具の修行から帰国し、稻城市の工房で家具作りを始めました。材料の入手や仕事の開拓など悩みを抱えながらのスタートですが、写真で拝見した作品の丁寧さと完成度は見事なものでした。

最後にウチの事務所に昨年秋から来ている、瀧沢君は人も知る大企業・T社からの転職です。プレゼンの仕事より実際の実務の面白さに目覚め、10年後に國に返っての独立を目指に遅く迄頑張っています。彼にとって今年中に一級建築士の資格を取ってしまうことが、緊急の課題です。

自己紹介が、自分の生き方を決めて取り組み始めた若い仲間の紹介になってしまいましたが、つい応援してやりたい気になってしまいます。大工・写真・家具・設計とそれぞれ道は違いますが、質の高い仕事を目指して、共に高め合うのがこの会の精神であろうと考え、皆様の応援を期待しながら拙文を締括りたいと思います。時節柄、同人の方々の一層の御自愛御発展をお祈りいたします。

1997-01-28

スペインとイタリアの街角で描いた思い出のスケッチを何枚か載せさせていただきました。



1/3 '91 サアフ共和国 山上の中央城塞最上部にて



12/31 '90 ベルージア 市区町村近の断崖にて

■ 1996年総会報告 12/06 於:池袋/養老乃瀧 出席者:30名

● 1996年活動報告 ······ 96年事務局(宮越)

1. 定例会 2/16 エジプト紀行 吉田桂二さん

4/07 猿田邸見学会&陶板お絵描き教室

6/15 石膏でどんなもの?

十川忠久さん

7/26 信州の民家について 吉澤政巳さん

10/24 塗装が山を守る 鈴木光明さん

2. 第三回大平建築宿 8/16~18

3. 韓国建築文化研修ツアー 11/01~04

4. 機関紙「生活文化」VOL.1発行

5. 会報6号発行

● 1997年活動方針 ······ 97年事務局(松本)

1. 97年世話人の選出(順不同 敬称略)

吉田桂二、宮越喜彦、益子昇、日影良孝、江原幸壱、長谷川順持、内藤敬介

斎藤彰、岡部知子、小林一元、鈴木久子、吉塚幸雄、新井聰、勝見紀子

*漏れがあったり、総会に出席できなかった方で自薦の方は、事務局までご連絡ください。

2. 定例会の年間テーマ ······ 「伝統工法」

同人の会員の中にはこだわりを持って仕事をしている人も多い。その仕事振りや主張を紹介してもらい批評などを交え、定例会をお互いの勉強の場にしていきたい。外部から講演者を招き話を聞くだけにとどまらないで、参加者でワークショップを行うなどしたい。

3. 「第4回大平建築宿」について

大平建築宿事務局は、江原幸壱さんにお願いする。

第4回のテーマ、基調講演、スタッフ等の調整は今後進めていく。

● 1996年会計報告

1996.12.6
会計: 松井郁夫建築設計事務所(衣裳)

(単価: 円)

<収入総額>

1. 前期繰越金	658,655
2. 9年収入 内訳: a. 会費	252,446
a. 会費 7,000×49人	343,000
2,000×12人	24,000
2,000× 人 (97年分)	406,209
7,000× 人 (同上)	
b. 講師料	30,000
c. カンパ	6,666
d. 通帳元加利子	2,543
e. 雑収入	

<支出総額>

1. 講師料 (20,000×5人)	419,995
2. 事務局費 (通信、コピー代等)	100,000
3. テープ等備品費	118,863
4. 機関誌創刊号100冊分(2000円/冊)	200,000
5. 雑費 (振込手数料)	1,132

<後期繰越金>

238,660

■97年第1回世話人会報告

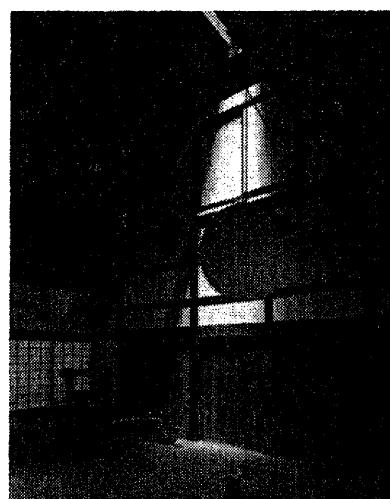
(1/23 於:池袋 / 養老乃瀧)

出席者 (吉田、小林、宮越、松本、日影、鈴木、金田、内藤、吉塚、岡部、江原、勝見、新井 計13名)

1. 第1回定例会企画内容の検討
今号表紙にて案内
2. 定例会年間計画
年間テーマ「伝統工法」。左官ワークショップ、経師屋さんの話の二つが提案された。
3. 会報の構成や内容について検討
これまでの定例会報告や同人紹介や「シャガン」に加え、同人の近作紹介や「夢屋ものがたり」の連載を新たにはじめる。
4. 機関紙VOL2について
編集長: 益子昇さん、協力: 日影良孝さん
予定: 大平建築宿の前に発行
5. 大平建築宿の準備について
日程: H9.8.15(金)~17(日)
大平事務局が発足。全体テーマ、基調講演の内容等いろいろ意見がでましたが今後の話し合いによる。

■同人活動

- ・吉田桂二の第16回個展 東京堂出版刊 地中海辞典・原画展
日時: 3月9日(日) ~ 15日(土) AM10:00~PM7:00 最終日は5:00まで
場所: 丸善・日本橋店4Fギャラリー TEL 03-3272-7211
「地中海は西洋文明の原点をなしている、と考えながら、地中海をめぐるエリアを訪ねる旅を重ねてきました。建築家ゆえの、物の見方のかたよりは承知の上、絵と文の本を書きました。これはその本に載せた絵の原画展です。」吉田桂二
- ・岡部知子 雑誌「すまいの暮らしシリーズ」住宅新報社
- ・吉田桂二、小林一元、田島美沙子 PAC「これからのおエコロジー住宅」ほたる出版
- ・日影ひろみさん(日影良孝さんの奥さん) 個展案内
展覧会名: 木によるイラストレーション原画展
日時: 3月10日(月) ~ 15日(土)
場所: Pinpoint Gallery 〒107 港区南青山5-10-1 二葉ビルB1 TEL 03-3409-8268
- ・高橋昌巳、小林一元、宮越喜彦 TBS TV 「おはようクジラ」で鶴ヶ島のプロジェクトが紹介されました。
- ・写真展 「民家再生」 同人会員の吉田桂二さん、アトリエゆう、日影良孝さんの作品が展示されます。



写真展 「民家再生」

アユミギャラリー

1997年2月7日(金)~19日(水) 会期中無休
am.11:00~pm.7:00

協賛:(株)建築資料研究所・(有)建築思潮研究所



〒162 東京都新宿区矢来町114 tel.03-3269-1577 (gallery) 03-3269-1202 (office, FAX切替)

■事務局より

・長年事務局を引き受けていたいた宮越さんに代わり、今年度から、私を代表として連合設計社に所属する会員が事務局を務めさせていただくことになりました。会報の発行を始め、その他のご連絡等、遅滞のないようにしていくつもりですが、会報の紙面を充実させたり、役に立つ情報を提供していくためには会員の皆様のご協力が是非とも必要です。どうぞよろしくお願ひ致します。

事務局 松本昌義



松本

岸

斎藤

戎居

桂さん

佐藤

大久保

勝見

新井

金刺

事務局の面々

・第4回大平建築宿、今年もお盆に開催！

日程：8月15日（金）、16日（土）、17日（日）

大平建築宿企画のアイデアをお持ちの方やお手伝いをしてくださる方は江原幸志さんまでご連絡を。TEL03-3204-9373

・年も改まり、事務局も変わりましたので 1997年生活文化同人新規入会申し込み、及び会員更新・変更届けと会費納入をできるだけ早く済ませてください。宜しくお願ひ致します。（96年度会員の方もお送り下さい。）

※申し込み用紙、及び会費については前号の会報に掲載しております。

／編集後記

- ・会報の編集などという慣れないしごとをおおせつかり大変緊張しております。宮越さん、皆さん、今後共ご指導よろしくお願ひします。（園&K）
- ・今日は私の住む町の市議会議員選挙投票日。夕方すべりこみセーフで投票に行ってきました。それにしても私のアンテナが小さすぎるのでしょうか、何十人もいる候補者のことなどよく知らないままの投票でした。越して来てから2年半、早くこの土地に根付きたいと思います。（K）
- ・今年はインフルエンザが大流行していますね、それもA香港型。今年香港は中国に返還されることで注目を集めているからでしょうか。年の初めにひいた私の風邪も香港型だったのかも。（園）
- ・会報原稿募集しています。
- ・毎号原稿締切：奇数月5日

会報編集局：〒102 東京都千代田区富士見2-13-7 TEL03-3261-8286
連合設計社市谷建築事務所 新井／勝見

97年事務局：〒273 千葉県船橋市西船橋5-7-2-201
生活文化同人事務局 松本昌義

TEL/FAX0473-32-4413

生活文化

生活文化同人会報

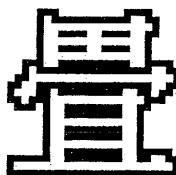
1997(平成9)年3月号 №.24

次回定例会案内 1
前回定例会報告「私家版3人組の仕事」 2
私の近作／すまい工房 西山珠美 12
同人紹介／高橋俊和 14
同人紹介／伊藤秀夫 16
つくば・耐震実験の報告 17
京都古建築視察報告 戎居連太 19
連載「夢屋ものがたり」② 24
第4回 お茶会のお知らせ 26
世話人会報告・同人活動 事務局より 28

*定例会

97 / 5 / 1 (水) 6:30~8:30

於：中野区立商工会館大会議室
(tel:03-3389-1181)



TATAMI

TATAMI

世話人：岡部

畳に接する機会はあっても たたみ床や畳表の構造や品質の違いを理解できているでしょうか
色や折り方を気にしたり値段で判断する人
畳ならなんでもいいと思っている人
色々でしょうが、健康・環境・と騒がれている昨今、安全性も心配です。良い畳と仲良しになれるように、畳の成り立ちから将来への可能性も含め、お話しを伺いたいと思います。
疑問点等是非質問を用意して来て下さい。

講師 畳アドバイザー
荒井 将佳

講師:松井郁夫/小林一元/宮越喜彦

報告者:大久保歩

私家版仕様書の意味

現在の寿命の短い住宅に疑問を感じ、構造の長寿命化と生活の変化に対応できる間取りにすることにより、社会的に寿命の長い住宅になるのではないか。そしてこれからは流通コストについてもふれなければただ作るだけではいけないだろう。

仕様書を図面で表すことのできないスペックの基準として持つべきだと考える。

(この基準は公庫の基準以上でなければならない。)

■基礎工事

基礎	<ul style="list-style-type: none"> 基礎の形式は以下による鉄筋コンクリートとする。形状、配筋は標準基礎詳細図を参照。 □べた基礎と一体の布基礎 □フーチングと一体の布基礎 □腰壁と一体の布基礎 コンクリート強度など: $F_c = 180 \text{ kg/cm}^2$ スランプ=18cm以下 布基礎の場合、点検口などで連続しない場合でもベースは連続させることを原則とする 布基礎へのスリーブなど、またはスラブへの開口部には必要な開口補強を行う
ネコ土台	<ul style="list-style-type: none"> ネコ土台により床下換気を行い、材料は以下による □栗材 □モルタル □石 □既成品 () 厚さ()mm ④ 3尺内外とし、以下の位置には必ず設ける <ul style="list-style-type: none"> 各コーナー部 (L, T, +) 土台継手部 柱下など荷重を受ける部分 アンカーボルト位置 外部に面する部分には、防虫、防ネズミ用にステンレスメッシュを取り付ける 形状は標準断面詳細図を参照。材料は基礎に準ずる 引込み配管立ち上がり部分には将来のメンテナンス可能な手当をする(べた基礎の場合も同様) アンカーボルトはZマーク表示品もしくは同等以上とし、埋込み深さは250mm以上とする コンクリート打設前に治具などを用いて据付けを完了し、設計図をもとに係員とともに位置の確認を確実に行う。さらに増設が必要と判断された場合には据付け本数を増設する
土間コンクリート	
防湿コンクリート	
アンカーボルト	

・基礎

「足元はキチンと作らなければならない。」「自分の任された建物がどのような地盤の上にのることになるのか。というチェックから始めよう。またどのような、地盤調査法があるのかという認識も持つべきである。

・基礎工事

布基礎・ベタ基礎の2つにテーマを決める。

住宅メーカー等は、コスト・施工期間の関係からベタ期基礎が主流である。

実際でも、耐圧板式ベタ期ソは有効であった。

・一般事項

この「私家版私様書」は、JAS規格・針葉樹構造用製材規格を取りこんでいる。

木材乾燥は、構造材が見える見えないに関わらず乾燥はとても重要なことである。天然乾燥で20~25%ということはとても大変であるが、この25%を目標とする。

	樹種／等級／挽立て寸法	工 法
[土台]	<ul style="list-style-type: none"> □檜葉・等芯材 □米檜葉・等芯材 □檜・等芯材 □栗 挽立て寸法：120×120mmを標準として、その他は設計図の指示による 	<ul style="list-style-type: none"> 継手：金輪継ぎ、尻狭み継ぎなどの略鎌系の継手で、渡り長さは300mmを標準とする。 係員との打合せにより腰入れ目違い兼継ぎも可とする 土台の仕口：丁字型に取り合う仕口は大入れ蟻掛けとする。L字型の出隅は、泰輪小根拠差し割楔締めとし、見え掛かりは腰面留め小根拠差し割楔締めとする 柱と土台の仕口：土台と納穴を打ち抜き、長拠差し込み栓打ちを原則とし、出隅は扇拠とする。柱落としの部分では柱に拠差しなど引抜きも考慮すること 込み栓：良質な堅木製で18mm角とする。打合せにより既製品の丸込み栓も可とする
[柱] 通し柱	<p>□杉・特1等135×135mm以上 □檜・特1等135×135mm以上 (構造計算により任意とする)</p> <p>*1 横架材との取合いで断面欠損に留意する *2 外部真壁の場合は165×165mm以上とする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 隅柱の断面が土台より大きい場合は土台に落とし蟻 その他の通し柱は土台に落とし込み、基礎天端まで 隅柱と横架材との取合いは、上下小根拠差し割り楔締め その他の通し柱と横架材は小根拠差し割り楔締め 桁または妻梁に重拠差し
管柱	<p>□杉・特1等115×115mm □檜・特1等115×115mm * 貫構法の場合は115×115mm以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 土台には長拠差し、必要に応じて込み栓打ち 胴差、桁などには長拠差し、必要に応じて込み栓打ち 下屋などの隅柱は扇拠差し込み栓打ち
間柱	□杉・1等45×45mm (貫構法で外部大壁の場合)	土台、横架材に角短拠差し釘打ち（貫構法で外部大壁の場合）
共通		<ul style="list-style-type: none"> 壁の付くところには通し貫穴彫り 壁の付くところにはちり決り 隅柱は引抜き対策を工夫する
大黒柱	<p>□杉・特1等180×180mm以上 □檜・特1等180×180mm以上 * 横架材の納まりによる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 土台に落とし込み、基礎天端まで 横架材との取合いは十字の場合長拠差し車知栓締め、または履いた拠差し車知栓締め 丁字の場合は小根拠差し割模打ち

.03

・ 土 台

敷土台が一般的である。

長寿命の架構体の中で、継手も考えるべきである。仕様書では金輪・尻狭み等鎌系の継手で渡り長さ300m/mを規定とする。

木造の住宅が長寿命というときにメンテナンスフリーということではなく、部材の取換えができるとよいと言われるが、土台がアンカーボルトによって止まっているときに土台の交換はどうするのか。

- 大きく軸組を動かすことになる。
- 金輪などはくい込んでいる部分を動かすと、土台を換えられるので継手は有効取段になるのでは。（そのことだけでこの仕事を要求するのには疑問がある。）

実際の大工達は、土大を換える時はアンカーボルトを切り、アンカーボルトをやり直してしまうので金輪等の継手でなくとも対応できる。

・ 柱

通し柱 135*135 (120*120で断面欠損を考慮すると材断が足りなくなってくる)。

内、外真壁仕上だと納まりを考えると 165*165 は必要になってくる。)

貫は 30*105 だと 4 寸角は最低必要である（断面欠損考慮）。

	樹種・等級・挽立て寸法	工法・備考
[耐力壁] (真壁仕様)	<ul style="list-style-type: none"> 告示1100号による3種類とする □構造用合板厚9mm以上 継ぎ目を少なくするために3'×8'版、3'×9'版を使用 □石膏ボード厚9mm以上+石膏ブランスター塗り厚15mm以上 □石膏ボード厚12mm以上 ・杉・1等27×105mm以上 	<ul style="list-style-type: none"> N50釘打ち@150mm以下 GNF32またはGNC32釘打ち@150mm以下 GNF40またはGNC40釘打ち@150mm以下 貫ピッチは@455mmを標準とする 継手は以下の工法により柱心で継ぎ、両楔打ちとする □同士鎌継ぎ □空突付け 柱との仕口は以下の工法で継ぎ、楔打ちとする □下げる鎌 □大入れ □打抜き 配管設備、配線のための穴開けは不可
面材用受け材	<ul style="list-style-type: none"> ・杉・1等27×40mm以上 (厚さは貫に合わせる) 	<ul style="list-style-type: none"> 柱、横架材の内法にN75釘@300mm以下で止め付ける 貫の間にも縦に@455mmに打ち付ける
耐力壁脚部 および端部	<ul style="list-style-type: none"> □18mm角込み栓 (堅木) □通しボルトM12以上 	<ul style="list-style-type: none"> 壁倍率2.5程度までは柱は横架材(土台、胴差、桁)に長柄差し込み栓打ち 壁倍率が2.5を超える場合は、通しボルトで横架材(土台、胴梁、差鴨居、胴差、桁、ホールダウン貫)を拘束する。またはアンカーボルトに通しボルトを直接高ナットで緊結し、上部横架材の上端でナット締め。横架材はボルト穴を開けても十分に強度の出る断面積とする。また、アンカーボルトも十分な埋込み長さを確保する
[水平構面] (一般事項)	<ul style="list-style-type: none"> 各階床組および小屋組、屋根面において水平構面を構成する各軸組部材にあっては堅固な継手・仕口を選択する 火打ちを用いる場合 (各構面共通): <ul style="list-style-type: none"> 正角材 (105×105mm) 以上の部材とし、横架材との取合いは傾げ大入れボルト締め、もしくは同等の接合とする 構造用合板を用いる場合 (各構面共通): <ul style="list-style-type: none"> 長手方向を根太に直交し、千鳥張り 継手は根太上で突付け継ぎ、面材の継ぎ目部分には受け材を流す N50釘@150mm以下で面材の四周および床組などの構造部材に平打ち 厚板を用いる場合 (各構面共通): <ul style="list-style-type: none"> 厚板同士が滑り合うことのない仕様 (接着剤、ダボ) などとし、構造部材の組み方を考慮して、構造解析によって釘打ちの仕様を決定する 	
[1階床組] 束 大引 根太 足固め	<ul style="list-style-type: none"> ・杉・1等105×105mm ・杉・1等105×105mm ・松、杉・1等45×55mm以上 ・土台、柱と同材もしくは檜・1等105×105mm以上 	<ul style="list-style-type: none"> @909mmで大引に短柄差し、束石立て @909mmで土台もしくは足固めに蟻落し 大引が土台、足固めより低い場合は柄差し 畳下地の場合@455mm 板張り下地の場合@303mm 土台、足固めに大入れする 土台と足固めの間隔は柱の3倍以上 柱との取合い仕口は長竿小根柄車知栓打ちもしくは傾げ大入れ短柄ボルト締め 足固めと土台は通しボルトで締め、柱の引抜きに対応する 足固めは2間四方内外で四辺を囲うように配置 その他は工夫による

	樹種・等級・挽立て寸法	工法・備考								
[2階床組] 胴差 床梁 甲乙梁	<ul style="list-style-type: none"> 赤松、黒松、杉、米松の特1等とする。ただし設計図書に指示があるものはこの限りではない 幅は120mmを標準として、その他は設計図書の指示による。胴差は120×240mmを標準とする 	<ul style="list-style-type: none"> 継手：材のせいが同寸の場合は、追掛け継ぎまたは追掛け大栓継ぎなどの略鎌系の継手とし、継手の渡り長さはせいの2.5倍を標準として、市販の定尺長さも考慮しながら打合せにより決定する。また、せいが異なる場合は腰掛け鎌継ぎまたは目違入り竿継ぎ込み栓打ちあるいは目違入れ竿車知栓継ぎを原則とする。 甲乙梁の継手は梁上で継ぎ、大入れ兜蟻で見付け突付けてし、転び止めに目違を立てる。梁への落とし掛かりが45mm以下の場合は、大入れ兜蟻で上端に鎌継ぎを併用する 仕口：横架材同士の仕口については渡り腮を原則とするが、状況に応じて滑り腮、兜蟻落し、大入れ蟻落しなどを打合せにより決定する。また、上下に柱のない渡り腮などの仕口には戸いダボ（堅木30mm角、長さ120mm前後）を施す 見え掛けの渡り腮の上下の下端と下木の彫込みは滑り勾配をとり隙間なく納まるように心掛けること 根太は指示のない限り@303mm以内に配置し、設計図の指示する高さに従った渡り腮を標準とする。梁と根太の天端が揃う場合は大入れとする 								
根太	<ul style="list-style-type: none"> 赤松、檜、杉、米松の1等材とする。見え掛けの根太については設計図による 以下の寸法を標準とする <table border="1"> <thead> <tr> <th>スパン</th><th>寸法</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1m以内</td><td>45×54mmまたは60mm</td></tr> <tr> <td>1.5m以内</td><td>45×90mm</td></tr> <tr> <td>2m以内</td><td>45×105mm</td></tr> </tbody> </table>	スパン	寸法	1m以内	45×54mmまたは60mm	1.5m以内	45×90mm	2m以内	45×105mm	
スパン	寸法									
1m以内	45×54mmまたは60mm									
1.5m以内	45×90mm									
2m以内	45×105mm									
[小屋組] 小屋梁 桁	<ul style="list-style-type: none"> 赤松、黒松、杉、米松の特1等とする。ただし、設計図書に指示があるものはこの限りではない 部材寸法、丸太の樹種は設計図書の指示による 	<ul style="list-style-type: none"> 折置き組の場合：渡り腮で木余りは120mm以上を標準とする。柱との取合いは重ね差し割り楔締めとする 								
桁母屋束	<ul style="list-style-type: none"> 杉、檜、米松とし、見え掛けりは特1等、見え隠れは1等材とし、寸法は設計図書による 	<ul style="list-style-type: none"> 京呂組の場合：兜蟻または渡り腮とし、戸いダボを原則とする。下に柱がある場合は、長ね差し込み栓打ちに戸いダボを原則とするが、詳細は打合せによる 棟木は棟の葺材なども考慮して余裕をみた材寸にして、上端は鋸削りとし垂木は大入れを原則とするが、係員と打ち合わせて乗せ掛けで挿合せも可とする 母屋の垂木当たりは垂木彫りを施し、屋根勾配が5寸未満の場合は母屋上端と峰を揃え、5寸以上のときは峰を母屋上端から9mm上がりを標準にし、口脇が30mmを超えないよう係員と協議する 棟木と母屋の継手は揃えずに乱になるように心掛け、腰掛け鎌継ぎを標準とする 束は上下とも長ね差し込み栓打ちを原則とし、2重梁のときは重ねとする。補強のために見え隠れでは貫を小屋筋かいとしてたすき掛け釘打ち、見え掛けりでは送り梁や通し貫など設計図書の指示によること 								
垂木	<ul style="list-style-type: none"> 赤松、黒松、檜、杉、米松とし、見え掛けりは特1等、見え隠れは1等材とし、寸法は設計図書による 	<ul style="list-style-type: none"> 幅60mm以下の垂木はビス止めとし、それを上回る垂木はラグスクリューまたは大栓打ちとする 垂木の継手は削ぎ継ぎとして乱に配置するように心掛け、定尺長さなどの理由で困難なときは係員に指示を受けること 垂木の間隔は設計図によるものとする 								

・耐力壁

現在はすでに基準法・施工令での仕様が定められている。

骨組の内法（真壁）の中で構造体を構成したいという主旨で、基準法・施構令の中で可能な仕様は、

・貫+構造用合板

・間柱

両面真壁を考えると、貫しかない（最近の実験結果では貫でも基準法の壁倍率以上の耐力があるということも聞くことがあるので、そのうち基準法にも反映されてくるだろう）。

耐力壁をキッチンと構成するためには、足もとの引き抜き画ポイントになるので、足もとの固め方が重要と考えている。

ホールダウン金物があるが、木と金物との相称を考えてみると極力使用をさけるべきと考えたい。

込栓の使用を原則としたい。（引き抜きだと壁倍率2.5～3.0ぐらいの壁でないと込栓のせん断耐力は耐えられないので適所に込栓を使用すると考えたい。）

通しボルトM12以上（ホールダウン貫に使用）。

・水平構面

バランスのよい耐力壁と水平構面で固めることにより架構を水平力より守ることができる。

・構造用合板の使用

・厚板使用（厚さ40mm/mぐらいで1階の天井かつ2階の床仕上）

厚板は意匠的に使用するのではなく、構造的に水平構面が構成されるように使用しなければならない。

・床組

1階床組

足固めのすすめ。土台の腐れ等からくる柱の腐れへ。

柱の自立を考えると、足固めをして柱を自立させるべきである。

韓国に昔あったような大引のかわりに床をおとし込むような足固めではなく、もっと簡単に通しボルトで引っぱり、引き抜き対策（ホールダウンではなく）柱・足もとが引き抜かれないような貫+足固め（ホールダウン貫）がよいのではないか。

2階床組

1・2階の間取りの計画に影響される。1・2階の間取りが一致していれば問題ないが、多くの間取りは、1・2階での間取りに不一致が生じ、それをクリアにするためには、梁で間取りをすることになる。梁は渡り穂で大きな梁を1間にいれ、2階の間取りを自由にし、それを受ける梁を1階に通すことにより二重三重に梁を通すことになり、その結果、頭・腰の重い構造になるが、1・2階の間取りは合致させるのが一番よいのではないか。合致させるように間取りの知恵を働かせるべきではないだろうか。

- ・横架材・小屋組

木組を一つ一つの標価ではなく全体（立体のフレームとしての架構）として標価できるような基準を作り、まかないきれない所は新技術との融合で別の形が生まれてほしい。

- ・水平構面

バランスのよい耐力壁と水平構面で固めることにより架構を水平力より守ることができる。

- ・構造用合板の使用

- ・厚板使用（厚さ40m/mぐらいで1階の天井かつ2階の床仕上）

厚板は意匠的に使用するのではなく、構造的に水平構面が構成されるように使用しなければならない。

スライド実例解説より/宮越喜彦

- ・母屋に厚板（厚さ40の台形の間伐材）の集成材で、垂木をかけずに内部天井の仕上も同時に仕上げる。

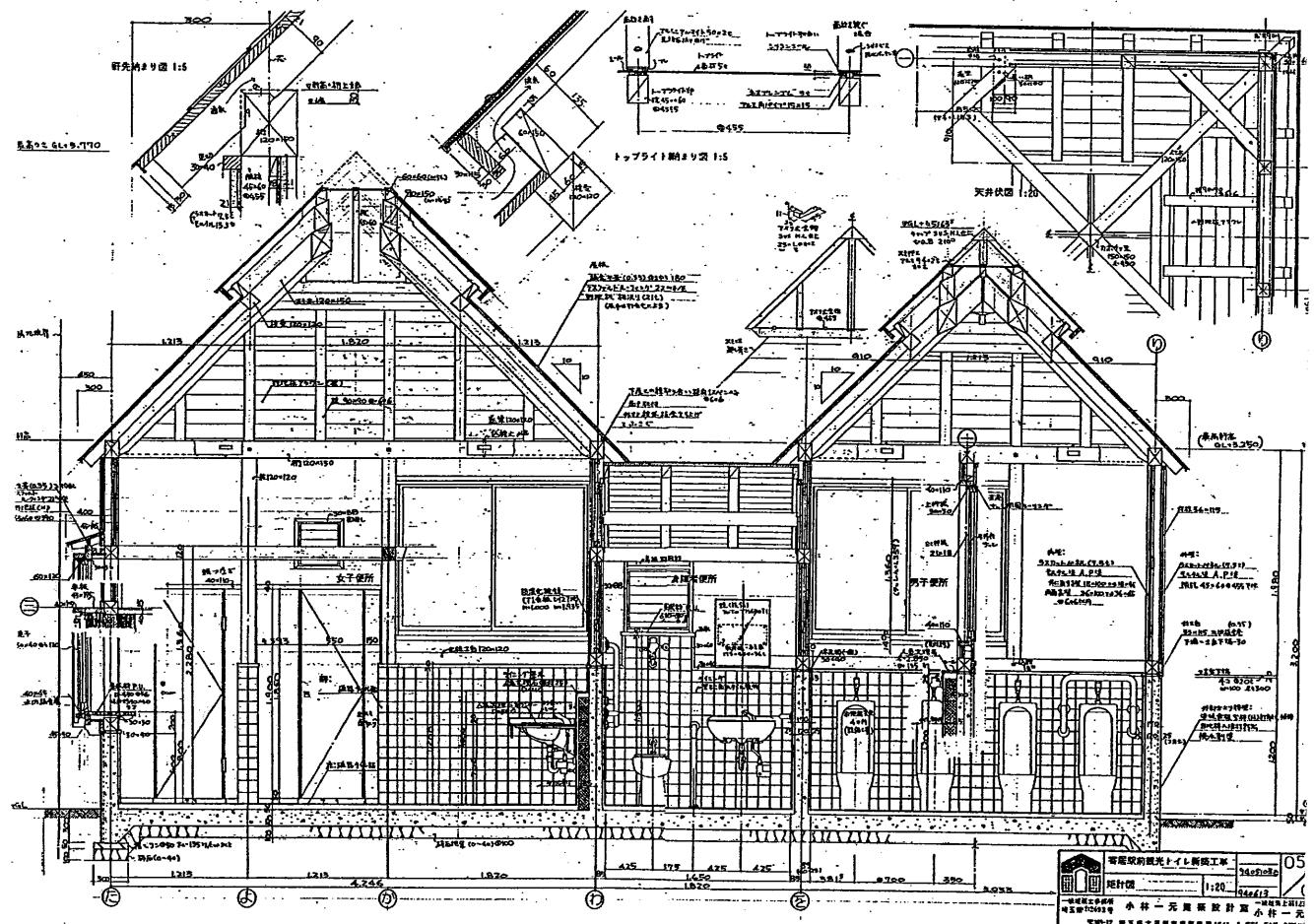
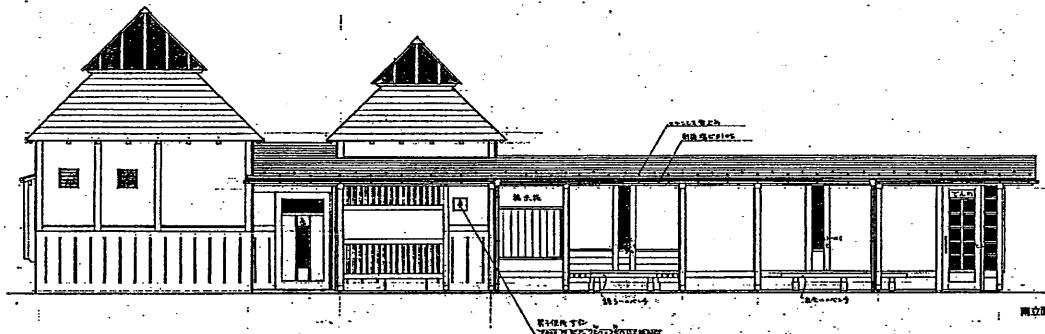
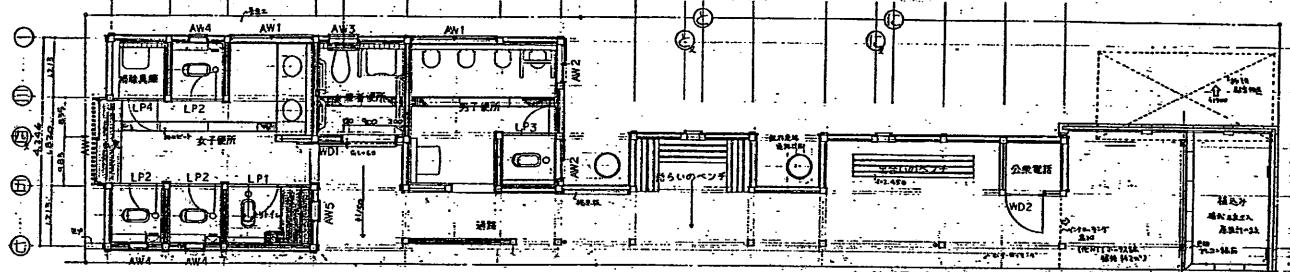
- ・緩勾配の屋根であればしっかりとした水平構面として固まってくれる。（しかし、台形の間伐材は30万/m³で高くついてしまう。）

- ・地盤の検査は協会で9万円ぐらいかかるとのこと。（保証付）

- ・実際の現場では、60cmの5mを25本のソイルセメント注入で地盤改良した。そのほか、重機の借入等で合計90万円ぐらいの費用がかかった。（ソイルセメント等の注入は、環境に悪影響はないと言っています。）

- ・外壁の防火サイディングに外壁用オスモカラーを使ってみたが、1枚1枚に適度なムラができる雰囲気のよい感じになった。

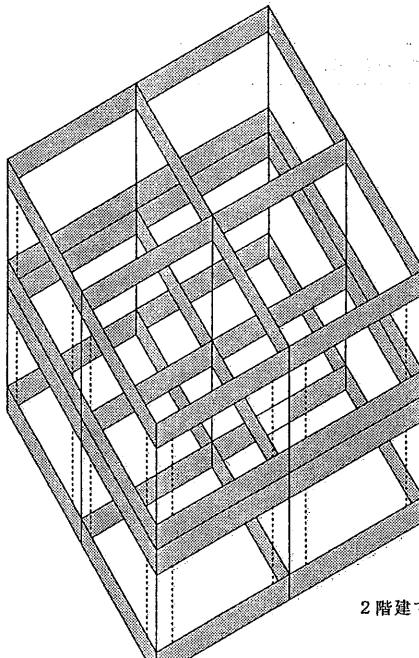
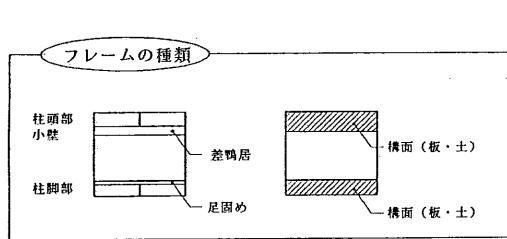
寄居駅前観光トイレ/小林一元



伝統的な技術による軸組構法の構造的な安全性の確認
社会的な前提を満足する「古くて新しいテーマ」

○軸組フレームで開放性を考える。

02



○ロの字型のフレーム

補強案：袖壁・平角柱

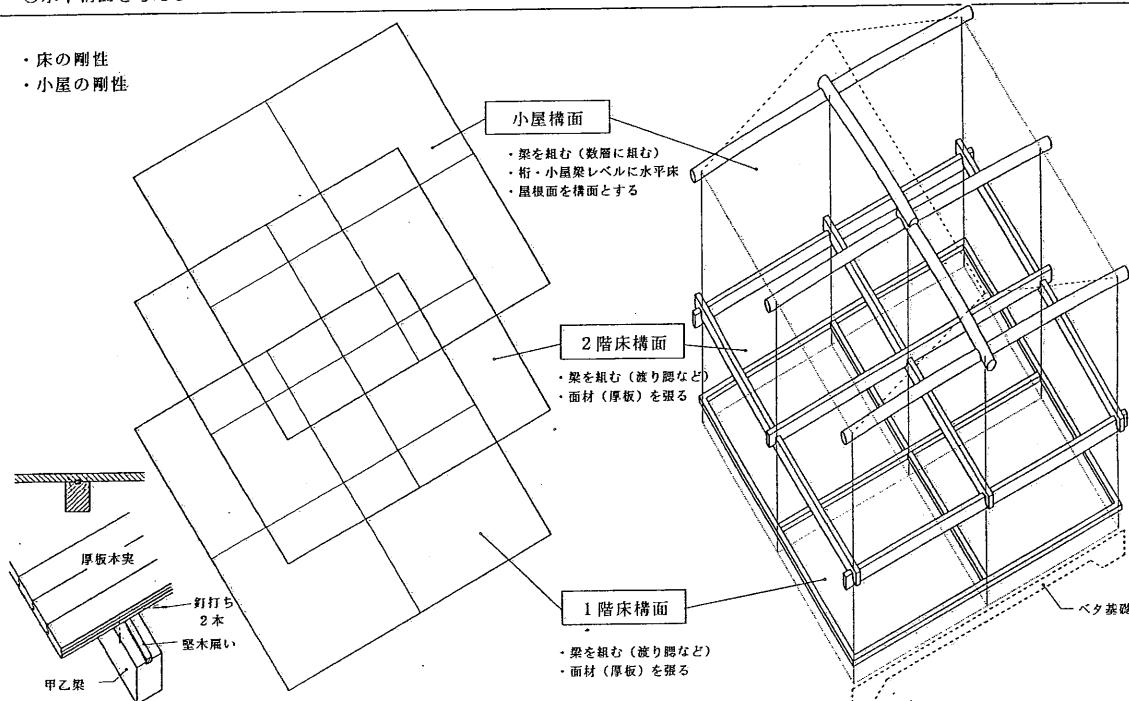
○基本モジュールのフレームが建築に拡大する

○建築としての立体フレーム

○水平構面を考える

03

- 床の剛性
- 小屋の剛性



●厚板の詳細

1. 社会的的前提

- ①環境への負荷が小さいこと
- ②長寿命であること
- ③社会ストックと成りうること
- ④次代への技術ストックと成りうること
- ⑤国産材を有効に利用できうこと
- ⑥メンテナンスは行われること

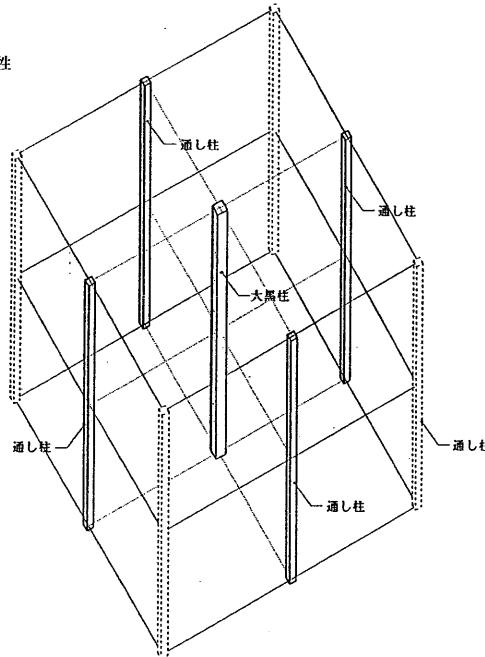
2. 技術的前提

- ①伝統的な要素技術によって架構を構成する
 - ・「総持ち」と言われる概念
 - ・接合部（復原力を持つ仕口・継手）
 - ・耐震要素
 - ・入手可能部材内での架構
 - ・現状の生産技術で対応できること
- ②提案にあっては積極的に金物は使わない

○通し柱の構造上の有効性

0 4

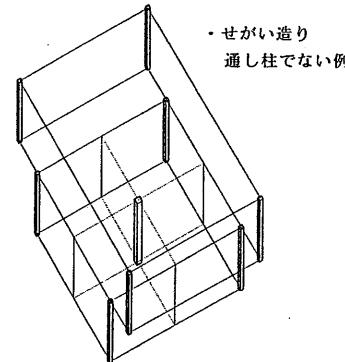
- ・床の剛性
- ・小屋の剛性



- ・通し柱は有効か？
- ・通し柱を折れないようにするには？
 - ・仕口による断面欠損の問題
 - ・通し柱の断面を大きくする

- ・大黒柱は有効か？
- ・樹種は？
- ・太さは？

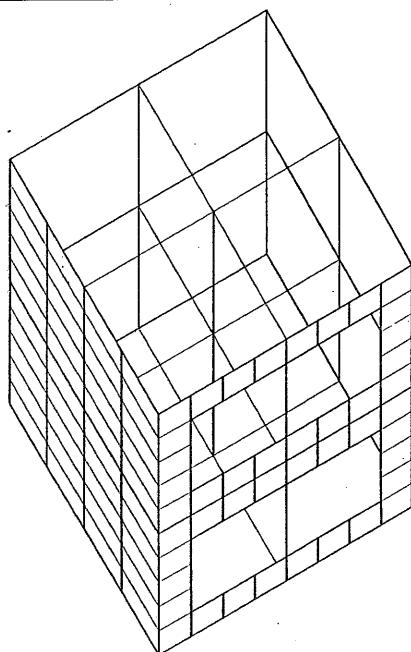
- ・横架材との接合部をどう考えるか？
- ・半剛接の仕口の評価？
- ・復元力の評価？



○復元力のある壁（貫構造の可能性）

0 5

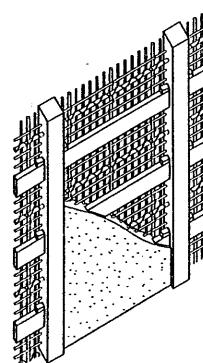
- ・壁の剛性



- ・層間変位角
- 大きい ($1/120$ ラadianを越える)
しかし、倒壊に至らない構造
復元力があり再生可能な構造の可能性

- ・柱が折れる
通し柱は有効か？
復元力があり再生可能な構造の可能性

- ・土壁
下地または仕上素材による初期剛性の確保

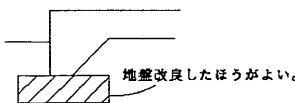


- ・構造的な伝統構法の要素技術の解析と新たな設計、施工上の工夫

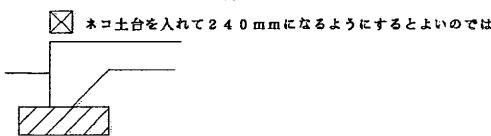
- ・貫 + 土壁
- ・土の成分評価、(土 + 固化材)
- ・下地 (竹小舞・木小舞) の評価
- ・スサの評価 (新たな繊維の可能性)

- Q : ベタ基礎は深基礎にしなくてもよいのか？基礎天端は G L + ? mm 地山まで掘らなくてもよいのか？

A

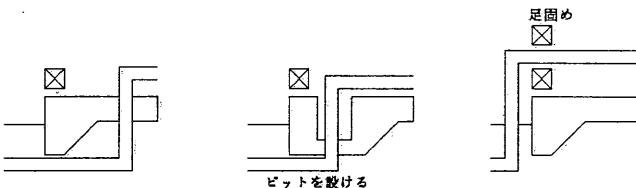


- 基礎を 200 mm/m 打てば不動沈下はしないだろう。
- 基礎天端～土題天端 = 240 mm/m (公庫仕様)。



- Q : 水がかりを考えると、土台は立上げたほうがよいのでしょうか？

A : 床下をどのように利用するのかを考える。



- Q : 筋違いはどのように考えるのか？

A : 構造の要素の一つとして考えている。否定はしないが、極部でもたせるというのが疑問であり取り付けかたにも問題がある（現場での取り付けかたがいろいろである）

- Q : 構造用合板の樹種による強度の違い？

A : 針葉樹合板 < ラワン合板 という関係である。

- Q : 小屋組ということでの提案は？

A : 水平面の構面

ゆるい勾配のときには野地板が構面として有効になる。

垂木のとめつけ、アオリ止め金物。

釘止め → ビス止め

桁と垂木をキチンと止める。（ビス止め等）

木組の天端そろいより渡り顎で組みあげる

- Q : 中程度の地震なら柔構造でも理解できるが大きな地震では耐えられないのでは？

A : ネバリ強く、変形が大きくても、室内が守られる「柔構造」でよいと考えている。

柔か剛かという問題ではなく、どう空間があるべきかということだと考えている。

私の近頃の仕事

住まい工房／西山珠美

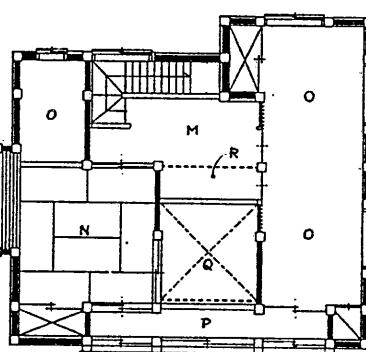
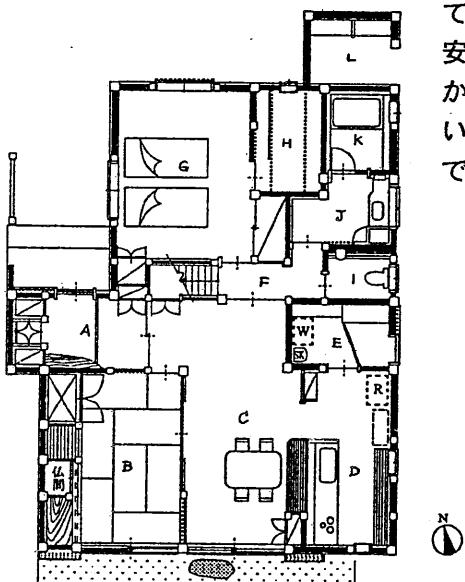
福井にリターンして、4年が過ぎようとしています。父が起こした『住まい工房』の中で、初めて木造住宅にたずさわるようになり、今だに、右往左往の毎日です。

今回紹介する建物は、福井市内に昨年の9月に完成した住宅です。「私が設計しました」と言えるものではなく、『住まい工房』と、お客様との共作と言ったほうがよいでしょう。

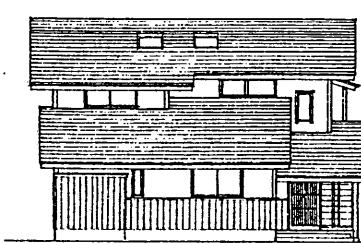
施主の家族構成は定年前のサラリーマンと、専業主婦の奥さん、娘さん二人（OLと高校生）の4人家族。将来の事を考えて、今はちょっと広めですが、娘夫婦との同居も可能なようにしておこうということにしました。今回は、材料についてのこだわりと、北陸ならではのこの家の特徴について、紹介したいと思います。

『住まい工房』のこだわりの一つに、できる限り自然素材を使いたい、という思いがあります。その昔、住宅に身近な材料、木、土、紙などが使われるるのは、あたりまえのことであつたはずですが、現在、地方の工務店にとっても、それは高級な部類に入ると同時に、たぶん、効率の悪い仕事なのだと思います。予算に余裕がなくとも、せめて、より肌に触れる床材には、ムク材を使いたい。なるべく安く、良いものをと、全国各地からさまざまな材料

を取り寄せています。木は、人間にとっても環境にとって優しいのはもちろん、意匠的にも暖かみのある、心安らぐものです。私などは、木材に接するようになってからというもの、木に対して、逆らい難いとおしさというか、愛着を感じるようになりました。自然素材ならではの、魅力がそうさせるのでしょうか。



- A 玄関
- B 茶の間
- C 食堂
- D 台所
- E 家事室
- F 廊下
- G 寝室
- H クロゼット
- I 便所
- J 洗面所
- K 浴室
- L 外物置
- M 共用スペース
- N 和室
- O 板の間
- P 縁側
- Q 吹抜
- R ロフト



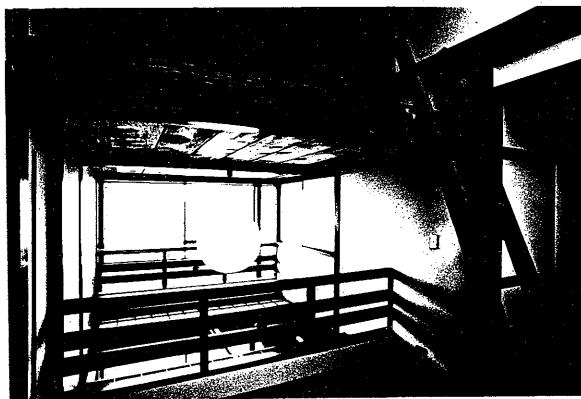
北立面図

このC邸では1階の床にナラ、2階の床に青森ヒバ、階段材にはヒメコマツ、天井、壁にはヤナセ杉、桧などを使用しました。ご夫婦とも、古民家のようなたたずまいを望まれていたため、柱や梁は古色に仕上げたのですが、四国から取り寄せたヤナセ杉は、さらに、天然木の迫力を放ちながら、しっとりとした落ち着きを加えてくれました。

また、福井は年間を通して大変湿度の高い地方で、特に冬は平均湿度80～90%以上が続きます。ですから、洗面所やトイレ、室内物干場などには調湿効果を期待して大いにしようしています。

さらに、北陸の気候のことについて触れておきますと、冬はまさに「裏日本」という言葉がピッタリという感じで、曇天や雪、雨が多く、東北や北海道のように激寒地方ではないものの、日照時間が日本一少ない地方でもあるのです。湿度が高く、陽がささないという状態ですから、生活上困るのは洗濯物です。今までにも何件か、室内物干場を提案してきましたが、いずれも、大変重宝されているようです。この家では当初、2階の南の縁側を代用にと考えていましたが、実際には家事室に除湿機を置き、乾燥室とされているそうです。どちらにせよ、陽が当たらないのであれば、洗濯機に近く、スペースが区切られているほうがいいのだと、改めて教えられました。

最後に、この家の大きな特徴を挙げておきたいと思います。「ノビノビとした開放感が得られる吹抜が欲しいが、冬の寒さが心配。」ということで、吹抜に水平の折戸というような建具（障子）を取り付けました。夏は開放して涼しく、冬は閉じて暖かく、空間の変化も楽しめて、二度おいしい吹抜になりました。吹抜の天井は低めに押さえ、その上はロフトとし、物置にもなっています。



同人紹介

高橋俊和・松の樹図絵

—高橋木造建築研究所代表者—

- ◆スピリットの構築
- ◆プロセスが息づく形態
- ◆生態系の一部となる建築
- ◆設計から製作・施工まで

調査・研究・継承
木造伝統工法の見直しと伝承

1994年
白川郷合掌造り民家の調査

建壳住宅 3棟

インスタレーション・彫刻
オリジナル及び設計者とのジョイントによる製作

1983年
埼玉県飯能市にて木工で独立

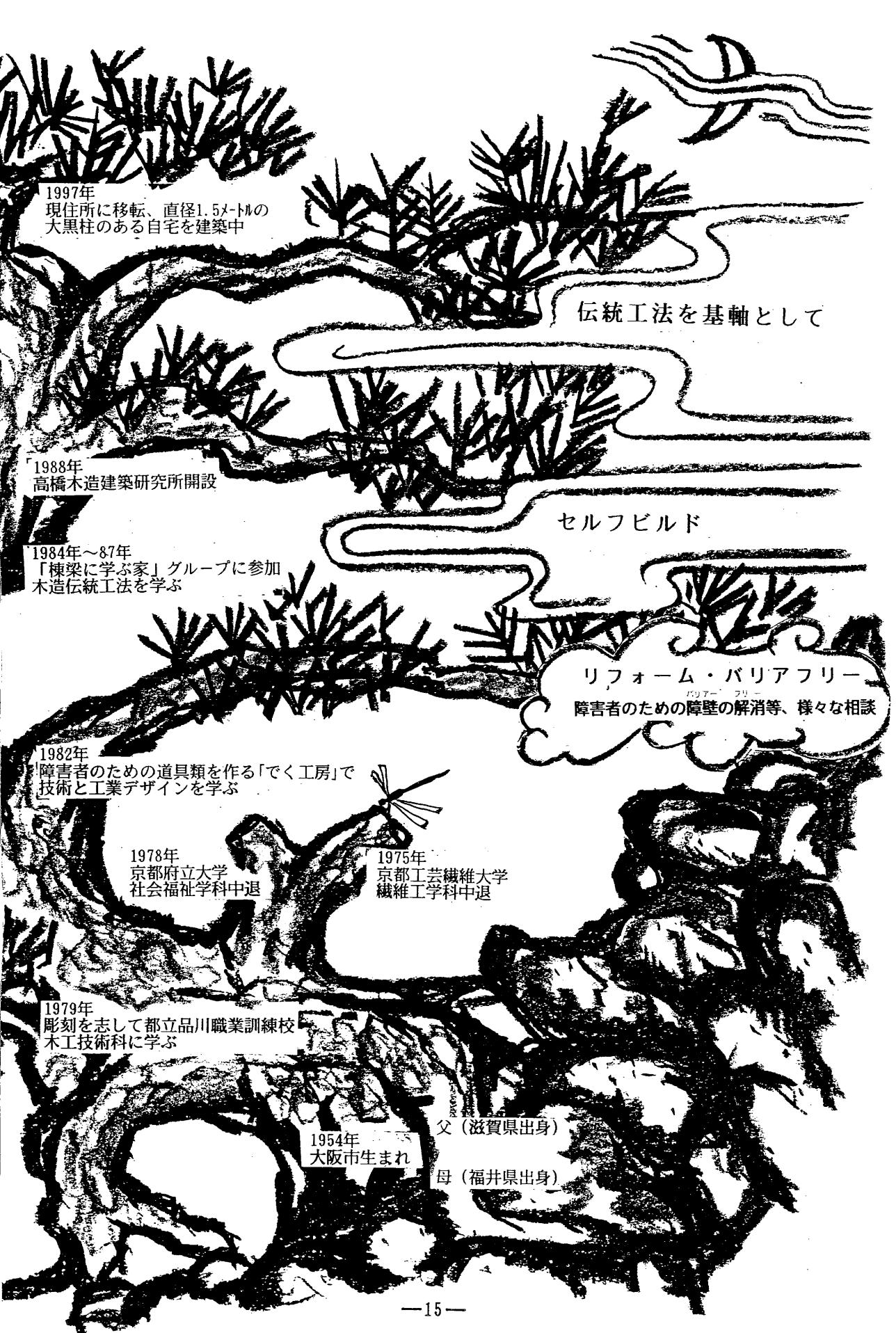
分業をこえて

建具・家具
建築の一部として、又は特注品として製作

1981年
工芸家林二郎のもとで
木工芸を学ぶ

1980年
家具製造工場に勤め、
フラッシュ家具を学ぶ

1978年 上京
自主講座運動に参画



同人紹介

伊 藤 秀 夫

プロフィール 1950年 東京生まれ

日本大学理学部建築学科卒業

現在 品川区建築住宅部建築課

現在は建築課において法規の相談や許可申請の審査をしていますが、以前は営繕課で15年以上公共施設の設計監理をしていました。1970年代から80年代は、学校建築の鉄筋化も終わり公共施設建設は、保育園、敬老会館、文化センターなど福祉施設、文化施設の器づくりの時代であったと思います。私も、保育園や敬老会館、地域センター等の設計や監理を行い施設建設を行いました。特に保育園の設計は、家庭の延長として生活を考えるため、住宅と似ているところがあり好きな建築物の一つです。

R C造ばかり建てていいのかなと考えはじめていた頃、区の社会教育のサークルで土曜の集いという会があり、吉田先生を講師に建築と暮らしのかかわり方を、勉強しているので参加してみてはとの職員の誘いからもう10年。この会をきっかけに、「生活文化同人」「民家サークル」と、私の生活の場が広がっていきました。多くの人に出会いたくさんことを学んだ気がします。同人の方もあり知らないと思いますので「土曜の集い」を簡単に説明しますと、社会教育の講座で行われた「インテリア講座」の生徒有志がつくったサークルで、既に17、8年経っています。会員は8、9名でほとんどが女性（50歳以上）で男性は先生と私（オバ様方に囲まれて、忍耐強く頑張っています？）です。会議は先生を講師に茶話会の感じで肩の凝らない会議となっています。又、年一回文化センターの文化祭で暮らしにかかわるテーマを決め調査発表しています。今年度は「水と暮らしのかかわり」でした。

ここ数年様々な行事に参加する事ができ、那須の民家移築では実測調査を、大平建築宿では写真担当を、同人の皆さんとも合う機会が増えてきました。民家に学び、木造建築のよさを知り、古き良き町並みを愛する者です。そして、「住むことは生きること、生きることは学ぶことである。」とのことを基本に！



皆さんこれからもよろしくお願いします。

—— 土曜の集いの仲間たちと

つくば・耐震実験の報告

各部材が連帶している伝統的木造建築物

平成9年3月10日

おかべ ともこ

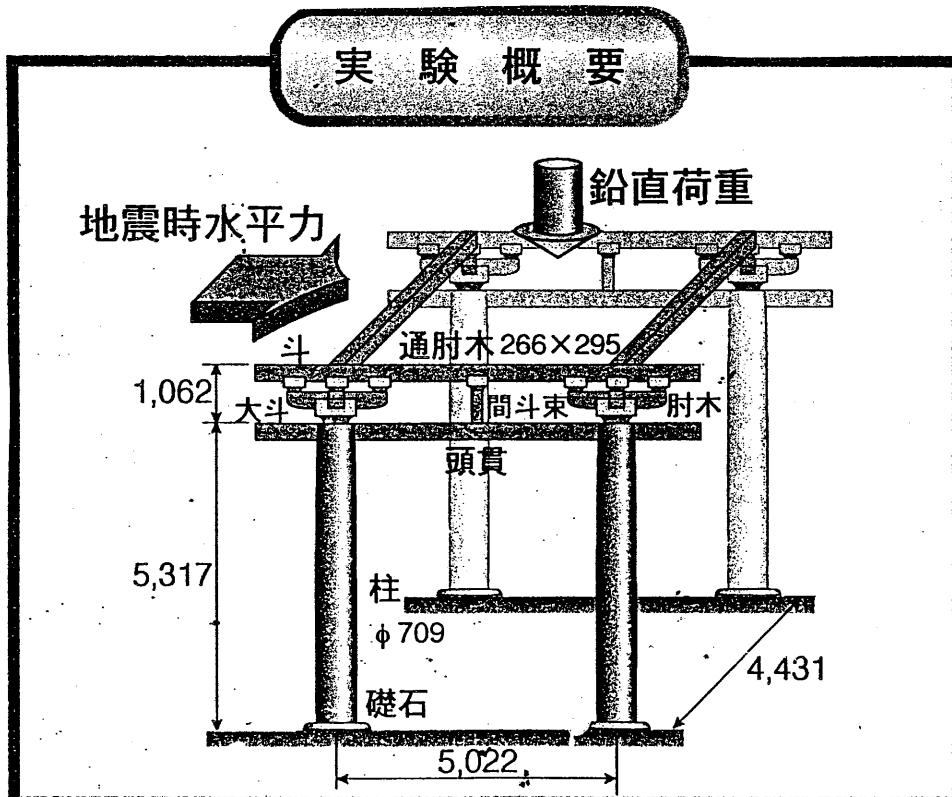
阪神淡路の震災がおきて、耐震ということに対することが問われてまいりましたが、伝統的手法による木造建造物においても耐震性が、また問われはじめてきたようです。昨年木造フォーラムで平城京朱雀門の復元途中を見学してまいりましたが、そこの大極殿復元をするためにも、これから文化財建造物の保存修理や復元を行うにあたっても、木造架構が持っている復元力や特性がどのようなものか把握し、耐震性の検討を行ううえの資料となるようにと奈良の国立文化研究所と農林省と森林総合研究所とが共同となり今回の実験にいたりました。

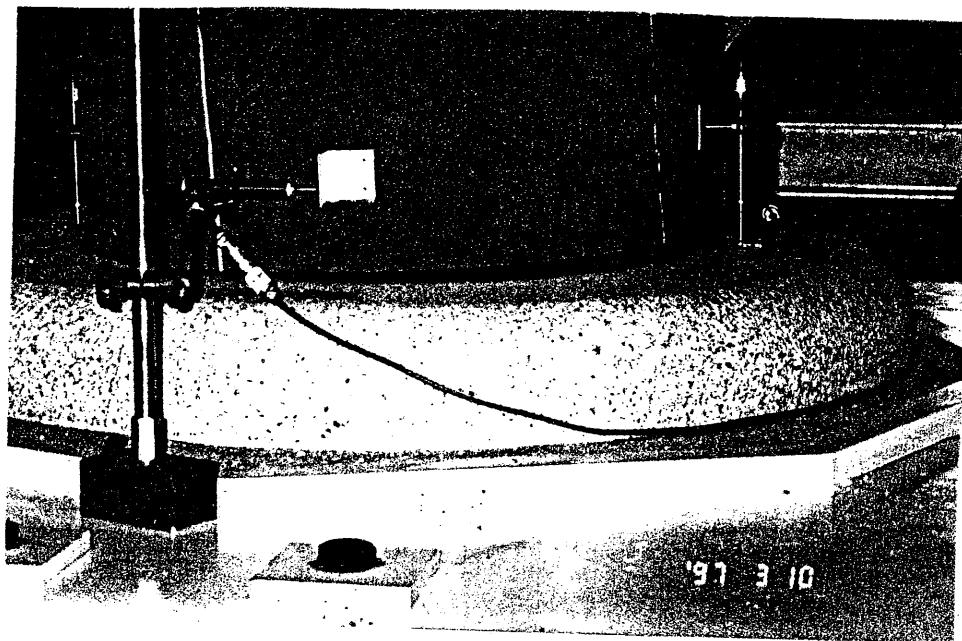
今回は実大規模の柱、頭貫、組物等の木造架構の模型を作成しそれを利用しての実験でした。

当然内容を把握して帰ってこられるとは思わずの参加ですが、70cm以上の吉野桧を4本礎石に立て、その時代の建築構法で柱と梁を10数個の部材によって固めてあるのですが、それだけで数千万円という費用がかかっているということでした。「それを見られるだけでもいいかな。」と思い、つくばまで足を延ばしました。

3日前の7日にもその実験は行なわれたそうです。その時は4本の柱に100tの鉛直加重をかけたらしいのですが、今回はその半分の50tでした。水平には4t力をかけました。かけたというより30/1000ラジアムでもっていいくのに、これだけの力が必要だったということでした。

実験概要





最も柱の右端が持ち上がった状態

垂直な柱の上に架けられた通し肘木に少しずつ力を加えていくのですが、固定された鉄柱と比較していると柱の傾きが肉眼でもわかりました。

始めは右に傾けられましたが、傾くにしたがいミシッミシッと材が大きいだけにすさまじい音が実験室の中で響き、礎石の上に立てられた柱は左が数センチ浮き上がっていました。次に又垂直に戻して反対方向に力がかけられるとベンガラで塗られた柱や頭貫に白く筋がはしっているのが見え、割れが入ったのがわかりました。

「継手はきっと破損しているね。」という声が聞こえました。しかし、何度か左右に傾かされた材はすずしい顔でそこに立っており、思わず拍手したくなりましたが心の中だけに留めておきました。

沢山の部材をきちんと組ませるということは1つの物が一つでがんばろうというのではなくて、堪えられなくなったら次の物ががんばり、また次の物ががんばってそれを受けていく。それはまるで人々が集まって一つのことを成しとげようとする行為に等しく、次から次へ連帶して、問題点とぶつかり、がんばっていくネットワークみたいなものだと感じました。同行した女史が言うのに「〇〇で柱を大きなボルトでしっかりと固定したらそこがパックリいっちゃったのよねー。」確かに連帶する場合一人（1ヶ所）におまかせではダメで皆なでお互いの意見交換をし、お互いを補い合うということが基本にあれば、すばらしいことがやっていけると再認識した今回の実験見学でした。

京都旅行報告（1997.1.17~19）

去年の六月に社内で、“お絵描き会”なるものが始まりました。三渓園を皆でスケッチに行く準備というのが、会の方向性であります。私にとっては会の直後に催される小宴も月に一度の楽しい出来事であります。

そんな酒席での「おい、桂（離宮）にいこうや。」という桂二氏の一言からこの京都の旅は始まりました。正味2日間で清水周辺、上賀茂、祇園、曼殊院、杉本家、聚光院、西芳寺、広隆寺と、時には参加者全員である13人で、時には4人ずつのグループでまわりました。

私自身、桂離宮はもとより、今回の旅で巡った場所には、行ったこともなければ、初めて名前を聞く場所もあるくらいでした。一つ一つの建物を諸先輩方が見解しているのを傍らで聞きながら、何も知らない自分がそこにいました。そんなことを思いつつ、“お絵描き会”的旅行の報告ですので幾つかの絵をその時々で感じたことと併せて添えてみました。

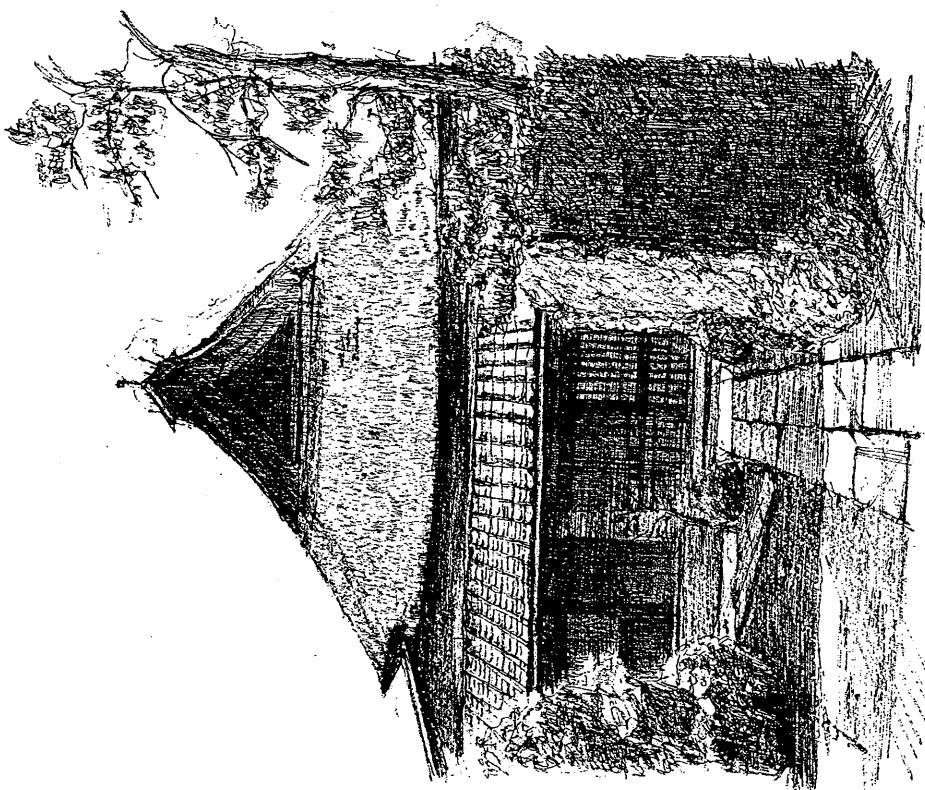
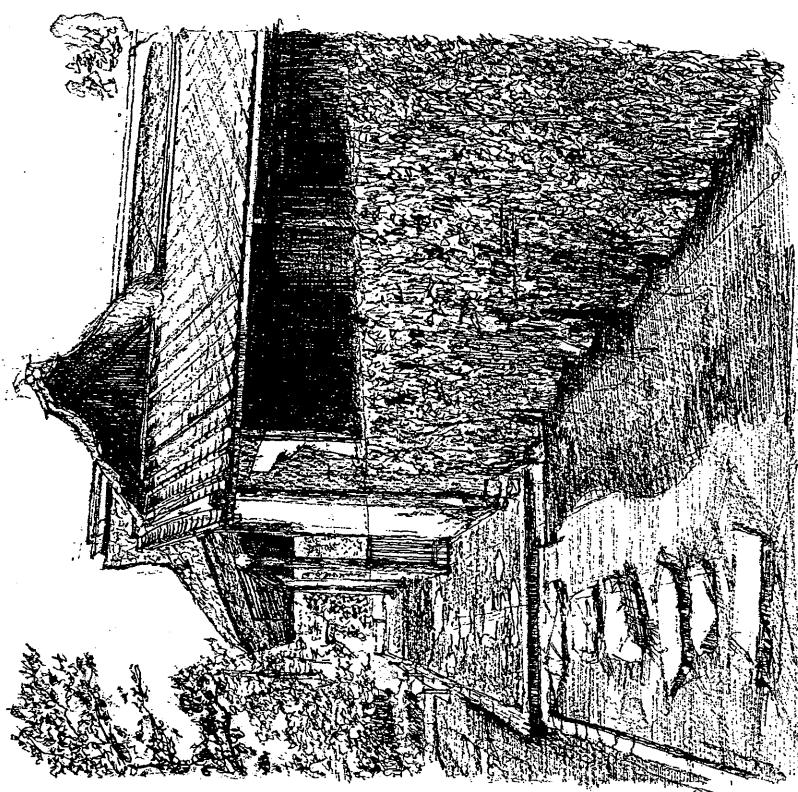
（戎居連太／連合設計社市谷建築事務所）

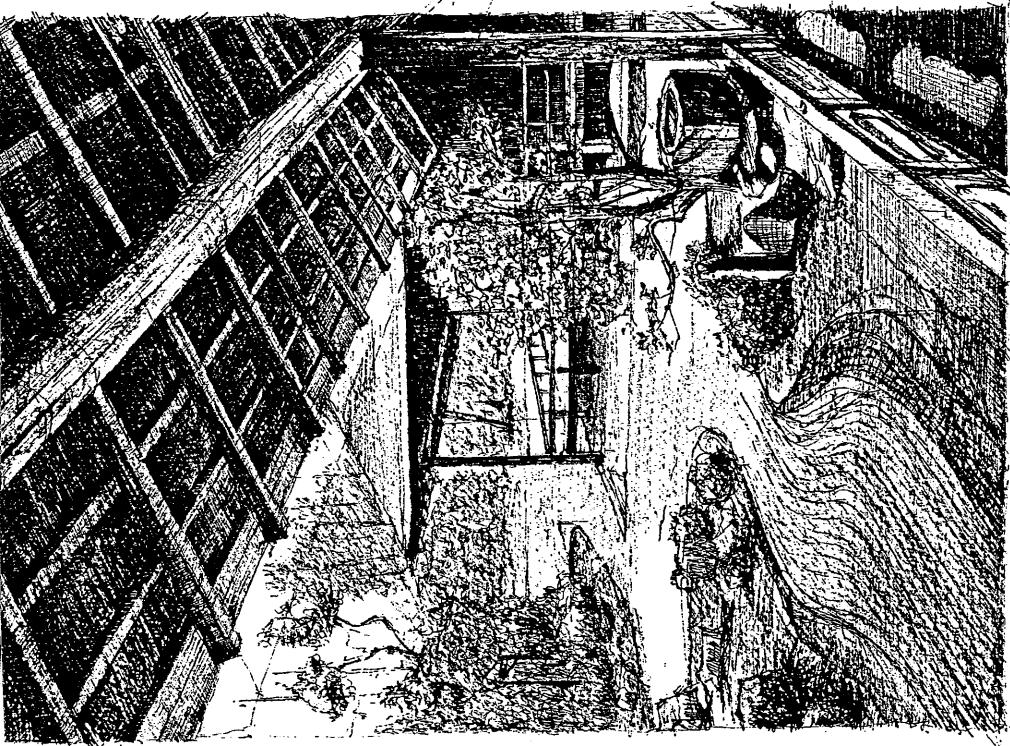
なお、今回拝観した場所で予約や申し込みが必要であった建物についての情報を最後に添えております。

松亭： ダイナミックな動きのある茅葺きの入母屋屋根と、静的にそれに寄り添うように立っている瓦葺き屋根の下屋の重なりが向とも言えず美しかった。また手前の壁の色が心地よかったです。

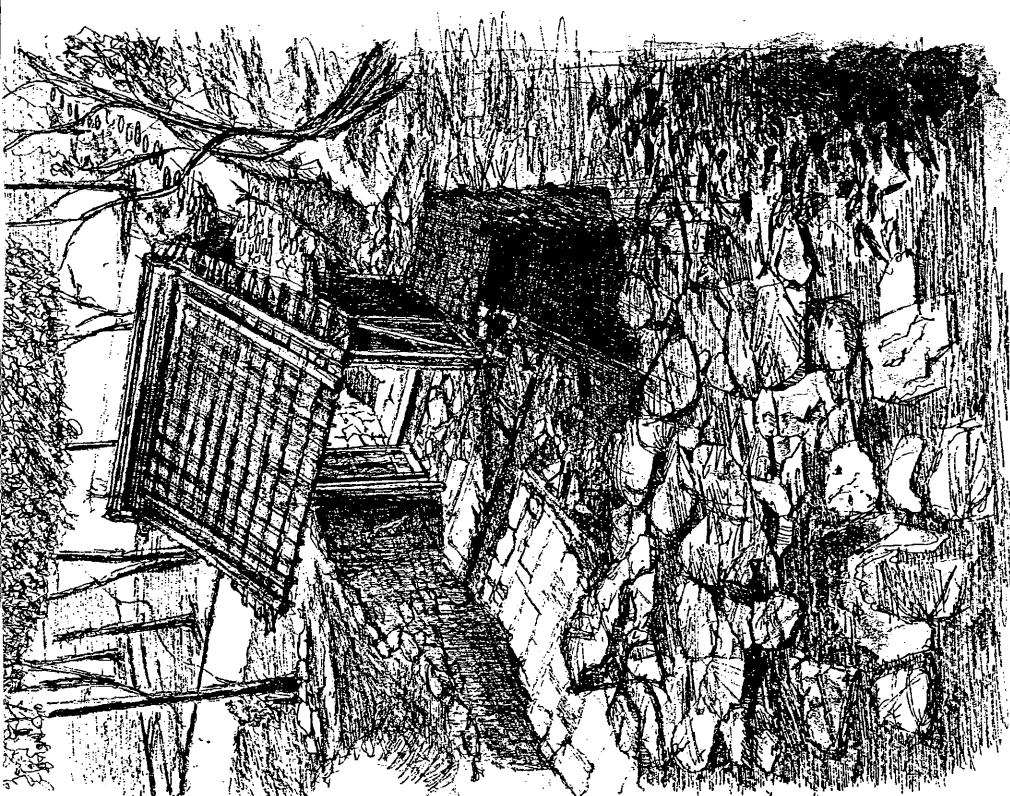
松亭： 車の騒音にも負けず、どっしりと構えた風格のある民家があった。

桂駅から桂離宮をめざして車の往来の激しい道を進んで行くと、そんな道路と家の間にある敷石や植栽が建物に奥行きをつくっていて、その奥行きと建物の重なりや、曲線をもつ茅葺の入母屋屋根と水平線を強調する瓦葺の下屋の重なりが、美しくもあり豊かに感じられた。





曼殊院：枯山水の庭園に沿って雁行した縁側は、深い軒に包まれて余計な音が消され、静寂な時が流れました。軒によって切り取られた庭やそれによって見え隠れする縁側の奥行きに、わたしは吸い寄せられました。



西芳寺向上閣：左手に池やそれを包み込むような苔、右手に限りなく高く伸びていいく竹林を見ながら、耀やかな屋根道を進むと、そこには光と影を身に纏った小さな闇があった。そこをくぐって縁に伸びる急な石段を上りながら、その何げない対面にわたしあはふと、後ろを振り返った。

事前に申し込みが必要な所

■桂離宮：参観所要時間 約1時間

※1・2・7・8月の参観は、比較的空いてるそうです。

4・5・10・11月の参観は、早くから満員となるそうです。

※申し込み方法等（別紙）

■西芳寺：2か月前に予約。詳しくは要電話

☎615 京都市西京区松尾神ヶ谷町56

電話（075）391-3631

拝観料3000円

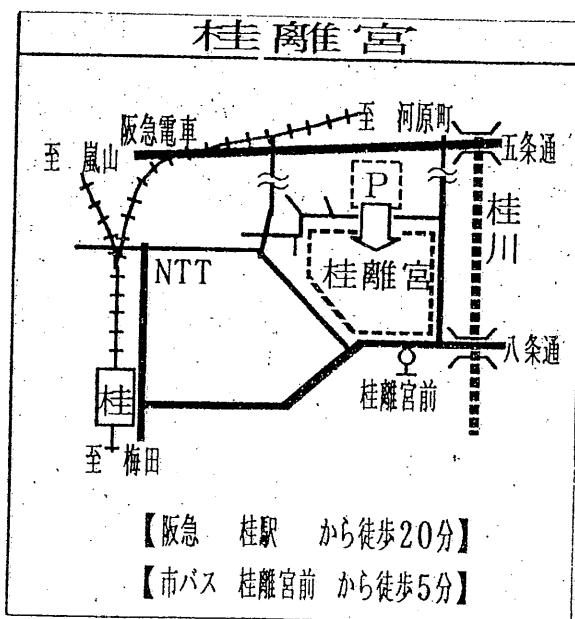
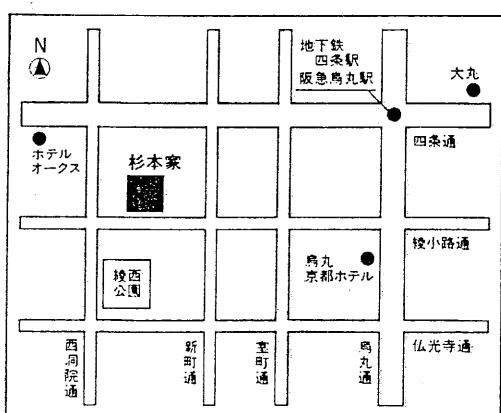
■奈良屋記念杉本家保存会：

御芳名・日時・人数を一週間前までに連絡する。

☎600 京都市下京区綾小路通新町西入ル矢田町116番地

電話075（344）5724

FAX 075（343）3773



1. 申込方法ならびに申込書の書式

(1) 郵送の場合 —— 往復はがき（官製）を使用のうえ、下欄の書式見本のとおり申込書を作成して下さい。

(2) 窓口の場合 —— 官製はがき、または、当事務所窓口備え付けの申込用紙を使用して下さい。

* いずれの場合も、代理の申込みはできません。

2. 申込書の記入要領

(1) 参観代表者について

参観希望者の中から1人を選んで、代表者として、氏名（ふりがな）を記入して下さい。

参観希望者以外の人が代表者となることはできません。（代理の申込みは出来ません）

(2) 参観場所について

参観希望場所の所定の位置に、1か所のみ記入して下さい。

2か所以上を希望の場合は、それぞれの場所ごとに申込書を作成のうえ、申し込んで下さい。（1か所1通必要です）

(3) 参観希望月日について

参観希望の月日を第1希望、第2希望、第3希望の順に記入して下さい。ただし、申し込みが多い場合、当所の行事が実施される場合は希望月日をお聞きできないときがあります。

参観休止日（参観の取扱いがない日）は次のとおりです。

土曜日、日曜日、国民の祝日、振替休日、12月25日から翌年1月5日までの各日のほか、行事等が行われる日。（ただし、4月、5月、10月、11月の毎土曜日、及びその他の月の第3土曜日は参観できます）

(4) 参観者について

参観希望者（代表者を含む）全員の現住所、氏名、年令及び性別を記入し、最後に「計 人」とお書き下さい。1通の申込書で申し込む参観者の人数は4人までです。（団体の取扱いはできません）

20歳未満の方は参観できません。許可書発行後の人員の追加は認めません。

（注）同一の申込者あるいは同一の職場・学校・地域又はサークル等と判断されるものからの同一参観場所について2通以上の申し込みについては、お断りすることがあります。

3. 申込書の受付期間

(1) 郵送 —— 参観希望月の3か月前の月の1日消印から希望日の1か月前までの消印のあるもの。

（例）参観希望日が5月31日の場合は、2月1日から4月30日（消印）まで。

(2) 窓口 —— 参観希望月の3か月前の1日から希望日の前日まで。

受付時間は、午前8時45分から12時まで、午後1時から4時までです。

土曜日、日曜日、国民の祝日、振替休日及び12月28日から翌年1月4日までの各日は受付を行っておりません。

なお、上記受付期間内であっても満員になり次第締め切ります。

宮内庁京都事務所 参観係 (075) 211-1215

【書式見本】

往信「う ら」

参観申込書		申込年月日	
宮内庁京都事務所長 殿			
（ふりがな） 代表者 氏名			
参観場所			
参観希望日	1. 月 日	2. 月 日	3. 月 日
現住所	氏名	年令	性別
1. (参観者全員記入下さい)			
2.			
3.			
4. 計 人			
代表者の現住所、氏名及び輸送 連絡や郵便について記入。			
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
郵便はがき			
<input type="checkbox"/> 裏			

返信「おもて」

返信「う ら」

現住所	氏名	年令	性別
1.	2.	3.	4.
(参観者全員記入下さい)			
計 人			
中 中 央 線			
中央線以下を空欄にして下さい。			
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
郵便はがき			
<input type="checkbox"/> 裏 <input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> 6			
京都市中京区京橋御船町11番 内閣府京橋事務所			
参観係 ね			
<input type="checkbox"/> 住 <input type="checkbox"/> 信			

往信「おもて」

平成7年7月現在

おばあは、

「いんや、いじよ。いじが極楽よ。まだよ、
もしかすと、いこは地獄かもしんねな。」

やう言って、アハハと声をたてて笑った。
けれど、すぐに真顔に戻つて

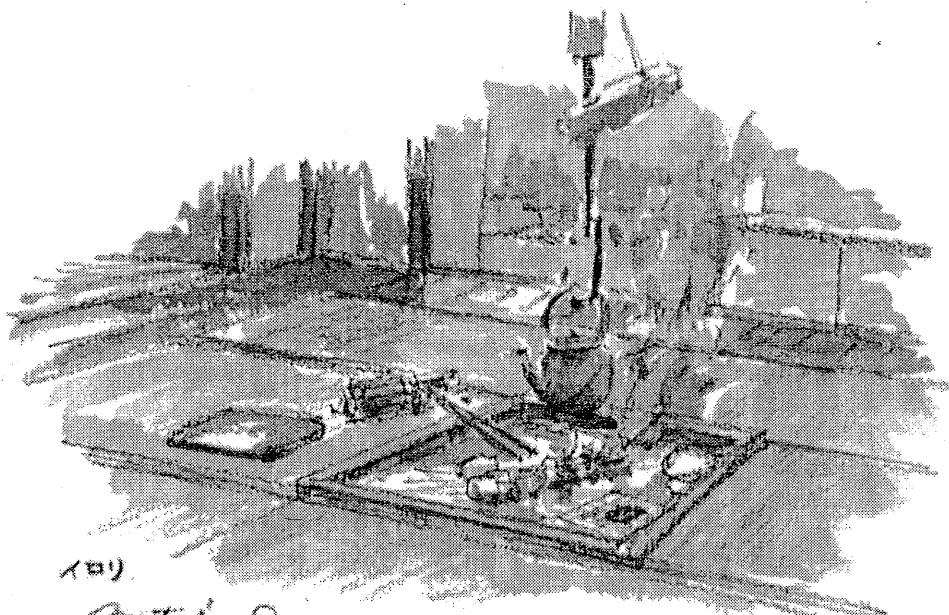
「人は、自分のいのちをだいじにするよな。

けど、この家を見てみい。今はプレファブ
やらなにやらホームやらぬうで、積み木の
ようにポンポン家建つけど、この家はさあ。

裏の山の木切つてえ、長いこと乾かしてえ、
柱も梁も一本一本、氣い入れて」さえられ
てるんだ。
じゃがな、おばあが住まなくなつてみる。
あつと言う間に、この家のいのちはなくな
るだろ。」

「そんなことありやしないよ。」

ぼくは、おばあと話すのに飽きて、昨日父さ
んが町から買つてきてくれたミニ四駆の組み
立てにかかっていた。ぼくの様子を見て、お
ばあは、話すのを止めた。そして火床にまき



を一本足すと

「彼岸を越すと、冷えてくんna。どつこい
しょ。」

と、ふかしいもの入つていた鉢を取り上げて
立ち上がり、台所の方へ降りて行つた。ちょ
うどその時、茶箪笥の横の柱時計が、少しく
たびれてたわんだ音でボーンボーンボーンボ
ーンボーンと五つなつた。

おばあはそれから二度と、そんな話をぼく
にすることはなかつた。ぼくも、おばあが
この家にいたがつてることだけは分かつた。
そのうち、そんな話をおばあとした」とも、
ぼくは忘れた。

おとなたちはそれからも、おばあの家から
百歩と離れない所に建てた、日当たりの
いい新しい家に住みなさればいい、としきり
に勧めたけれど、おばあは

「いんや、ここがええ。」

と首を横にふるばかりだった。

坊よ。

あだひのやさしい人じゅうた。

あんたの父さんがまんだねんねの「ひふよ。
やひと歩けるようになった時分でな。

ああ、おばあには、みんなの声が聞こえる
よ。ほんににぎやかなあ「

土間に降りたくても降りられねえで、わあ
んわあん泣いてなあ。

おばあは、そう言いながら遠いといひをせん
やこと見ていく。

ほれ、その上がり口の柱の所。
ひょいとすると今でも、その柱はしおりか
らいかもしれねえ」

ぼくは、赤ん坊だった父さんが柱にしがみつ
いて泣いてたなんて信じられないな、と柱と
おばあの顔をかわるがわるながめた。

おばあは、いろりの火床にまきを一本たし
た。そして、ふかしいもをもり一本、ほれと
ぼくの方にさしだした。ぼくは受け取るなり
かぶりつけた。おばあは小さな目をじょいよ
細めうなづきながら、また語りだした。

「あなたが、なあんも、なあんも。
ありがてと思うけんど、おばあにちが
一一番よ。

さみしこともなあんもねえ。この家はで
たいどいど、おばあせのうひめ嫁に来た
てのこる、いろんなことが教わったわねえ。
ぎやかなんだよ。

ものかたり ②

大庭 桂

あだひのやさしい人じゅうた。
ああ、おばあには、みんなの声が聞こえる
よ。ほんににぎやかなあ「

ぼくは一度だけ、いろりの端はなでまだ湯気の
たっていがむ甘いさつまいもをほおぱりながら、
おばあに尋ねたことがある。「おばあ、ひとりでここに居てさびしくない?
ごくんちに来てくればいいのに。みんな
そういう言つてゐるよ」

おばあは、ほんの少しの間ぼくの顔を見つめ
て、ふいと目を細めると首を横にふりながら
言った。

「なあんも、なあんも。
ありがてと思うけんど、おばあにちが
一一番よ。

最後のふかしいもをのみこみながら、ぼくは
言つた。

「そりや、極楽でだろ」

第4回 お茶会のお知らせ

「設計者が語る茶室」 第2弾

今回は少し足をのばして茨城県古河市での茶会です。古河のまちづくりに力を入れてこられた吉田先生が昨年鷹見邸の庭に小間の茶室を設計されました。この茶室で前回に引き続き「設計者が語る茶室」ということで茶会を企画しました。昨年茨城県匠大賞を授賞されました川島棟梁から施工者側のおはなしも聞けるかと思います。古河の町を訪れたことのない方はもちろん、すでに行かれた方もぜひご参加ください。また夜には、懇親会も企画しています。吉田先生に古河のまちづくりのお話などゆっくりとうかがいましょう。

・日 時 : 4月26日(土)

10:00	鷹見泉石記念館に集合
11:00	設計者、施工者、建主のおはなし
12:00	昼食
13:00	お茶会
{	
15:30	後かたづけ
16:00	一部解散
16:30	懇親会
{	

・会 費 : 3,000円(昼食代含む、懇親会は別)

・参加申込 : 以下の通りFAXにてお申込ください。

FAX 0429-77-2491 (岡部) ※当日の連絡先 030-080-4710
〆切 4月19日まで

世話人 岡部・勝見

-----切り取り-----

お茶会に参加します。

平成9年 月 日

氏 名 :

他 名

連絡先 :

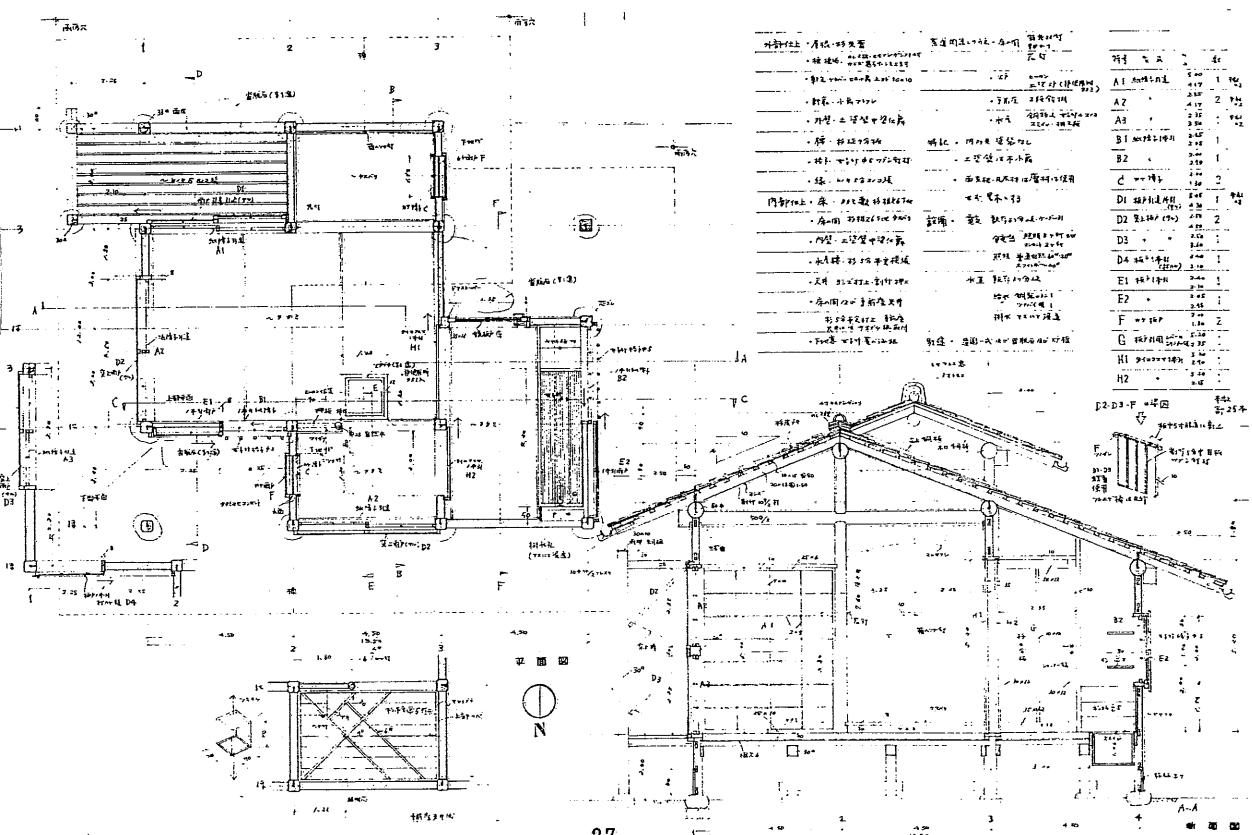
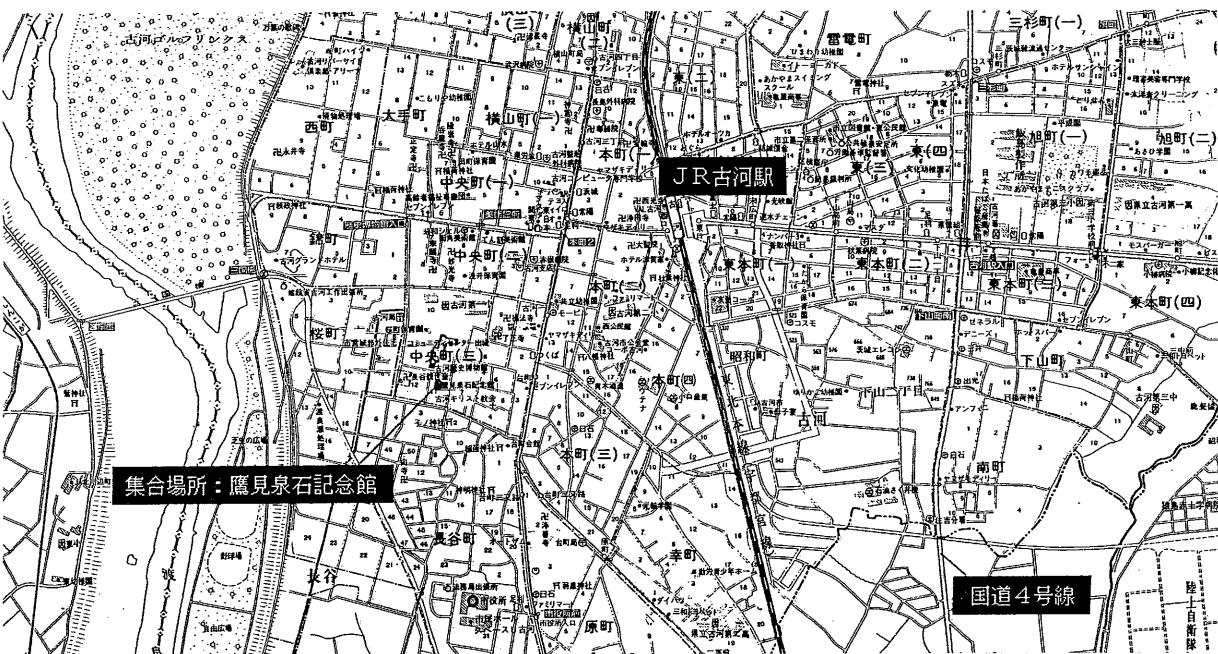
- いずれかに○をつけてください
- ・お茶会のみ参加します。
 - ・懇親会も参加します。

お茶会のご案内

日時：4月26日（土） 10時

場所：鷺見家妙徳庵（茨城県古河市） 集合場所：鷺見泉石記念館

駐車場あり（古河歴史博物館 P 利用）



■97年第2回世話人会報告

(3/21 於:池袋/ 養老乃瀧)

出席者(吉田、松本、内藤、岡部、益子、勝見、新井 計7名)

1. 第2回定例会企画内容の検討

今号表紙にて案内

2. 機関誌VOL2の発行準備状況について

第3回大平建築宿の対談テープおこしを森山ゆきさんが完了。益子さんと日影さんがとりまとめ第4回大平建築宿で発刊。

3. 第4回大平建築宿の準備について

・日程: 平成9年8月15日(金)、16日(土)、17日(日)

・基調講演: 西村幸夫氏に決定

・民家芝居: 『風の伝説(レジェンド)』 宮沢賢治スッケチ

作: 熊谷勲氏 出演: 江良潤 佐藤次郎(劇団・風の街)

・分科会: 体を動かす分科会を検討中(紙屋の造園など)

■同人活動

・同人多数・・・和風デザイン図鑑 建築知識

・小林一元、高橋昌巳、宮越喜彦、宮坂公啓・・・木造建築用語辞典 井上書院

・吉田桂二、松本昌義・・・住宅建築2月号 米山邸

・江原幸壱・・・住宅建築1、2、3月号 米国西部木材事情

・大庭 桂・・・この会報でも連載中の『夢屋ものがたり』が
「毎日児童小説」小学生向き部門優秀賞を受賞

■事務局より

・「奈良大乗院庭園文化館とならまちと朱雀門」ツアーリ

日時: 10月25日(土)、26日(日)

ナショナルトラストの民家町並みサークルと合同で視察を予定しています。次号で詳しい内容をお知らせ出来ると思います。

・第2回韓国建築文化研修ツアー予定

日時: 11月21日(金)~26日(月)

・エコロジー住宅の実例募集

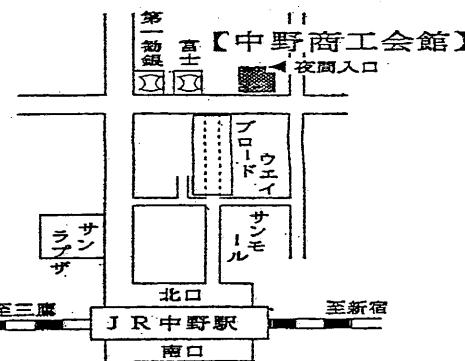
吉田桂二さん編著で講談社よりエコロジー住宅実例集が出版されます。これまで手掛けたエコロジー住宅、工法、材料等をこの機会に発表したいという方は、吉田桂二さんまでご連絡を!

編集後記

- ・今年は、全国的に春の訪れが早いようです。事務所の窓越しに見る桜はもう満開です。(O)
- ・オーガニック(有機)食品の宅配サービスを受け始めました。臭みのない精肉がウレシイ!(K)
- ・会報原稿募集してます。
- ・毎号原稿締切: 奇数月5日

会報編集局: 〒102 東京都千代田区富士見2-13-7

連合設計社市谷建築事務所 新井/勝見



97.5.1(木)6:30~ 於 大会議室

97年事務局: 〒273 千葉県船橋市西船橋5-7-2-201
生活文化同人事務局 松本昌義

TEL/FAX0473-32 4413

生活文化

生活文化同人会報

1997(平成9)年6月号 No.25

次回定例会案内	...	1	
(も) 第4回大平建築宿のお知らせ	...	2	
前回定例会報告「暁」	...	5	
私の近作／高田正巳	B O Z Z 建築工房	...	8
(く) 同人紹介／金田正夫	...	10	
同人紹介／飛山龍一	...	12	
第4回お茶会報告	...	13	
連載「夢屋ものがたり」③	...	16	
連載 シャガン	...	18	
韓国建築文化研修ツアーのお説明	...	19	
世話人会報告・同人活動 事務局より	...	20	

定例会

97/6/27 (金) 6:30 - 9:00

会場：上智大学ソフィアンズクラブ（四ツ谷）

*地図裏ページ参照

テーマ：映画の中の住まい 講師：熊谷 勲

映画を見る楽しみは、人さまざまです。スターに心ときめかしたり、ドラマにのめりこんだり、また、口ヶ先の風景にハッとなにかを発見する人もいるでしょう。

私は、映画の観客の立場ではなく松竹という映画会社で、34年間、100本の映画に立会い、シナリオ書きや、助監督、監督、プロデューサーの仕事を務めてきました。今思えば、現場には100本が100本、決して同じことを描かないという鉄則があり、私には、それが長い間その仕事を続けることができた魅力だったのかも知れません。

さて、映画には映像を保存するという特質があります。したがって、映像はそのまま時代の表現であります。著名な小津安二郎監督の作品では、しばしば俳優たちが、鎌倉の家から東京へ出かけますが、もしその作品群を精密に比較すれば、電車の窓からの京浜の風景の変容は、都市学の博士論文になるやも知れません。

同じことが、日本の住まいとその変化にも見ることができます。私は演出側の人間ですが、この度は、いくつかの映画の中から、現代の住まいの変容を、また時代の変遷を、美術という視点から考えていきたいと思います。（熊谷 勲）

「小津映画などなど、映像を見ながら、お話しをしていただきます。
こうご期待！」（世話人 内藤敬介）



彼岸花（監督小津安二郎）

第4回大平建築宿を開催いたします

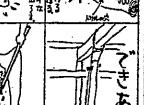
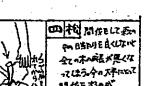
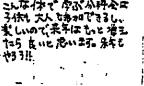
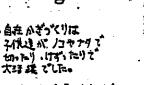
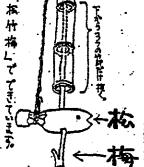
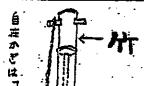
大平建築宿は今年もおおぜいの参加者を待っています！

森の中で、星の夜の下で、再生された伝統的な民家の屋根の下で、いろいろを囲み語り合おう！

日程 97年8月15日～17日



合江がせきをつくろ



イラストは前年度の分科会
「生活の道具をつくる」の
光景を森山ゆきさんによる
イラストで書いたものです

主催 生活文化同人 共催 歴史環境設計会議

後援 飯田市役所 建築思潮研究所 建築知識 日本ナショナルトラスト

蛇口をひねれば水が出て

スイッチを押せば電気がついて、

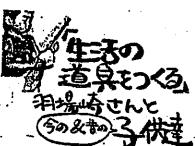
、ツバキをわせば火がつく。この

便利な世の中で忘れては

テーマ 「近代化の功罪」

便利な世の中で忘れては

生活の矢先と
思い出そう！
人間もとがくに
たくましく！



新聞紙だけで
ご飯をたべる

大地震が来て電気やガスが
止まても、あたまをするこ
とに。

新聞紙1枚1日分の燃え料で
1日分のご飯(4食)がたけ
るのだ。どうやるかという比
較。

新聞紙1枚1日分の燃え料で
ご飯をつくってやる。

紙は元々木の燃え料だから
やーと因めて元の木と同じ
状態にするのです。

あとはまとめてやる。

たくさん新聞紙をまとめて
なんに何気に赤い火が
燃えるのです。このチャ
レジニアス 夕食時間にまとめて
くいじだ。時間のかかった
が(火を燃やす木がある使
ったけれど)なんと7時間
かかる新聞で28枚
小さくしてしまいました。

みんなでおつかれ様でした。

たくさん新聞紙をまとめて
火をともす。これが

新聞紙を
火をともす。これが

新聞紙を
火をともす。これが

新聞紙を
火をともす。これが

プログラム

- 15日(金) 14:00 現地集合・開宿式・掃除・草刈り
17:30 炊事・夕食
19:00 二人芝居
「風の伝説「レジェンド(宮沢賢治作)上演
—懇親会
- 16日(土) 7:00 起床・炊事・朝食
9:00 基調講演「古い町並み・これから町並み」
西村幸夫 東京大学工学部教授
12:00 炊事・昼食
14:00 分科会
17:30 炊事・夕食
19:00 子供(大人の飛び入り歓迎)の出し物
～スライド上映～懇親会
- 17日(日) 7:00 起床・炊事・朝食
9:00 総括会議
11:00 閉宿式・障子紙の張り替え・掃除
12:00 解散

第4回大平建築宿へのお誘い

大平建築宿は、今年で4年目を迎えます。

この塾の目的に、大平宿の保存と再生があるのはいうまでもないことですが、ごく近年まで私達の生活の容器だった民家に、僅か2泊3日といはいえ、住み手となることが体験できること、これがこの塾の大きな魅力であろうと思います。

そうした体験の中から、現在、私達が住んでいる家と民家との大きな対比がいくつもの疑問となって、心の中にうずまくであろうと思います。この対比の中から、つかみとるものがあるとしたら、それは今回の塾のテーマとして掲げた「近代化の功罪」に他はありません。

そうした認識こそが明日の私達の仕事の糧であるに相違ないはずです。

生活文化同人 代表 吉田桂二

◆大平宿の場所...長野県飯田市大平宿

(飯田と木曾を結ぶ大平街道の峠の宿場)

第4回大平建築宿申込書

この申込書に必要事項を記入の上事務局まで郵便またはFAXにて送付下さい。

また、参加費用は、申込時に下記郵便口座へ振込をお願いいたします。申込された方には8月初旬にパンフレットを郵送いたします。

■振込先 郵便貯金総合口座 10160-41949741 大平建築宿事務局 江原幸壱

■応募締切り 7月11日

■お振り込み後のキャンセルは、原則として致しかねますのでご了承ください。

参加申込書

◆参加者 名前 _____ 年令 _____ 性別 男 女

住所 〒 _____

電話 _____ FAX _____

勤務先・学校名 _____

住所 〒 _____

電話 _____ FAX _____

◆家族参加者 名前・年令・性別(幼稚園児以下は無料です)

◇

◇

◇

◆参加日程(いずれかに○、B日程の人は参加日程に○)

・ A日程(全日程参加)

・ B日程・8月15日~16日・8月16日~17日

◆参加費用(食事代金は含みます)

○A日程(全日程参加)

大人 15000円 子供(小中学生) 6000円

○B日程・8月15日~16日(16日の昼食は含みません)・8月16日~17日

大人 10000円 子供(小中学生) 4000円

◆参加希望分科会(いずれかに○)

・第1分科会「新しい町づくりの作法」

八甫谷邦明(「造景」副編集長) +松井郁夫

・第2分科会「住民参加のまちづくり」

藤原恵洋(九州芸術工科大学講師) +行重礼晃

・第3分科会「古建築の修復と現代の構法の展開」

渡邊隆(真木建設社長) +小林一元

・第4分科会「自然を遊ぶ」

羽場崎清人(アルススポーツ社長) +岡部知子

◆寝袋(いずれかに○)

・レンタルします(・1泊 1000円 ・2泊 2000円)支払は現地でお願いします

・持参します

◆交通手段(いずれかに○)

※飯田市内からのマイクロバスの手配がありますので必ずご記入ください。

・自家用車利用:自宅~飯田~大平宿

・席に余裕があるので誰かを便乗できます・席に余裕がありません。

・高速バス利用: ~飯田~大平宿

・飯田市役所からマイクロバス希望します・飯田バスターミナルから自力で行きます

・電車利用

・飯田駅からマイクロバスを希望します。

◆申込書の送付先 事務局 木の建築設計 江原幸壱

〒169東京都新宿区大久保3-10-1-606 電話/FAX 03-3204-9373

大平宿「紙屋」を舞台に、劇団「風の街」が送る！

民家芝居

風のレジェンド

宮沢賢治スケッチ

作 熊谷 勲

出演 江良 潤 + 佐藤二郎
(劇団 風の街)

風がはげしく吹きわたる。その夜、その宿に、その男はやってきた。
男はなものなのか。どこからきたのか。どこへ行くのか。
針のない時の沈黙。炉の残り火。ゆれる自在カギ。それは?
と、男のまえに、、、、なに? だれ?

とつぜん、とほうもない汽笛! 大車輪のきしみ! 耳を压する蒸気の噴出!
天空を蒸氣機関車、銀河鉄道オメガ本線が浮遊する!
玄にして妙、摩訶にして不思議!
そして、いずこからか、風のレジェンド

あかいめだまの さそり ひろげたわしの つばさ

1997年8月13日(水) 19:00—(一般公演)

8月14日(木) 19:00—(一般公演)

8月15日(金) 19:00—(建築宿公演)

会場／長野県飯田市大平宿「紙屋」

制作総指揮／杉本 一 演出／北岡静治 制作美術／内藤敬介 制作宣伝／松本昌義

音楽／加藤由美子 音響／石神 保 照明／平山奈美

主催／生活文化同人

後援／飯田市、日本ナショナルトラスト 協力／大蔵実、大平宿をのこす会

生活文化同人定例会報告 「畳」の話

今回の定例会では、畳関連商品の問屋である㈱新井啓佐司商店代表取締役新井将佳氏に畳全般の特徴、最近の傾向と問題点、将来性についてお話を頂きました。

1・畳の特徴

伝統的な素材を見直す最近の風潮として、畳も様々なメディアで紹介されています。畳は人の感覚を快く刺激する優れた性質を持っています。例えば、い草の香りが α 波、 β 波、 θ 波等を発生させるといったデータもあります。住宅で望まれる香りのベスト3は、1：森の香り、2：花の香り、3：無臭である事からも、住宅に畳を敷く事は理にかなっていると言えるでしょう。い草は泥染めの際に葉緑素を吸収して香りを強くします。人工合成もできますが、3日程で消えてしまいます。

畳は、視覚（鎮静効果）、聴覚（吸音性）、臭覚、触覚を心地よくする点で利用されていますが、食べる点でも、江戸期、てらしまじょうあんの書（広島）で可食部としてのい草が紹介されていたのをはじめ、今日も漢方薬として（利尿剤）、又、懐石料理に利用される等、様々な試みが行なわれています。

畳は吸湿性に優れ、布団を通じて1晩でかいた汗の1／3を吸収していると言われます。しかも室内が乾燥すると適度な水分を放出します。ダニ、カビ等の発生を抑えるためには、畳内の空気を動かす事が大切で、踏む事で空気の出入りが起きますが、昔から行なわれている畳をあげての陰干しが有効です。畳表の裏返しは中のわらが腐る場合があるので2~3年以内が良いです。

2・畳の問題点

自然素材の1つとして畳が見直されていますが、コンバインの普及等により昭和35年頃から長わらの不足が出始め、その代用品として化学畳が登場しました。昭和54年には、天然わら畳と化学畳の市場占有率が逆転、ダニ、カビ等の問題もあって、現在ではわらのみでつくられている畳は全体

の 12~13% 程度です。この化学畳には様々な問題が指摘されています。

畳に含まれる化学物質について

塩ビ・F P S(フルムポリスチレン)：小量ながらダイオキシンの検出が認められます。

畳表：マラカイトグリーンと呼ばれる着色剤が、希釈されて使用されていますので、化学物質過敏症の人への影響も考えられます。吹付塗装の場合、顔料内の接着剤に問題があります。

防カビ、防虫剤：有機リン系の農薬が使用されています。

畳床：ベニヤ内からホルムアルデヒドが検出されます。濃度の低い F1 合板程度を使用したいものです。

畳表：中クラス以下の製品として、現在、台湾、韓国、北朝鮮、中国製品が流通しています。防虫剤加工、ナフタリン加工されたものが多い様です。着色顔料として酸化チタンを吹付ており、目の高さに持ってきて見ると表面が白っぽく、化粧したように見えます。

畳床の素材として、インシュレーションボード、半炭化コルク、真綿、木炭等を組合せた製品も登場しています。本畳の場合ダニが発生し易いので、不織布等を畳表と畳床の間に挟み、ダニ、ゴミが下に落ちるのを防ぐのが有効です。新素材が登場する一方、これまで無理とされていた無農薬による草作りも試みられています。又、不可価値商品として、フローリングと同厚 10 mm 程度のバリアフリー対応型も流通しています。が、畳は 30 mm 以下になると著しくその性能を失います。多種多様の畳が流通していますが、安易な選択は避け、適材適所で使い分けることが必要です。

3・畳の将来性

現在、バウビオロギーの建築家ヨアヒム・エブレ氏の講演等、環境共生住宅をテーマに様々なイベントが開催されています。又、消費者保護、環境保全の立場から、各企業、団体に於いて、国際標準規格(ISO14000 を標準としたいとの事)や P L 法の中で、業界規格、品質表示が整備されつつあります。

(エアサイクル産業㈱ 八代茂子)

定例会「畳」 -感想などなど-

たたみは日本古来のもので完成品と思っていたが、時代の要請で日々進歩し、種類の多いことに驚きました。カラーたたみにはさらにどっきりしました。うまく使えば個性的になることでしょう。どのようなたたみが生き残るか、一般の方にももっと情報が広がることを願います。また、炭化コルク入りや備長炭入りなどの特殊畳は吸放湿性能を示す数値の表示も必要となるのではないか。 （高田正巳/BOZZ建築工房）

1)人間の五感が畳にはある 2)畳表にもいろいろな織り方がある 3)化学畳の種類などを発見した。しかし、私は畳について素人なのでもっと具体的なアドバイス(例えばこの畳はこういうときに使うと良い、など)。使用者向けのもっと実用的で現実的な話が聞きたかった。自分で勉強しなさいということなのでしょうか。きっとそうでしょう。

(町田視子/エアサイクル産業)

あまり畳床の中身を複雑にしない方法で、あまり多種の物質を混入しない方法で、日本の文化を大切にした本来の畳の役目を、もっともっと多くの人に知ってもらいたいと思いました。住まい方の作法などに無知な自分を恥ずかしく思いました。ありがとうございました。
(上森清美/エアサイクル産業)

畳という字は、田んぼと関係していることが実に重要であります。自然と共生する中で生まれた素材、材料をもう一度見直していく仕事ができたらいいね。(宮越喜彦/木住研)

①純粹にワラだけでできている畳床のシェアが少ないので驚いた。
②作り方、規格寸法、材料などの技術面での説明がもっとほしかった。
③有害な物質が畳のあちらこちらに使われているのがとても残念。具体的な改善方法を提案してほしかった。
(勝見紀子/連合設計社市谷建築事務所)

ワラ床や各種建材床それぞれの特長、欠点などを具体的に聞きたかった。(羽沢昌子)

4月に会員になり初めての定例会出席です。自分なりに住まいの素材についての知識はもっているつもりでしたが畳の持つ奥深い性質、機能に改めて驚かされるとともに自分の知識がいかに浅薄なものか思い知りました。今日を機会にこれからもっともっと自然の素材について学んで、人間にとて本当に健康で豊かな住まいの研究をしていきたいと思います。
(村田輝夫/清水建設)

八郷町 八角 の家



丈夫で長持ちする伝統軸組の家 「茨城の木で家を造る」

茨城の木にこだわって、
材木屋や大工や職人たちと
話し合いながら
木の家造りを実践しています。

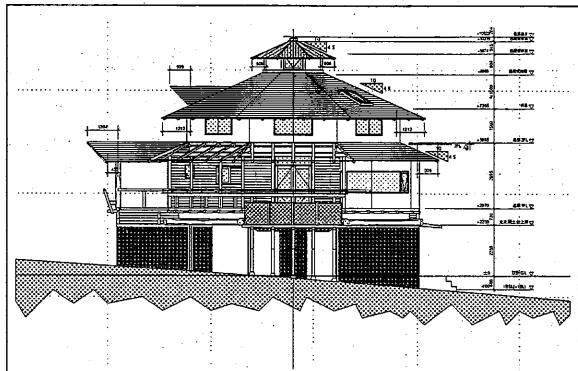
私は、以前からパッシブ設備デザインに興味があり、意匠や構造と一緒にパッシブ設備を兼ね備えた建物を造りたいと思っていました。

近年、環境問題がひんぱんに取り上げられるようになり、自分なりに、様々な主構造を経験する中で、耐久性のある木造建築が、一番環境負荷が少なく、持続可能な建築生産体制であると思い、3年くらい前から、太軸の伝統木造を中心に設計計画を進めるようになりました。

ちょうどその頃、同人の活動を知り、以後同人の活動に参加させていただいております。かねてより尊敬する吉田桂二先生や、木造建築をとりまくさまざまな分野の方のお話は、楽しくなります。今回は、同人誌編集室より、原稿依頼をいただきこの場をお借りし自己紹介させていただきました。よろしくお願ひいたします。

〒300 茨城県土浦市真鍋3-1-23 香取ビル2F

BOZZ建築工房 高田正己
E-mail : bozz@tnet.co.jp



南立面図

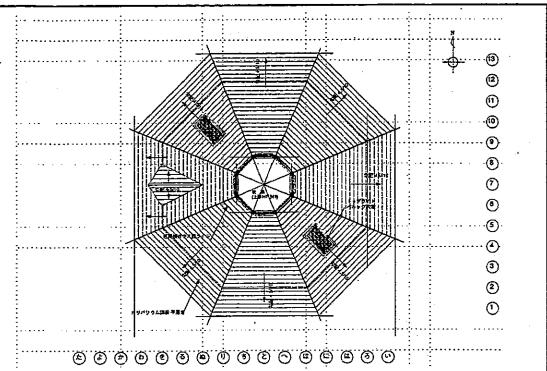
さて、最近の事例ですが、平面にあるような八角形の住宅が上棟しましたので、ご紹介いたします。

■敷地の力

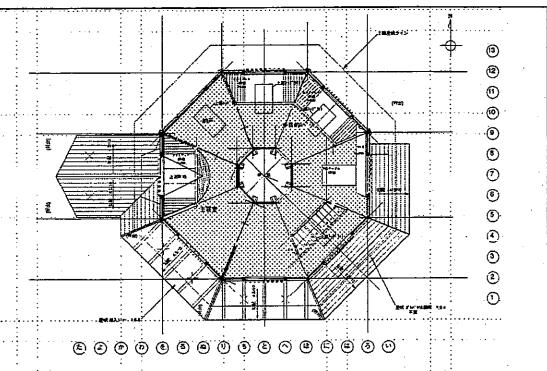
敷地は、茨城県八郷町の360°のパノラマ眺望の得られる別荘地のような場所です。特に北側の筑波山系の山並みは、穏やかでなごみます。地盤が北に緩やかに傾斜しているのが特徴です。初めて現地を見に行った時から、北にも南にも開かれた八角形の平面が浮かんできました。

■構造

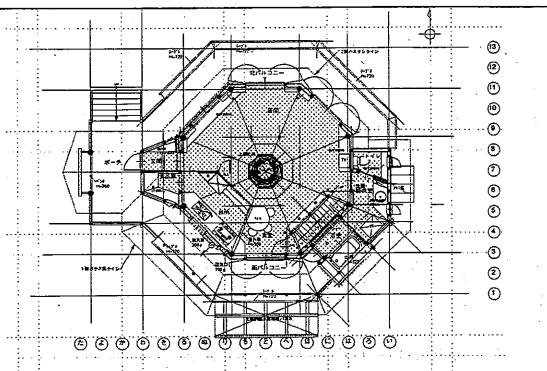
計画は、八角の中心から放射状に丸太を8本配置し、その上に、わたりあご組みの角梁を組んで床を造るという簡単なアイディアからスタートしました(後に設計にも施工にも大変な手間がかかるということはこの時点では読み切れませんでした)。ただ、北斜面の緩やかな傾斜を造成せずにその形を出現させるには、コンクリー



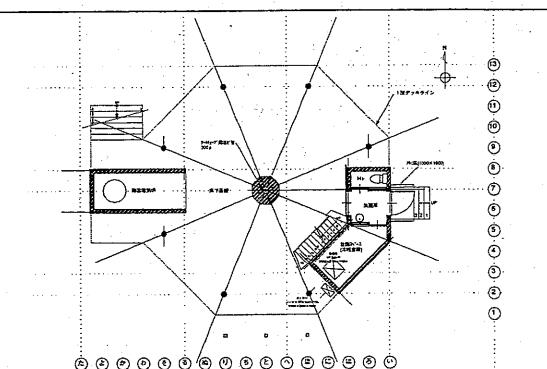
越屋根平面図



2階平面図



1階平面図



基礎平面図

1階床面積 64.64m²
2階床面積 63.59m²
延床面積 128.23m²
敷地面積 492.21m²

ト独立柱で高床にしなければならず、構造が不安でしたので、構造家の増田先生にご相談しました。増田先生からのアドバイスは、中心を軸に回転する力に耐えるため、コンクリートのBOXを1箇所以上配置した方がよろしいということでしたので、玄関の張り出しと、浴室・トイレなどの水廻りの下に、コンクリートBOXを配置しました。金融公庫からお金を借りるため、高床ですが基礎はあくまで基礎として、階数は2階と解釈しています(ちょっと強引でしたがうまく通りました)。

■意匠と一体のパッシブ設備

ご夫婦二人暮らしの家ですので、1階をパブリック、2階をプライベートとするゾーニングになっています。いずれの階もぐるぐる回れる動線があり、家は無限に広く感じられます。1階のまん中には、居間の中心で腰掛け式の囲炉裏テーブル。上を見上げると、2階吹抜けで越屋根のトップライトから青空が見えます。トップライトの真ん中には可愛らしい大きさのカボチャ東。そのカボチャ東から扇風機がぶら下がり、夏は越屋根のトップサイド窓から排気し、オーバーヒートを防ぎます。冬は、トップライトにたまる熱気を下に送ります。2階は、軒高が1500に押さえられていて、小屋裏気分。ゴロリと横になるとパノラマ景色がよく見えます。屋根は、杉厚野地板7、30の上に40mmのスタイル断熱材を施し、さらに通気層を取り夏のオーバーヒートに備えます。屋根材は熱反射を考え、ガルバリウム(シルバー)段葺きです。シルバー屋根は、宇宙ステーションの様でもあり目立つので、近くにあるハングライダー飛行場から飛び立つライダーも時々空から現場見学に訪れるようです。厚野地板の杉はもちろん茨城八溝山の杉で、2Fの天井仕上を兼ねます。中には黒っぽいものもあります。もちろん節のたくさんある一等材ですが、そのワイルドさが、気に入っています。

■植物利用

完成予定は、本年八月の予定。将来は、南西方向にキウイ柵による日射遮蔽スクリーン、既設合併浄化槽からの水を有機肥料にした野菜栽培、ハーブ作りなど、植物好きの建主のアイディアは広がります。

同人紹介 —金田正夫—

設計工房 無垢屋 主宰

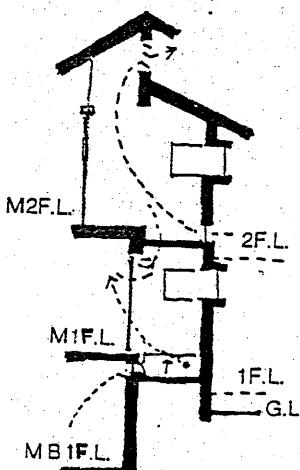
難歩い計算をしないで絵を書いていればいい位の気持で建築を進む。ただ根っからつくることが好きで、小さいと直かる端材を利用していろいろなものを作ったりしていたので、とにかく建築に尺度をつけて実験。9つ受けたやつひっかかったのが工学院大学。今思えば「ここで」の生活が自分に決定的な影響を与えたことになった。

吹き荒れる学園紛争はいやでも社会に目を向かせた。当時学生職員の半数以上は車あれば立てる位の状況でもあった。金魚学生には毎回に生協の方に車が不う刃汽び設立運動にかなりのエネルギーを注ぎ込む。4年の時ついにそれなり實現。人の運命はすでに与えられていいものでなく自分の手で切り開くものと確信をもつ。矛盾が大きくなる中で社会を変える力が生まれることをほどの所であつた。



建築の勉強は通り一辺にはするも皆好んで熱く語っていたカルトニクン、etc. 1は人と興味をもたず、卒論は住宅問題を住み手の側からとらめてようと先生の指導を受けて順序にまとめる。おP會で合格せりぎりの評価となる。

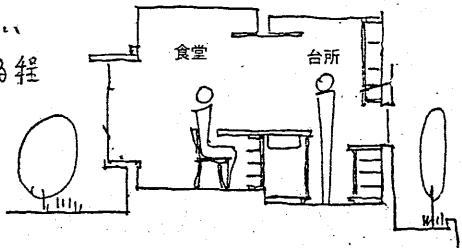
就職も波乱万丈。設計事務所2つをたて続けに前になる不景氣の嵐を初算からあひる着眼といい内であった。社会のきびしさをたまつと教訓ともい感謝する。



やつと入った3つ目の職場は3度目の正直。火災で仕事にとり組むが何せ何の経験もないよう有る。全ての大変な勉強の連続。二の頃から建築を深く併々かじりこなして気付いて始める。一方でもうれしく動いていたのはこの会社。全国建設といふ労働組合、新建といふ技術者団体でも動きすゆつたので職場に震懾をおいつかれて会議は終つてから再び戻つて泊まりこんで書く等はざらとなつてしまつた。やつ充実して日々だった。

約10年経勤めは独立。1年に住宅の設計をつあればいい方だった。食足は近くから今は石碑と設計料にかかりやすくなるんやつてしまう。当時はボード+ビニクロに何の経験ももたなかつた。

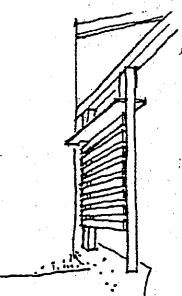
併々に古い建物や集落の見余調査に参加する中で先人のやってきたことを半端でないと思いつらめる長い年月の風雲に淘汰されて残ったその深さを知れば知る程興味をひかれしていく。



今は仕事の大半が住宅。別に他を断つていいわけではないが。1年には2、3棟位で誠一杯のところ3つから半度うす食べていい。これは一生続きました。

しかしながら、下記の特有点にこだわりをもてて食べられない。住宅の設計をひとつここやっていますとしている今日この頃である。

1. 住まいづくりは暮らしとつくり
2. 先人の智慧を生かし応用していく。
3. 自然環境との共生。



高尾の家

- これしか使えないという部屋を作らない
- 質を落とさずにローコストで建てる

千変万化の畳部屋

子供が小さい時はここで寝て寄席をやる時はここが演台演劇公演の時はここが寄席



夏は風の通り抜けになる玄関戸
引込み戸をひっぱり出すと大量の風が南北に通り抜ける

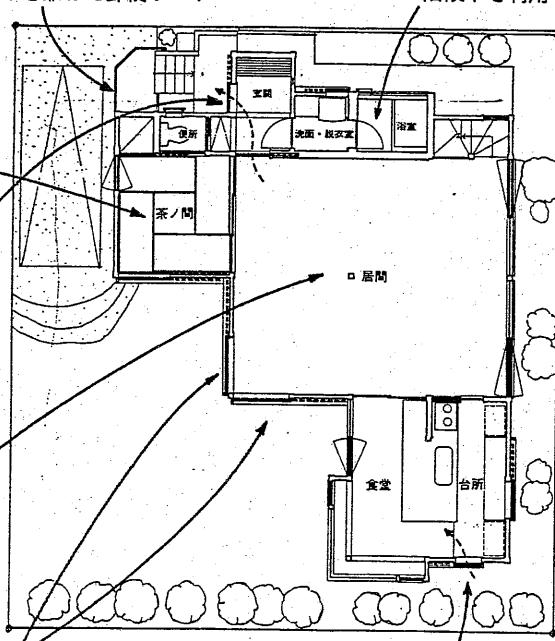
大人と子供の遊び場—21畳の板の間—
日常は子供がおもちゃを広げて走りまわり
ある時は劇団の稽古場や合宿所に
ある時は友人を呼んでのパーティー
たまには劇団の公演や寄席、コンサートも

風が目一杯通る窓

開けると壁の後ろに入ってしまい
開口巾一杯に風が通り抜けていく

車庫と玄関アプローチの
区切りを兼ねた郵便ポスト

階段下を利用した浴室



△1階平面図

物干しに行くときと風抜きの為の勝手口

同人紹介：飛山龍一

1959年 岡山県津山市生まれ
1983年 農林水産省林野庁入庁

現在、赤字に苦しむ国有林野事業の下で働いています。

一番気に入った場所で仕事がしたい、そんな気持ちで、19歳の時にアルバイトで稼いだお金で北米、中南米、東南アジア、インドなど桃源郷を求めて旅に出ました。当初憧れていたはずの北米大陸の雄大な自然や人造都市がどうも肌に合わず、最も感動した風景はインドのアッサム地方の小さな村でした。そこは、小さな尾根が股を開いたように伸び、その尾根は雑木林で、小川を挟んで田圃が続き、畦道に菜の花が咲き、竹林がそよ風に揺れ、茅（？）葺きの民家の集落があり、サリーを着た女性が草を探っている風景、そんな日本の原風景でした。

結局、日本で山関係の仕事をしようということで、一番安い選択として林野庁という役所に入り現在に至っています。転勤が多い職場で東京と行ったり来たりですが、鹿児島、佐賀、岐阜、長野で山関係の仕事をすることができました。特に、長野県の木曽での仕事は木曽桧などの丸太の販売で、すっかり木に魅せられてしまいました。天然木も良いですが、岐阜県や長野県にはすばらしい人工林もあります。退職前の現場作業員の人に丸太を見せて、「これは、あなたが就職した頃、枝打ちした跡ですよ。こんなに高く売れました。」と説明し、これを聞いた作業員の人が目を細めて喜んだ顔が忘れられません。

「生活文化同人」の松本さんや金刺さんと知り合ったのは、岐阜県の田舎の高級飲み屋で、それ以来大平建築宿には毎回参加させて頂いています。同人の皆さんパワーに圧倒されながらも、定例会や大平建築宿をとても楽しみにしています。

最後に、建設省も林野庁も木材の工業製品化、画一化の方向を目指す向きがあります。これは、非常に安い考え方で、選択肢の一つとしては正しいと思いますが、偏向し過ぎた中央行政は、地域の文化や職人の技術の伝承にとって危険ではないかと考えています。残念ながら今は建築、木材と無関係の仕事を担当していますが、役所関係の制度の有効利用、担当等との橋渡しなどができれば良いなと考えています。

鷹見家妙徳庵

報告者：斎藤 奈穂子

(連合設計社市谷設計事務所)

講 師：吉田桂二・鷹見本雄・川島正信

出席者：山口・鷺尾・永用・浅野・野中・沼田・刈部・新井・佐藤・大久保・岸・戎居・
勝見・後藤・佐々・松本・高橋・吉山・深田・杉原・羽沢・岡部・益子・八代・
上森・川越・平山・児玉・中岡・佐々木・斎藤

(順不同 敬称略)

つつじも満開のGW初日、茨城県古河市の鷹見家妙徳庵において第4回目のお茶会が行われた。最初に鷹見泉石記念館で、設計者の吉田桂二氏・建主の鷹見氏・施工者の川島棟梁をまじえ、設計・施工にかかわるお話をきき、その後5～6人のグループに別れて、桂二氏が立てるお茶を妙徳庵にていただいた。



室町時代以来の城下町、日光街道の宿場町として栄えた古河市にある妙徳庵は、古河城出城跡に建つ古河歴史博物館の別館・鷹見泉石記念館に隣接する鷹見邸内の茶室である。鷹見氏の「小間の茶室が建てたい」と言う言葉に、吉田桂二氏が初めて本格的茶室を設計した。当然というべく、この茶室は数寄屋造りではなく、単純丸太架構の茶室となっている。施工した川島棟梁も茶室は初めてということで、色々なご苦労があったようである。川島棟梁は、鷹見氏と旧制中学の同級生という間柄であり、そんな縁もあって以前鷹見邸（吉田桂二氏設計）も手掛けており、昨年はその鷹見邸で茨城県匠大賞を受賞されている。

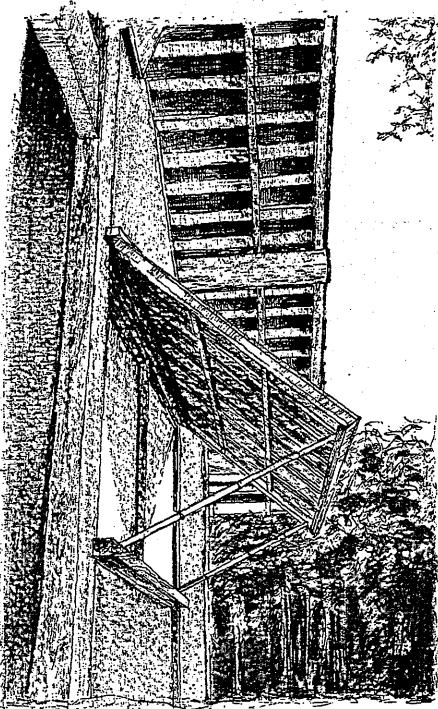
鷹見氏の小間の茶室という要望に、吉田氏は、これは三畳台目しかないとthoughtたとい
う。屋根は杉皮葺、天井はヨシズ張といった具合に設計はどんどん進み、実施設計は
「楽しいことは俺がやる」の口癖どうり吉田氏一人で数日で終わってしまった。図面を
渡された川島棟梁は、まず特記事項の「面皮柱・丸太材は磨材を使用せず黒木とする」
の黒木という初めて聞く言葉に困ったと話されていた。色々な方面に聞いてみたが分か
らず、吉田氏に質問したところ、『銘木でない木』という答えであった。北関東中で黒
木を探したが見つからず、北山に連絡をしてやっと銘木でない黒木を安く手に入れられ
たそうである。

普通の家は屋根から造って下へ仕上げるが、鷹見邸は天井から仕上げて最後に屋根を
架ける方法をとったという。この妙徳庵は、上から仕上げて最後に根っ子を造ったそ
うである。石場建ての上に丸太架構のこの茶室は碁盤の目に足場を組んで、足場を定規が
わりに柱を石に建てていったそうである。

鷹見氏は、生活の中に茶道を取り入れ、日本特有の文化を守っている。茶室は室町・
桃山時代以来、形式を大きく変化することなく今日に伝えられている建築の一つである。
古河のまちづくりに力を入れてこられた吉田氏によって、また古河に一つの文化が生ま
れたのを感じた。

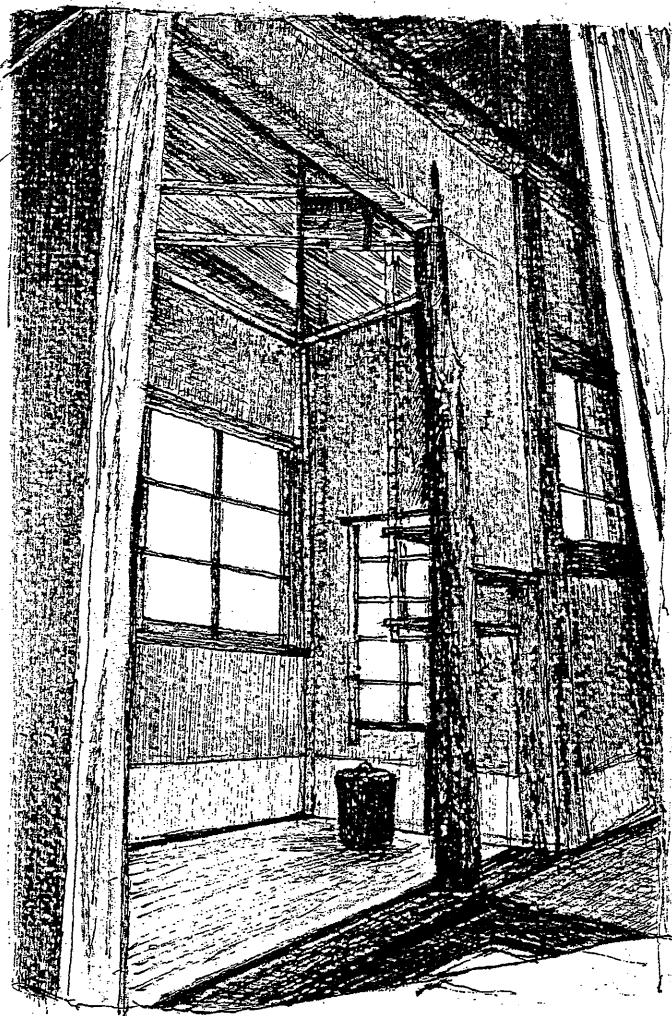
最後に、自邸までも見学させてくださった鷹見ご夫妻、川島棟梁、関係者の方々に感
謝申し上げます。

妙徳庵外部





外壁に出ないように半丸太にした



妙徳庵内部（絵：戎居連太）

1997. 5. 15
Renta.

妙徳庵外部



と言え。わかつたふりするのは、男のする

ことだねえ。」

と時々おばあが言っていたことだけ、いつも頭の隅にこなつた。

おなかが満ちてくると、ぼくはやつと落ち

着いて、ランドセルから宿題のプリントやノートを取り出して、寝そべりながら鉛筆を動かす。机なんかいらない。板の間の照明は、

朝から晩までつけっぱなしだ。昼間でも暗いのでそうなつてしまふ。ぶらついた火床には、春夏秋冬、火が入らない日は無い。どんな夏の日でも朝夕は冷えることがあるし、鍋もかけなければならない。「いろり火はとおる、

とおる、外は吹雪」という歌を、ぼくが小さい時、母さんが、よく歌つてくれた。そんなことをぼんやりと思い出しながら、火床のまきの間にちよちよ舌を出して燃える炎を見つめていると、時間のたつのを忘れてしまつ。パチパチと音を立てて燃えるまきの匂いは、なんとも言えない。ぼくんちのストーブやヒーターでは感じられない、何かがある。



いろりから立ち上げる煙は、おばあの家の屋根を覆っている茅の中の悪い虫を退治してくれるのだと、父さんが教えてくれた。

こりだつたか、ぼくはいろりの近くで遊んでじるうちに「ミニ四駆の炎の中の決死のラリー」を思いついた。いろりの土を固めた火床を巡るコースで、ミニ四駆を走らせるのだ。

ミニ四駆は、予想に反して隅にこしらえたカーブを走らずに、火床中央の炎に向かって、勇ましいモーター音と共に突進したのだ。燃えるまきにぶつかったモーターと車輪は回り放して、プラスチックの白と赤のストライ

プの車体が炎の熱で溶け出した。その匂いに気がついたおばあは、手にしていた縫い物を放り出して、かたわらに置いてあった火ばさみをにぎるなり、目をみはるすばやさで、ぼくの車を炎の中から救出してくれた。車は、さいわい車体が少しづがんだだけで、無事だった。おばあとぼくは、「えかつた。えかつた。」と顔がくしゃくしゃになるほど笑って、喜びあつた。

ぼくの村は、過疎が進んでいて子供が少なかった。もとと山に入ったところに在つた小学校を三つばかり統合したけれど、それでも全学年合わせて五十人に満たなかつた。学校では、友達と遊んだり、授業中ふざけすぎて先生に叱られたり、けんかしたりもする。人數が少ないから、大きい子も小さい子もみんなが親や家族の顔まで知つてゐる。

けれど、学校がひけると、友達と遊ぶこと

風ものかたり

(3)

大庭 桂

ぼくが帰ると、おばあは決まって、板の間の台所に近い圍炉裏端の青い座布団に座つた。

「おかえり。」

「そんなにせかんでもええのに・・・、それ、こひました。」

友達の中には、片道四十分もかけて町の学習塾や習い事に通う子もいた。家に帰つてからミロンに夢中になつてゐるやつもいた。ぼ

くは、兄弟もいないし、父も母さんは仕事に出でるし、だれもいない家でひとりでゲームをやめのぼつまらなかつた。

おばあは、

「このじいの子は、なんやせうなさい。昔の子は口が暮れるまで山や川かけまわつて、あいつかんだだけえ声上げてみんなで遊んだもんだ。おとなしゅうないでしもて・・・。」

・・・」

むいぶやこでいたけれど、本当は、ぼくがおもあの所へ行くのを楽しみにしていたのだと思ひ。

「おせあ、ただいま。」

と、おばあが言う前に、僕は靴を脱ぎ散らし、板の間にかけ上がり、ランドセルを圍炉裏端にぶん投げて、部屋の隅の茶箪笥をのぞきこんだ。おばあの用意してくれた、ぼくのおやつがあるのだ。それは、ふかしいもや大好物の白菜漬や大根漬、スナック菓子などだ。時にせ、围炉裏の自在鉤に真っ黒な鍋がかかっている。せんざいが、甘い匂いの湯気をたてている」ともあった。おなかを満たすものなら、なにでもよごくらご空腹だった。茶箪笥から取り出したおやつを、だいじに抱えて、おばあのかたわらにぺたんと座る。すると、

おばあは、黒っぽい木綿の縞のきものうどにじるから、手ぬぐいを取り出しだ、ぼくのひざにかけるのだった。

なんでいつも同じことを聞くんだね。ぼくは、これとこして話すこともないよ。今学校のことを、聞きたがるおとなたちが少しだとか、だれが立たされたとか、給食のおかずが何だったとか、話してもしようがないような気がするからだ。

おばあは勉強のことなど、あまり言わなかつた。ただ

「学校はどうだったんか?」

「先生だつて、一所懸命なんぢや。ただすわ

ってゐるだけなら、地蔵さんでも漬物石でも語の」と、まむじと自分の腹に落とすつもこの口をモロモロさせながら、こりめあまつておしゃつた。

おなじ人お元氣ですか。前回もまた休載してしま
いました。最近正直んじんひ人ひすかぬ? いつか、そ

う言ひわけひもなく、喜び詰まつてしまひ? いかに

や、書き方に疑問を感じてしまひて 今まで書き

たの事をただ漠然と書いて来ただけ安ひで、

一本、筋か二本と本? 乙ねえ? 乙人ですか?

誰か、いい室たしてもう三ませ人かぬ。

さて、そひでは今回は京壁の漆り替えひも書き三

すか。そひ、皆ひんも知ての通り、京壁は向回

も漆り替えひ事外出来ひ人ひすか、見たニヒリま

すか? そひでは、現場に聞ひつけましエつます

と、これで、出来上か? た不夕は、

漆喰の練り上か、た位の柔らかさがよく、余り柔ら

かいとユテ板の上に乗せたとたんに、つぶひちや

人、こひ事にかし立し、この不夕自体が粘り怠か

ないのひコテ返しかしくらい人ひ立かぬ!

と、言ひわけて、次回は實際に塗つてはかすとこ

まで、

書けひ人ひ立かぬ!

5、床にひ二一にて養生をし、ゴミが落ちても床や

量か落れまいようにし、上塗りをは外すための不夕
を作ります。この不夕は「ハガセル」はくり

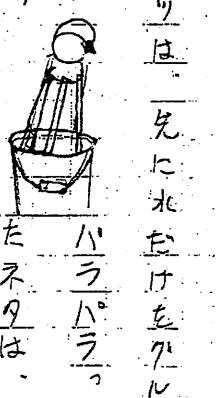
分水かえ、2.3バケリに、10ラバラとまくと、あ

5、不思議! セリ一の出来立こなのが、

出来立いわ。あきりませ人か。出来上か

る様は、まるで溶岩か、入道雲が拂ま上かるやうで

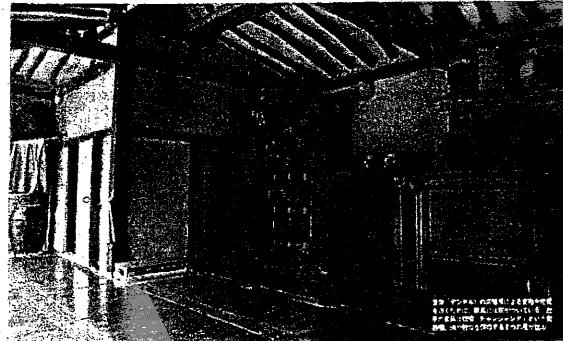
近く近く、と不夕の完成!!



韓国建築文化研修ツアーのお説い

昨年に引き続き、吉田桂二さんを団長に生活文化同人の韓国旅行を企画します。今回は前回とはコースを変え、主にソウル市内（昌徳宮の秘苑-ビオン-他）、及びソウルの近郊（水原-スウォン-の民族村）に絞り韓国の建築文化を訪ねます。会報（No23）に寄せられた去年の旅の感想では、参加者の各々が何かを胸に刻んだ忘れ難い旅であったことがうかがえました。去年参加できなかったという方も今年は是非どうぞ。8月末には勉強会も予定しています。

世話人 石川 岡部 新井



日 程： 平成9年11月21日(金)～24日(月)

費 用： 100,000円前後

定 員： 25名

参加資格： 生活文化同人97年年会員

申し込み・問合せ： 岡部知子宛 FAX 0429・77・2491

〆 切： 7月25日(金)

キリトリ

韓国建築文化研修ツアーに参加希望いたします。

平成9年 月 日

氏 名

連絡先住所

T E L

F A X

■97年第3回世話人会報告

出席者（吉田、松本、内藤、岡部、益子、鈴木、吉塚、江原、小林、宮越、日影、新井 計12名）

(5/27 於：池袋 / 養老乃瀧)

1. 定例会企画内容の検討

- ・第3回定例会 表紙にて案内。
- ・第4回定例会 出張定例会 10/25(土)、26(日) 「奈良大乗院庭園文化館と寺内町富田林と朱雀門」ツアーワー世話人：益子氏。ナショナルトラストの民家町並みサークルに先を越されてしまったので、それ以上のものにするため益子さんのコーディネイトに期待します。次号にて案内をお知らせ致します。関西方面の方の参加お待ちします。

- ・第5回定例会 「ラスキンの建築の七灯」高橋照男／連合設計社市谷建築事務所

2. 機関誌VOL2の発行準備状況について

6/15を原稿〆切とする。

3. 第4回大平建築宿の準備について

プログラム及び参加申込要綱については、今号にて案内。7/4(金)に実行委員打合せを行います。大平建築宿事務局より、後日スタッフに連絡。

他. エコロジー住宅の実例募集

吉田桂二さん編著で講談社よりエコロジー住宅実例集が出版されます。これまで手掛けたエコロジー住宅、工法、材料等をこの機会に発表したいという方は、吉田桂二さんまでご連絡を！

■同人活動

- ・野中健司、吉田桂二・・・造景6月号 古河のコスモロジー
- ・吉田桂二、アトリエゆう・・・建築設計資料 61木構造
- ・吉田桂二・・・講談社 からだによい家100の知恵

■事務局より

- ・半年先のことですが、今年の総会・忘年会は12/22(月)に行います。
- ・会報原稿募集しています。私の近作、旅の報告、町並みスケッチなど何でもOK！
- ・毎号原稿締切：奇数月20日

■編集後記

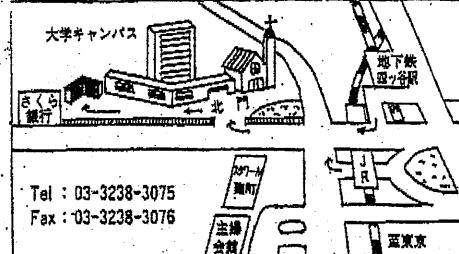
- ・今年初めての渓流釣りに出かけてみたものの、アマゴが2匹だけの不漁であった。この悔しさゆえに今年もまた釣りにはまってしまうのだろうか。（D）
- ・少し前からのベストセラー本、『平気で嘘をつく人々』を読みました。周りにこんな人がいる！と思う前に自れを振り返っていました。（K）

会報編集局：〒102 東京都千代田区富士見2-13-7

連合設計社市谷建築事務所

新井／勝見

ソフィアンズクラブ案内図



「北門」手前の左「上智会類別館 Sophians Club」の看板より入る

定例会会場

97年事務局：〒273 千葉県船橋市西船橋5-7-2-201 TEL/FAX0473-32-4413
生活文化同人事務局 松本昌義

- ・定例会『映画の中の住まい』に参加ご希望の方は事務局まで必ずFAXにて申し込みでください。

※6/20くらいまでにお願い致します。

----- キリトリ -----

定例会『映画の中の住まい』に参加希望します。

氏名：

TEL :

職場 / 自宅

生活文化

生活文化同人会報

1997(平成9)年8月号 No.26

大平建築宿案内	...	1
(㊱) 前回定例会報告「映画の中の住まい」	...	2
大平宿民家芝居案内「風のレジェンド」	...	5
出張定例会案内	...	7
(㊳) 私の近作／鈴木久子	...	8
同人紹介／石川正子	...	10
三井家俱樂部見学報告	...	12
(㊷) 連載「夢屋ものがたり」④	...	14
連載 シャガン その21	...	16
掲示板	...	17
同人活動・事務局より	...	18

第4回大平建築宿を開催いたします

大平建築宿は今年もおおぜいの参加者を待っています！

森の中で、星の夜の下で、再生された伝統的な民家の屋根の下で、いろりを囲み語り合おう！

日程 97年8月15日～17日

主催 生活文化同人 共催 歴史環境設計会議

後援 飯田市役所 建築思想研究所 建築知識 日本ナショナルトラスト
窓口ひねれば水が出て
スイッチを押せば電気がついて、
「ツマミをまわせば火がつく。この
便利な世の中で忘れてはいけない

テーマ 「近代化の功罪」



プログラム	
15日(金)	14:00 現地集合～開宿式～掃除～草刈り 17:30 炊事～夕食 19:00 二人芝居 「風の伝説「レジェンド」(宮沢賢治作)上演 ～懇親会
16日(土)	7:00 起床～炊事～朝食 9:00 基調講演「古い町並み・これからの町並み」 西村幸夫 東京大学工学部教授 12:00 炊事～昼食 14:00 分科会 17:30 炊事～夕食 19:00 子供(大人の飛び入り歓迎)の出し物 ～スライド上映～懇親会
17日(日)	7:00 起床～炊事～朝食 9:00 総括会議 11:00 閉宿式～障子紙の張り替え・掃除 12:00 解散

第4回大平建築宿へのお誘い

大平建築宿は、今年で4年目を迎えます。この塾の目的に、大平宿の保存と再生があるのはいうまでもないのですが、ごく近年まで私達の生活の容器だった民家に、僅か2泊3日といはいえ、住み手となることが体験できること、これがこの塾の大きな魅力であろうと思います。

そうした体験の中から、現在、私達が住んでいる家と民家との大きな対比がいくつもの疑問となって、心の中にうずまくであろうと思います。この対比の中から、つかみとるものがあるとしたら、それは今回の塾のテーマとして掲げた「近代化の功罪」に他はありません。

そうした認識こそが明日の私達の仕事の糧であるに相違ないはずです。

生活文化同人 代表

イラストは前年度の分科会「生活の道具をつくる」の光景を森山ゆきさんによるイラストで書いたものです

◆大平宿の場所...長野県飯田市大平宿
(飯田と木曾を結ぶ大平宿)



定例会報告「映画の中の住まい」

講師：熊谷勲

現在の「暮らし」、そして「住まい」のありかたというのは、あたりまえながら、これまでの歴史の積み重ねの上に生まれてきた姿であり、その変遷を振り返り、見直してみると、今の時代を再確認するために、また、これから時代を考えるために大事な作業のように感じる。

その作業の試みとして、日本映画の中に描かれてきた「住まい」を通史的に眺めてみてはどうかと、去る6月27日、生活文化同人の定例会で、「映画の中の住まい」をテーマに講演会を開催した。講師は、松竹映画などで100本以上の作品づくりにかかわってこられた熊谷勲氏である。昭和初期のサイレント時代から現代に至るまでの日本映画約20本のオムニバス映像を見ながら、それぞれの作品に描かれた「住まい」の様を堪能した。

「映画」はあくまでもフィクションである。しかし、世相、登場人物たちの暮らし、家族像、そして住まいなどをきちんと描いた作品は、あたかも、ドキュメントのようにそれぞれの時代の生活文化を記録する貴重な資料となることを実感する。

ここでは、そこで紹介された作品のいくつかを紹介したい。

◇名匠小津安二郎監督作品

世界的にも高い評価を受け、内外を問わず多くの映画人たちに影響を与えた小津安二郎監督。昭和初期から戦後にかけて、一貫として「家族」をテーマに多く作品を残した。それぞれの作品に克明に描かれた登場人物たちの「住まい」は必見である。

「生まれてはみたけれど」（昭和7年）は、日本を代表するサイレント作品とされている。東京郊外（池上あたり）の新興住宅地に、引っ越ししてきたサラリーマン一家が主人公である。まだ野原が多く残る地に、木造のいわゆる「文化住宅」が立並び始めている。小学生の息子たちが、引っ越し早々にガキ大将となり、近所の子供たちを従えて走りまわる。板張りの家々、板塀、どぶ板など、昭和初期の東京郊外の「住まい」を描いた貴重な作品である。



「生まれてはみたけれど」
こんな子供が走り回っていた時代

戦後的小津作品の代表ともいえる「東京物語」（昭和28年）は、原節子演ずる戦争未亡人と、その亡き夫の両親や家族とのかかわりをテーマにしている。東京見物を兼ね、尾道から子供たちを訪ねる老夫婦。当初は歓迎されながらも、次第に子供たちから煙たがられ、居場所を失っていく老夫婦の姿が、戦後の復興期の東京の街を背景に描かれる。町医者である長男、美容室を営む長女の職住一体のそれぞれの住まいが克明に描写され興味深い。老夫婦を唯一心から歓迎する未亡人が住むのが同潤会アパートという設定である。



「東京物語」
長女を演じる杉村春子。茶の間の向こう
はすぐに美容室といった間取り。

「お早よう」（昭和34年）は、10件程の平屋の家が立ち並ぶ住宅地に住む家族の暮らしがほのぼのとしたタッチで描かれている。テレビや洗濯機などの家電製品が普及し始める

時代で、テレビ欲しさに、家出してしまう小学生の息子たちの姿などがコミカルである。また、子供たちが英語を習いに通う青年の住まいは、当時庶民のあこがれであった公団住宅である。



「お早よう」
テレビをしつこく
ねだり、父親に叱
られる息子。父親
はご存じ笠智衆。



「我が家は楽し」(昭和26年)
家族全員が父親を出迎え。

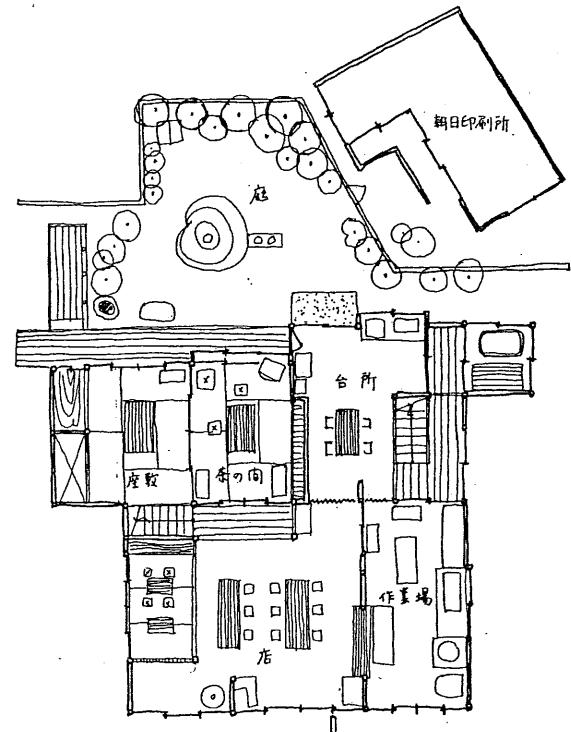
◇山田洋次が描く住まい

戦後娯楽映画の代表「男はつらいよ」シリーズ。第1作は昭和44年にさかのぼる。25年以上続いた作品は、めまぐるしい時代の変貌の中にあって、変わらない下町の人々の暮らしぶりを描いてきた。核家族化が進み、また近所づきあいなども少なくなっていく時代のなかで、なぜ支持され続けてきたのか。それは、人々が本当に失いたくない何かがあるからではなかろうか。

もうひとつの山田洋次監督作品「息子」(平成3年)は、現代版「東京物語」といった印象の作品である。岩手の農村に住む父親と東京に暮らす息子の葛藤と和解がテーマである。上京してきた父親は、マンション暮らしをする長男夫婦の家に滞在する。そこでは、都会のマンション暮らしは無味乾燥としたものとして強調して描かれ、現代の住宅事情が与える「家族」や「暮らし」への影響といったものも風刺している。

今回の講演の中で、熊谷氏は、「人の器量がすまいをつくるのでは」と、一連の作品を通しての印象を語った。確かに、「住まい」はそこに暮らす人間の生き様みたいなものが、時とともに現われてくるように感じることは多い。どこに、どう住むか、一見多様化した選択肢があるようにも映る現代であるが、これまでの日本の「住まい」の歩みなども振り返りながら、答えを見つけてはいかがだろうか。そのヒントに、ぜひ「映画」をご活用されたい。

(生活文化同人世話人 内藤敬介)



虎一家の団子屋と住まいの間取り。
撮影セット用につくられたもの。



小津作品「麦秋」(昭和26年)。典型的家族の肖像。

定例会『映画の中の住まい』 参加者の感想

映像の中に残された住まいの時代による変化が、自分自身が今までに経験して来た住まいの移り変わりと重ね合わせて考えられ、「人の器」としての住まいをこれからも見つめてゆきたいと思いました。 (桜井明/連合設計社市谷建築事務所)

映画の背景になっている住宅・インテリアに視点を置く見方もおもしろいと感じました。紹介されたものが、ほとんどモノクロだったので、色はどうだったのか知りたくなりました。時間がもっとあれば、そういった色や材質のことも聞きたかったと思います。ありがとうございました。 (栗原紫子)

ただ漫然とストーリーを追うだけでなく、映画の作り手たちが用意した様々な“しきけ”を探しながら観るという、新しい楽しみ方を教わりました。こうすると、1本の映画を2倍も3倍も楽しめます。私は寅さんシリーズはだいたい観たつもりでしたが、階段が2つあることには気付いておらず、愕然としました。家はそこに住む人の心を映すものだからこそ、映画をつくるときも、セットにこだわる。大袈裟なセリフや感情表現を用いない小津監督にとってセットは、登場人物の性格や感情を語るのに、有効な手段だったのでしょう。

(佐々伸子/連合設計社市谷建築事務所)

今後の映画の見方の参考になりました。新しいものとの比較を自分でしてみたいと思います。 (岩重里江子)

幼いころ母に連れられて見に行ったのか、なんとなくおぼえています。今ではとても高価な格子の入った建具など当時は普通に使われてうらやましい様ですね。今日はありがとうございました。 (巻京子)

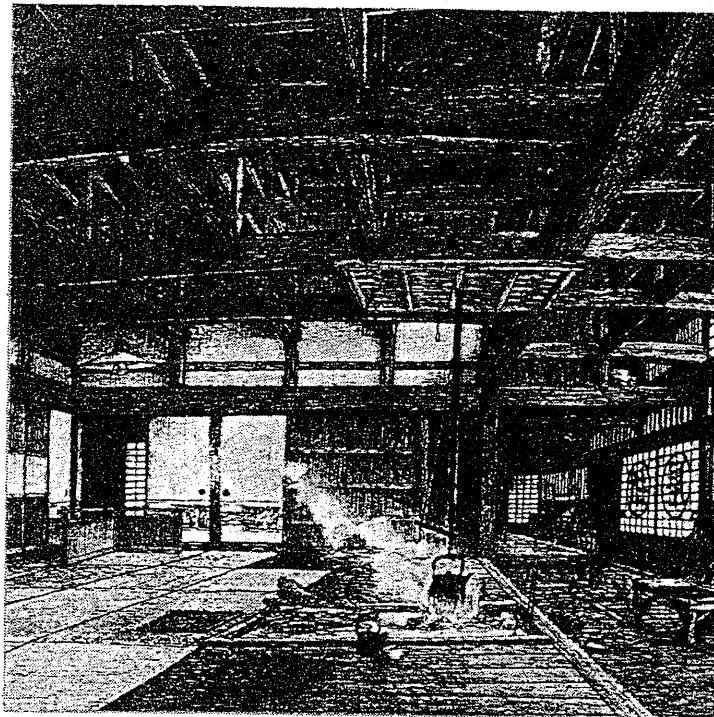
大変貴重な映像を拝見させていただきました。終始集中して画面の全体をぐるぐる目線をかえながら見ていました。人間模様のすなおさがよくあらわされていて感動いたしました。 (上森清美/エアサイクル産業)

大平宿再生民家「紙屋」を舞台に「劇団風の街」が送る！

民家芝居

風のレジェンド

宮沢賢治スケッチ



画／吉田桂二

作／ 熊谷 勲
演出／ 北岡 静治
出演／ 佐藤二郎
大塚 洋

風がはげしく吹きわたる。
その夜、その宿に、その男はやってきた。
男はなものなのか。どこから来たのか。
どこへ行くのか。
針のない時の沈黙。炉の残り火。
ゆれる自在カギ。
それは？と、男のまえに、なに？だれ？
とつぜん、とほうもない汽笛！
大車輪のきしみ！
耳を圧する蒸気の噴出！
天空を蒸気機関車
銀河鉄道オメガ本線が浮遊する！
玄にして妙、摩訶にして不思議！
そしていざこからか、風のレジェンド
あかいめだまの さそり
ひろげたわしの つばさ

日時／1997年8月13日(水)／8月14日(木) 開演19:00 (開場18:30)
会場／長野県飯田市大平宿いろりの里「紙屋」 入場料／1,500円

観覧ご希望の方はお名前、ご住所、電話番号、観覧希望日、人数を記入のうえ、葉書又はファックスで下記までお申込み下さい。両日共先着100名の方に入場整理券を送付します。入場料は当日会場受付でお願いします。
<問合せ・申込み先> 劇団風の街 東京都渋谷区幡ヶ谷2-2-7井上AP202 (TEL・FAX 03-3377-9711)

■スタッフ

制作総指揮／杉本一 制作・美術／内藤敬介 制作・宣伝／松本昌義 制作／江良潤(風の街)
音楽／加藤由美子 音響効果／石神保 照明／平山奈美(文学座) 衣装・人形製作／小宮礼子
■主催／生活文化同人+劇団風の街 ■後援／飯田市、日本ナショナルトラスト
■協力／「紙屋」大蔵実、大平宿をのこす会、専門学校東京アナウンス学院、証建築社

■大平宿について

信州伊那谷の飯田と木曽谷の妻籠を結ぶ峠越えの古街道にある大平宿。江戸中期の茶屋宿として始まる宿場の歴史も、近代化の中で過疎の村となり、1970年の村人の集団移住以降、無住の集落となつた。その後、この村を生活の原体験の場として、保存、再利用していこうというボランティア活動が広まり、地元の有志や飯田市、日本ナショナルトラスト、建築の専門家などの幅広い協力のもと、廃屋となつていていた10戸以上の古民家が改修され、現代の宿場として蘇つた。現在は「いろりの里」として、「大平宿をのこす会」により運営され、囲炉裏やかまどでの煮炊き、薪風呂など、かつての民家の生活を実際に寝泊りして体験できる貴重な場となっている。

今回の会場となる「紙屋」は、江戸末期に建てられた大平宿で最も大きな民家である。

■民家芝居が生まれるまで

本公演の主催である「生活文化同人」(代表：吉田桂二)は、大平宿の改修保存に建築の専門家として参加してきたグループである。94年から「大平建築宿」を毎年開催し、大平宿の民家や集落の魅力を広くアピールするなどの活動を行つてゐる。再生された大平民家の新しい利用を模索する中、「劇団風の街」と出会い、民家を使った芝居の試みを共に企画制作、主催するに至つた。本公演は、脚本家、演出家、役者、スタッフなど、多くのボランティア参加により実現されるものである。

■「劇団風の街」プロフィール

東京を中心にこれまでに数多くの作品を上演。代表作に『外野自由席』、『家族な人々』(共に、平成5年、東京芸術劇場、芸術文化振興助成事業)、『キネマの夜』(平成7年、東京芸術劇場)、『わたしは誰?』(平成8年、池袋メットホール、文化庁芸術祭参加作品)などがある。

民家芝居『風のレジエンドー宮沢賢治スケッチ』は、大平宿公演が初演となる書き下ろし作品で、脚本は、松竹映画で数多くの作品の脚本、監督を手掛けた熊谷勲による。出演の佐藤二郎と大塚洋は、舞台以外にも幅広く演劇活動を展開。佐藤は演劇学校で後輩の指導にあたる。大塚はテレビドラマやCMなどにも出演。「劇団風の街」は、現在、大平宿を皮切りにした「民家芝居」の全国展開を構想中。

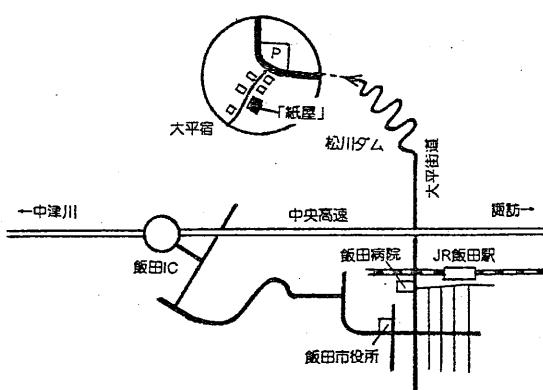


佐藤二郎

大塚洋

■大平宿案内図

中央高速道路、飯田インターチェンジを降りて、飯田市街へ進む、飯田市役所を左手に見て、二つ目の信号(知久町)を左折。大平街道を木曽方面に進む。松川ダムを越え、峠を越えると大平宿。
市街より約40分。
自家用車以外の交通手段はありません。
ご了承下さい。



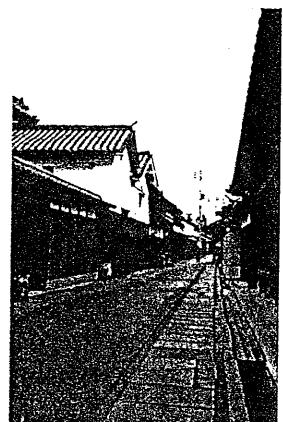
生活文化同人 秋の出張講座 吉田先生と共に —

「寺内町」とは信仰を中心にして形成された独立性の高い町を指します。山脈を境にして奈良盆地にある今井と河内平野にある富田林は、ともに一向宗門徒がひらいた寺内町で、塗屋造りの重厚な家が軒を連ねる町並みの姿もよく似ています。寺内町の双璧といわれる今井と富田林、これを同時に見られる機会はたいへん貴重なものと思われます。他にも奈良に残る町並み散策を盛り込んで有意義な講座に仕立てました。多くの方の参加をお待ちしております。

日 時 10月25日（土）・26日（日）

集 合 13:10 近鉄奈良駅（京都発12:30 の近鉄特急が最終です）

※昼食は済ませてきてください。



富田林の町並み

日 程 1日目◆大乗院庭園文化館（吉田桂二氏設計）～元興寺周辺散策

◆今井町見学（案内人：益子氏＝同人）

〔宿泊先〕 社会教育センター「かつらぎ」 0745-69-6921

2日目◆当麻寺～竹内街道の町並み散策

◆富田林見学（案内人：鳥居氏＝地元）

解散 16:00 富田林駅（近鉄長野線）

〈近鉄南大阪線・JR線乗換えて新大阪駅まで1時間強〉

定 員 20名程度

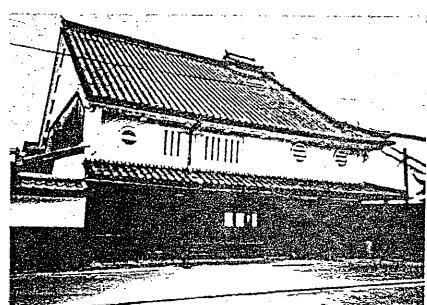
参加費 12,000円（宿泊費、入館料、レジュメ代）

※現地までの交通費及び現地での移動（主に電車）は各人で負担願います。

申込先 関西 てらもと工房 FAX 078-801-5186

関東 アカンサス建築工房 FAX 0287-22-7977

申込締切り 8月11日（月）



河合家（重文：今井町）

お手数ですが本紙をコピー

の上FAXして下さい

参 加 者 氏 名

連絡先 住 所

□

私の近況と近作

鈴木久子

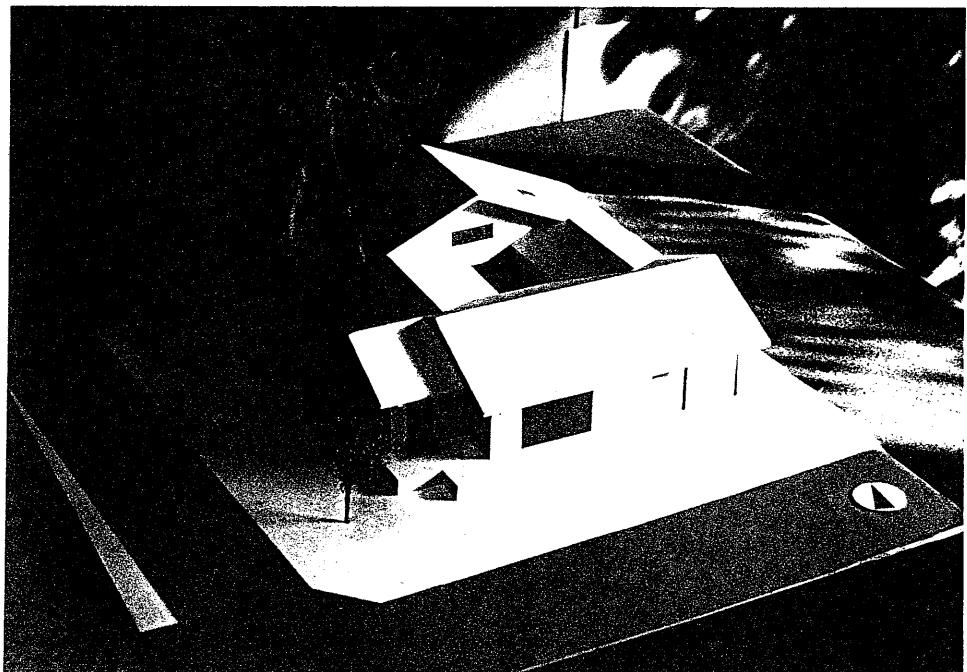
■ 向いの空地

9年前、アトリエとしてマンションの2階に小さな部屋を借りました。メンバーは3名…西向きで夏は暑いものの、秋の終り、西日が奥まで射し込み、釣瓶落との夕暮れ時には、茜色の夕焼けが影絵のような瞬間を演出してくれる部屋もありました。道路を隔てた向いの敷地には当時、ガラスも割れたままの古びた倉庫のような建物一棟と、ネームプレートがフェンスにくくりつけてある7、8台の駐車スペースがありました。地べたは車1台分のスペースにひもがはってある、おおらかなものだったので、コンペの塗装はそこでやらせていただいたものです。

3年前、その空地は、7つに区画され、次々と建売住宅が建ってしまいました。最後に残った3区画に鉄骨3階建ての寮が建てられ、付近の佇まいは一変しました。ただ、アトリエのバルコニーに置いた「えんじゅ」「ねむのき」「はなみずき」「りんご」「やまぶき」「アイビー」が9年の歳月でお向かいとの視線をかわす、ささやかな縁を提供してくれたので1日中、ブラインドをおろし放しと言うのは避けられました。でも夕焼け空はもう望めません。

更に今年になって、その鉄骨造の寮の1階にコンビニエンス・ストアが開店しました。もちろん24時間営業です。公衆電話のコーナーもあります「少し賑やかになるナ」くらいの認識しかなかった私は『コンビニ開店』1週間にしてアトリエをとりまく環境が容易ならざる状況に変わりつつあることを悟りました。

向いの空地の変遷の様は、アトリエの内部にいくつもの微妙な波紋を投げ、幾重にも広がりをみせています。ここに住み継いでいる方達にとってはなおの事です。5年先、10年先と悪くなることはあっても良くなることはないかもしれません。個別・住宅だけの問題ではなく、もっと視野を広げて『建築したい』と考えるこの頃です。



生活文化同人 秋の出張講座 吉田先生と共に —

「寺内町」とは信仰を中心にして形成された独立性の高い町を指します。山脈を境にして奈良盆地にある今井と河内平野にある富田林は、ともに一向宗門徒がひらいた寺内町で、塗屋造りの重厚な家が軒を連ねる町並みの姿もよく似ています。寺内町の双璧といわれる今井と富田林、これを同時に見られる機会はたいへん貴重なものと思われます。他にも奈良に残る町並み散策を盛り込んで有意義な講座に仕立てました。多くの方の参加をお待ちしております。

日 時 10月25日（土）・26日（日）

集 合 13:10 近鉄奈良駅（京都発12:30 の近鉄特急が最終です）
※昼食は済ませてください。



富田林の町並み

日 程 1日目◆大乗院庭園文化館（吉田桂二氏設計）～元興寺周辺散策

◆今井町見学（案内人：益子氏＝同人）

〔宿泊先〕 社会教育センター「かつらぎ」 0745-69-6921

2日目◆当麻寺～竹内街道の町並み散策

◆富田林見学（案内人：鳥居氏＝地元）

解散 16:00 富田林駅（近鉄長野線）

〈近鉄南大阪線・JR線乗換で新大阪駅まで1時間強〉

定 員 20名程度

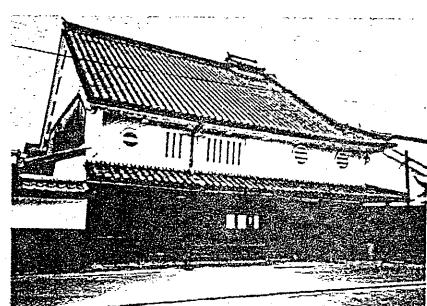
参加費 12,000円（宿泊費、入館料、レジュメ代）

※現地までの交通費及び現地での移動（主に電車）は各人で負担願います。

申込先 関西 てらもと工房 FAX 078-801-5186

関東 アカンサス建築工房 FAX 0287-22-7977

申込締切り 8月11日（月）



河合家（重文：今井町）

お手数ですが本紙をコピー

の上FAXして下さい

参加者氏名

連絡先 住所

□

私の近況と近作

鈴木久子

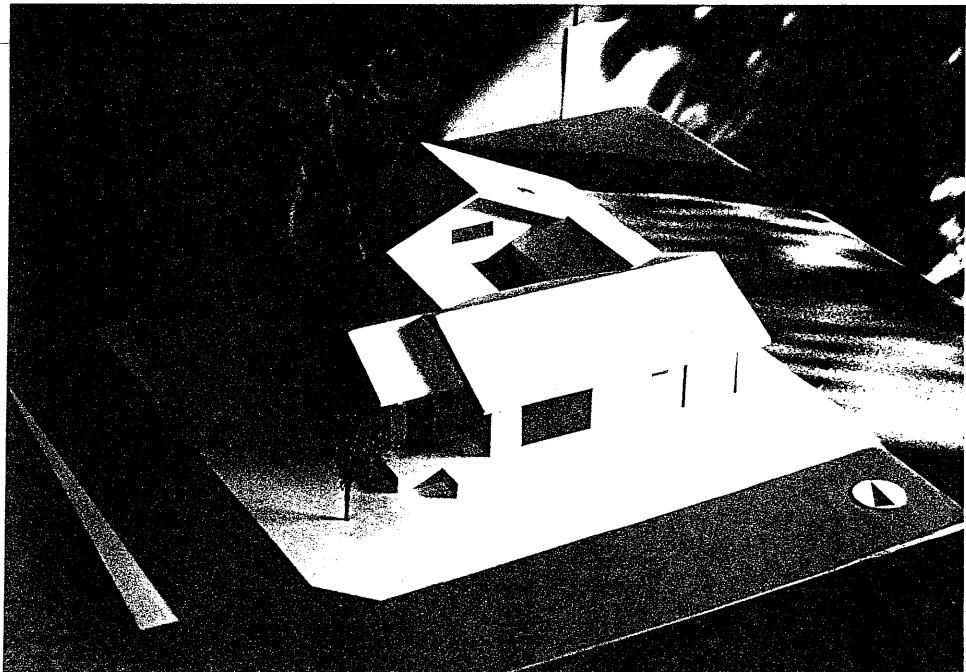
■ 向いの空地

9年前、アトリエとしてマンションの2階に小さな部屋を借りました。メンバーは3名…西向きで夏は暑いものの、秋の終り、西日が奥まで射し込み、釣瓶落としの夕暮れ時には、茜色の夕焼けが影絵のような瞬間を演出してくれる部屋でもありました。道路を隔てた向いの敷地には当時、ガラスも割れたままの古びた倉庫のような建物一棟と、ネームプレートがフェンスにくくりつけてある7、8台の駐車スペースがありました。地べたは車1台分のスペースにひもがはってある、おおらかなものだったので、コンペの塗装はそこでやらせていただいたものです。

3年前、その空地は、7つに区画され、次々と建売住宅が建ってしまいました。最後に残った3区画に鉄骨3階建ての寮が建てられ、付近の佇まいは一変しました。ただ、アトリエのバルコニーに置いた「えんじゅ」「ねむのき」「はなみずき」「りんご」「やまぶき」「アイビー」が9年の歳月でお向かいとの視線をかわす、ささやかな縁を提供してくれたので1日中、ブラインドをおろし放しと言うのは避けられました。でも夕焼け空はもう望めません。

更に今年になって、その鉄骨造の寮の1階にコンビニエンス・ストアが開店しました。もちろん24時間営業です。公衆電話のコーナーもあります「少し賑やかになるナ」くらいの認識しかなかった私は『コンビニ開店』1週間にアトリエをとりまく環境が容易ならざる状況に変わりつつあることを悟りました。

向いの空地の変遷の様は、アトリエの内部にいくつもの微妙な波紋を投げ、幾重にも広がりをみせています。ここに住み継いでいる方達にとってはなおの事です。5年先、10年先と悪くなることはあっても良くなることはないかもしれません。個別・住宅だけの問題ではなく、もっと視野を広げて『建築したい』と考えるこの頃です。



設計概要

敷地面積 —— 343, 55 m²

1階床面積 —— 131, 16 m²

2階床面積 —— 13, 24 m²

延床面積 —— 144, 40 m²

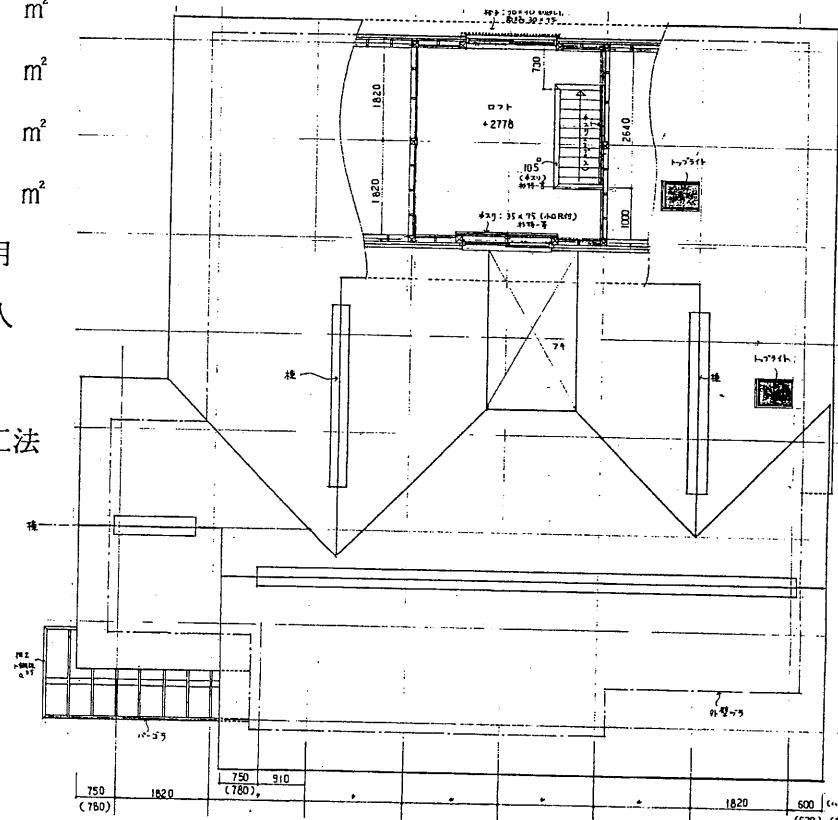
竣工年月日 —— 1997年4月

家族構成 —— 夫婦+子供2人

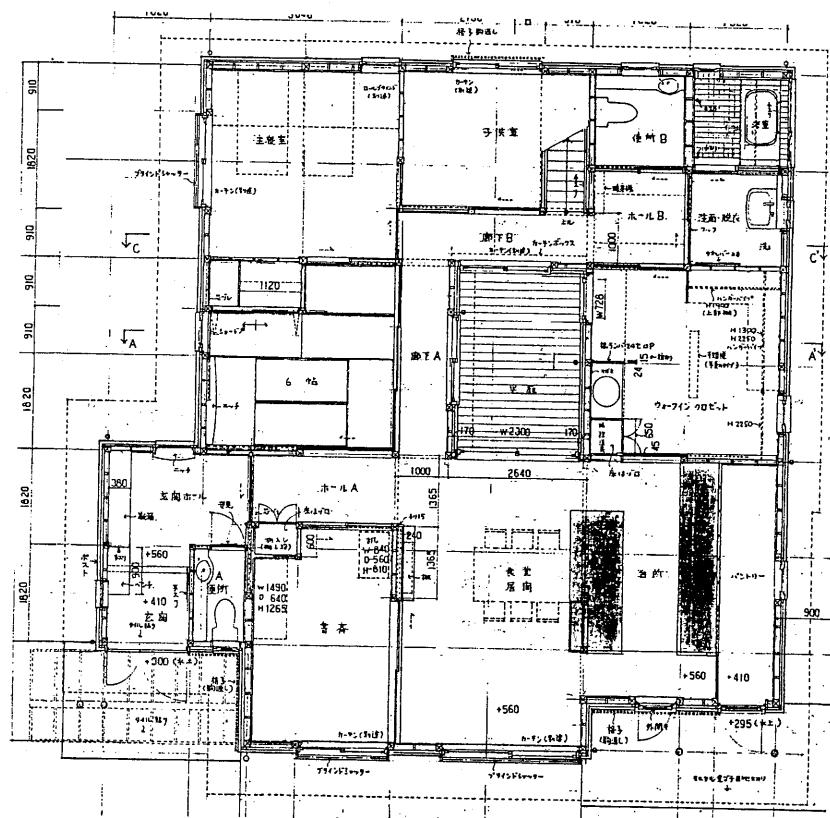
構造 —— 木造

外断熱通気壁工法

2階平面図



1階平面図



去年の同人の建築文化研修ツアーの計画をすることになった時のこと。何に的を絞ればいいのかしら、何処がいいかしら、と考えているうちに、私だったら何処へ行きたいか、これが計画のはじまりでした。ここと、ここと、それからここもいきたい。だめだめここまで広げるとこの日数では無理、じゃあここと、ここをこのルートを使うと、これが次の段階。そして大まかな計画を立てる。再度桂二さんに見てもらう。それから仕上げ、ルートを決定する。後はよくしている人の意見を素直に取りいれて、これがまた次の段階、そして飛行機の時間が決まると最終決定。こんな経過で去年の旅行は決まりましたが、私が旅行に行く時にコースを決める方法とほとんど同じ。時間がなく、とりあえず飛行機を予約して、ホテルを決めてでかけることも。その日の気分、天氣によって、それと空港に置いてあるインフォメーションで着いてから計画します。大枠だけ決めて、後は成り行きにしています。それは知らない情報が多いからです。意外な発見があるからです。でもこれができるのは、一都市滞在か二都市で旅行をする時です。

地図と路線図それにガイドブックを持って電車バスに乗って移動します。逆方向へいってしまうこともしばしば。

ウィーンで、ホフマンの住宅を見て歩いていた時のこと、現在は某国の公使館かなにかになっている家の角にポリスボックスがあり、ガイドブック片手の私たちはジロジロ見られて、さすがにカメラを向けられなかったり、一軒の家の前を、あそこに市松模様が使ってある、とかいいながらウロウロしていたら、散歩をしている人にうさん臭げにジロジロ見られたり、住宅街の中ですから当然ですけど。でも道に迷いながら、目的の建物を見付けた時は嬉しいものです。ホイリゲでワインで乾杯したり、おしゃべりをしたり、これも旅の楽しみの一つです。

またバルセロナのこと、ガウディの住宅を地図を頼りに探していたら、あまりの寒さで行き倒れになってしまった人がいて救急車で運ばれて行くのを見てしまったり、大雨の中を歩いていて靴の中で水が踊るのが気持ち悪かったり、アンダルシア地方を旅していて、50年振りの異常気象の時は道路が

陥没してしまい大回りをしなければいけなかったり、崖崩れの現場では応急修理の脇をソーと通ったりと大変な思いもしています。

貧乏旅行しかできないけれど、たまにはオペラも見に行きます。オペラ座では、安い席でも豪華な気分に浸れます。食べ物は、田舎へ行くほどおいしい。旅は楽しいものです。

仕事は、月刊誌の編集をしているので、時間に追いかけられどうし、だから旅に出たら時間を気にしない。追い付かれても気にしないことにしています。アクシデントも気にしないことにしています。1日は24時間なのです。

外を見て内のが見てくることがあります。だから数多く見ることにしています。そして、その背景を、歴史を、風土を考えることが大切なのだと思います。今はそう思っています。



オーストリア：ウィーンのホイリゲ（冬）で



メキシコ：ユカタン半島チ첸ツアで



エジプト：アブシンベルの巨像の前で

「ラッキー。」写真で見ることはあっても、実際に見学できる機会なんてないと思っていたコンドル設計の三井家俱楽部。見学会に応募したらたまたま当たったのだった。講師を見て又またラッキー、藤森照延さんの担当する日だった。「時間厳守」とあったので遅れては大変と五分前には正門玄関に到着、「会員以外立ち入り禁止」の看板が目に入る。恐る恐る入っていくと、20人位の人が椅子とソファーに座っていた。どうせならと、立派なソファーの空いているところへ・・・。緊張しながらきよろきよろ・・・。時間を過ぎると講師登場。少し早口だが分かりやすい言葉でコンドルとこの建物の事を説明してくれた。

ここは、三井家一族の迎賓館として大正二年に建てられ、年賀、法事、結婚式にも利用され食事、パーティー、宿泊の設備が用意されていた。

なぜ、政府お抱えのコンドルが退職後、三井家の設計をしたのか・・・。当時財閥は有能な建築家のパトロンになっていることが多かったらしい。コンドルは政府の仕事を終えた後三井をスポンサーとして邸宅作家となる。三井は誰も特定の人がいなくて、たまたまか? コンドル一番弟子の辰野金吾は安田、住友、渋沢に抱えられ、コンドルの口利きで曾禰達造も三井に入社した。

この館は今「朝起きたらすべてがゴージャスだった。」の車のCMでも目にしているかと思うが、地下一階付二階建ての煉瓦〔白タイル〕・石造でスレート葺、南面にベランダの付いた豪華な洋館だ。洋館にベランダの付いているのは、日本においての特徴らしい。インドにイギリス人が洋館を建てた時、余りの暑さに直接陽が入らぬようにとのアレンジらしいが、それをコンドルが日本で定着させたらしい。〔藤森説〕しかし、日本はインドと違い四季がある。夏は良いが冬の日差しの欲しいときに陽が入らず、おまけに積もった雪がいつまでも溶けずベランダの下の部分を腐らせるということになり、どうも日本の気候風土には適切だったとはいえないようで、コンドル以外の人は次第にベランダを取った形をとるようになっていったが、何故彼はベランダにこだわるのか、ガラス〔戸〕を入れてサンルームのようにしたり工夫しながら設計に折り込んでいたようだ。外部に使用されているのは「御影石」で土台やベランダの床に使用されていた。これは日本の寒さに耐えられるからだそうだ。内部の腰壁には赤っぽい大理石のような石が使用されていて、腰上の漆喰の白とが互いに美しさを引き立て合っていた。一階ホール部分は天井が一部丸く吹き抜けになっているのだが、そこから見える二階の天井は、やはり丸くドーム状にステンドグラスが施されている。どこから見ても日本の住宅には見られない独特の空間演出だ。階段の踊り場の壁やドアなどもステンドグラスになっておりこの大きな館にも、自然の光が美しく取り入れられていた。二階の式場は和、洋二つ用意されているが、その二つの部屋の間の所はどちらから出ても不自然を感じさせないようになっていた。和の式場の天井は木で折上げ合天井となっているのだが、間の部分は漆喰でそれを表わし、デザインが和で仕上げが洋という感じであった。和の式場は縦長で日本人の感覚からすると、何だか変な感じだが、大きな窓を壁から外へせり出させペイウンドウにして、窓とも廊下とも



つかないようにしていて、御簾をたらしたりと、しつらえて雰囲気づくりをしていた。〔昔もこうしていたかは分からぬが。〕 そしてその窓の柱が四角でなく台形であることに気が付いたので、そのことを伝えると「そこは、僕も気が付かなかつたよ。」と言われ、藤森ファンの私としてはそんなことでも気軽に言葉を返してくれたことに、ただミーハーに感激していた。

コンドルは日本で77の建築を設計したらしいが、今でも残っている物の中で目的を変えずに使われ続けているのはここだけだそうだ。湯島の岩崎邸を見ても、キヤノン、セイロガン、朝ドラの「ひまわり」に出てきていた司法研修所と持ち主が変わる度、使用目的も変わりその度に当然改装されて、悪くなつていったという。ここは、持ち主は変わっても使用目的は変わらなかつたので、ほぼ原形に近いとか、良いところを見せていただけたと思いながらも、自分の住まいとは余りに違う宮殿の様なこの館に「時代も世界も違うよね。」と思い、だけど「もしもここに住んでいたら……。」な一んて想像しながら門を出た私でした。しかし、コンドルは知れば知るほど魅力を感じる人物。日本で初めて建築家として設計料を取った人で、しっかりお金はいたぐらし、異文化を持ち込んだ外国人ではあるが、それは財産を築くためではなく、そこらの日本人よりも日本の文化にいそしみ趣味もお茶にお華、日本画、歌舞伎、落語などそれに皆な、とことんやっていた。またお華や日本庭園など本にまとめ外国に紹介するほどだったし、自宅に落語家や舞踏家などを呼んで楽しむ等、旦那的な事もしていたそうだ。奥さんにも日本舞踊のおっしゃるさんと半端ではない。日本では文明開化だと新しい物にしか目がいっていないころ心から日本を愛し、日本を楽しみ、そして日本〔護国寺〕に骨を埋めた人。徹底して日本と係わりを持った、数少ない外国人コンドル。今度はこちらがコンドルを愛し、親しみ、興味を持って接していく。幾つかの建物は見せて頂いたがさて、この次はどこを見せていただこうか……。

97.7.16

「でも言つていいかのようだ、秋になると赤茶けた杉葉をさっさり地面に落とす。乾いた杉葉は、よく燃える。おばあは、風呂のたきつけに杉葉を使うから、裏の山に入つては杉葉を拾つてしまつて来る。ぼくも、いつしょに行くこともある。風のない日、裏の山の中腹にある神社のあたりからは、境内の杉葉を燃やす煙が、白く一筋二筋立ち上ぼる。

冬の間使う薪は、森林組合の仕事が休みの日に、父さんが、おばあの家の裏庭で割る。

毎年夏のうちに、父さんは、仕事の合間にみて山に行き、間伐材や倒木を集めて納屋に運んでおくのだ。ぼくは、父さんが、バーンバーンと割斧かぎで手際よく割つた木ぎれを、十本ずつひとくくりにして台所へ運ぶ。おばあは、ふだんの煮炊きには、プロパンガスのコンロを使つたが、風呂たきと囲炉裏には薪を使う。石油ストーブは、頭が痛くなると言つう。

「どおれ、今日は大根抜いてえ、洗うかあ。

「ふみさん」



おばあが、母さんに声をかけているのが、家の中から聞こえる。しばらくすると、野良着のらぎにもんべに前掛け、という出で立ちのおばあが、同じ格好をした母さんを従えて、庭に出でくる。おばあのもんべは、つぎがあたつているけれど、母さんは新しい。母さんは、ふだん町の老人福祉施設で、保健婦をしてい。この村の若い世帯は、何らかの仕事を町でしていく、ほとんどが共稼ぎなのだ。だから、畠仕事は休みの日にやることになる。

おばあが、ぼくらに「来てくれ」と言つているわけではないけれど、休みの日はたいてい、父さん母さんとぼくと、おばあの家に来て過ごす。母さんの行つている老人ホームには、おばあの古くからの知り合いも入所しているので、その近況を母さんから聞くのを、おばあは楽しみにしているようだ。だから、休みの日は、おばあも張り切つてゐる。母さんと話がはずむので、いつもよりおばあの声が大きい。

ものかたり

大庭 桂

(4)

「そりさねえ。初めて針をもったんが六つ」
るだったかねえ。

そうすると七十年はたったじやる。

母さんや姉さんが教えてくれたんだ。

自分の着るもんは、自分でこさえるのがあたりまえの時代のこったからなあ。」

「おばあ、おばあにも母さんがいたの?」

ぼくは、びっくりして尋ねた。

「あたりまえよう。父さんも母さんもいたさ。

おばあだって、子供だってこともあるし、

赤ん坊だったこともある。」

「信じられねえ……。」

ぼくは、おばあの日焼けした丸い顔を、まじまじと見つめた。おばあは、そんなぼくを

少し目を細めて見ながら

「親は子を生んで死ぬ。死ぬってことは、心

になるのだった。一ミリの半分ほどの針目が

まっすぐ続いていくのを、のぞきこみながら、
ぼくは尋ねた

「おばあ、手品みたいだねえ。何年くらいや

つてるの?」

おばあは手を止めて、少し考え込む。

を受け継いでもらう。「

「運動会の時のリレーみたいだね。」

「ほんにそうじやね。」

そのとおりじや。

おばあは、ちいととないう生き過ぎた。

けど坊よ。あんたの顔が見れたもの。

えかったよ。」

おばあは、しっかりとぼくの目を見つめ、うなづいた。ぼくの胸の中で、うれしそうな悲しいような、せつないものが揺れた。

秋は東の間だ。彼岸をすぎて、道を歩いていると、どこからともなくキンモクセイの甘い香りがただよって来て、立ち止まってしまふ。キンモクセイの黄色い花が、地面にこぼれ香りが薄らいで来る頃、山から吹き下ろして来る風に、かすかな雪の匂いを感じるのは、この村で、ぼくだけではないだろ。

山を覆っている杉は、常緑樹だから、葉を落として丸坊主になることは無い。それでもさうじやる。じゃから、いのちのもうそくの火が消えかけたら、新しいもうそくに火たきつけにしてください。」

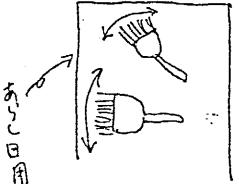
皆さんは「お待たせをしまして!! 奇数の月の和樂し24
シヤガンの時間です。」

この間、同窓会がありまして、十年ぶりに友達と再会しました。会場の中を見わたせば、夜に、色々いいやつが数人いる。ありますせんか。話をしてみれば、現場員だ。乙言い: 今年は梅雨だと言うのに日差しは強いし、蒸し暑い。と、舌うねりで前回の続きを、古い京壁を剥してみました。

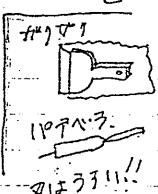
前回作ったネタ、利離材で、古い京壁の上からコテで、塗るかけですか、ニのネタ。かんてんみたくなりました。コテ返しをすると、ツルツルなことになりますので、コテ板を壁に付けて塗り上げて行くんですよ。もとと最近よくいたんですが、このネタ、アルカリ性の材料と反応するなりしく、モルタル等を塗り詰めたコテ板が塗ると、水に戻りやすくなってしまうんですね!



と二つか、この壁が二、三回塗り替えで、クロス屋さんがパテをしごくのに使うパテペラとあります。利離材を一回塗つただけでは上塗り全体に発達しないので、もう一向塗り直し、剥さなくてはと。え、可それなり、一向目のときときた厚く塗ればいいじゃないの? と思うでしょ? うか、このネタ、かんてんとは言、左のものの、それよりやさかいんで厚くは塗れないし、まず京壁も一度に水分を吸つてはくみない人でしょ? まあどうした作の後、奇麗な壁を落とし、壁と、下に落ちたコトを奇麗に掃除して、また次回に進むと、



ちなみに落した京壁は、き満品の焚一坪分が、三、四倍分にもなるまい、再利用出来ないわ、これがおひこで、建築廢材って高いい人ですね。



使い、カリカリと剥す人ですね。

★掲示板

民族文化映像研究所

新作フィルム上映会

101
100
99

未来を紡ぐ

—101本の作品が織りなす基層文化の世界—

とき 1997年8月9日(土)・10日(日)
昼の部 13:30~/夜の部 17:30~

ところ 新宿区・四谷区民ホール

新たな作品の誕生と、願い

姫田忠義
民族文化映像研究所長

私たちの研究所は、映像手段（主として映画フィルム）を活用して日本の基層文化、さらには世界の基層文化を記録するという志を立て、1961年に活動を開始しました。

これまで完成した記録映画作品数は101本、ビデオ作品数は155本になりました。

今回の上映会では、3本の最新作記録映画（作品ナンバー99から100）と、それらにゆかりある作品群をご覧いただきます。

きわめて長時間の上映会です。

私たちにとっても、これは昨年行った『越後奥三面』一部、第二部、フィルムの長さだけで計5時間余の上映を超えるもので、その成否はいわば未知なる領域にします。

なぜ、敢えてそれをしようとしているのか。

実は、この上映会を計画する中で、私の胸の中に浮かび上がってきたひとつ目のイメージがあります。それは、の上映会で提出する一本一本の作品の質量を、来て下った方々に感じていただきると同時に、それら一本一本が壁合いで、語り合って浮かび上がらせてくる壮大生命の構造と流れの世界。それを受け取っていただけではないか、ということです。

そこには、一本一本の作品のみでは想いいたることのきれない生命や歴史の多彩さや複雑さ、構造や流れなど深い感動があります。越前、飛騨、アイヌ社会を貫く、生命の構造と流れ。私の言う基層文化も、実はそれですか。

19世紀を目前にひかえた世纪末に生きる私たちが、明るい生きて行くときの最大の手がかりは、その手自身で感じ、受けとめて行くことであろうと私は思っています。

以前、高橋俊和さんが調査スタッフとしてかかわった合掌造り民家のビデオ上映会が開かれます。

8/9(土)
歴史・生命のよみがえり
越後・飛騨・白川郷の合掌造りたちの把柄

作品91 「神と紙」
その他のまつり上映
新作101 「たまはがね」
子どもがひらいた古代製鉄の道上映
記念講演 駒沢大学名誉教授 桜井健太郎

ビデオ 「白川郷の合掌民家」
技術伝承の危機上映
新作99 「山中湖の祭り」上映
記念講演 文化庁文化財鑑定官 三輪猪六(予定)

8/10(日)
先住者の復権と再生の道
新作100 「シシリムカのほとりで」
アイヌ文化伝承の記録

作品2 「アイヌの結婚式」上映
作品8 「イヨマンテ—熊おくり」上映
質疑応答 民映研究所長 姫田忠義

新作100 「シシリムカのほとりで」
アイヌ文化伝承の記録
質疑応答 民映研究所長 姫田忠義

会場 新宿区・四谷区民ホール Tel.03-3354-6171

地下鉄丸ノ内線 新宿御苑前駅・大木戸門口下車

新宿通りを四谷方向へ徒歩3分 四谷区民センター9F

会費 1回券(昼の部あるいは夜の部) 前売1500円・当日1800円
1日券(昼・夜の部の通し券) 前売2500円・当日3200円
2日券(全プログラムの通し券) 前売4500円・当日5500円

問い合わせ・電話予約

民族文化映像研究所 新宿区新宿2-1-4 御苑ビル2F

Tel.03-3341-2865 Fax.03-3341-3420

席数に限りがございますのでお早めにご予約ください。



作品2 『アイヌの結婚式』

1971年・33分・自制作

ボボリ映画祭入賞

明治以後、アイヌは日本人への同化を強要され、不当な差別を受けた。1971年、一人のアイヌ女性の決意と熱情が、アイヌ流の結婚式を復活させた。

アイヌと民映研の決定的な出会い。

作品8 『イヨマンテ—熊おくり』

1977年・103分・自制作

フェルモ国際版画映画祭「人鏡」賞／

エスニア国際映像人祭祭典

「最高科学ドキュメンタリー」賞

イヨマンテは、熊の魂を神の國へ送り返す儀式である。生命体である人間と他の生命体である動物との対峙。そこには人間の信仰文化の原初への深い啓示がある。

100

新作100 「シシリムカのほとりで」
アイヌ文化伝承の記録

1997年・152分・平取町／北海道開拓局室蘭開拓

設立部会・波川ダム建設事務所委嘱

二風谷ダム建設による生活環境の変化の中で、自然採取、農耕、鮭漁、家づくりなど、二風谷のアイヌの伝統的生活文化を記録した。また、石斧で丸木舟を掘ることも試みた。先住民アイヌとダムとのあまりにも今日の出会い。



新作99 「世界遺産登録記念
コガヤとともに」

1996年・54分・白川村教育委員会委嘱

助成・芸術文化振興基金

1995年「白川郷・五箇山の合掌造り集落」
が世界遺産に登録された。屋根を葺くカヤ

を確保するための生活技術（茅葺によるカヤの栽培や運搬技術など）を記録。これがカヤと築く世界がひらく。

ビデオ 「白川郷の合掌民家」
技術伝承の記録

1994年・90分・白川村教育委員会委嘱

助成・芸術文化振興基金

岐阜県白川村荻町の合掌民家、旧田島家の解体移築記録。家の碇石を据える石場カチから、ガワ建て、屋根下地つくり、カヤ葺きまでの一連の作業を記録。完成への一大技術誌。

上映作品の案内

■同人活動

- ・高橋昌巳・・・土を素材に変えるために 住宅建築 6
- ・伊郷吉信・・・あゆみ野の家 住宅建築 6
- ・松井郁夫、高橋昌巳・・・『設計者のための木造住宅コストダウン術』日経BPムック

■事務局より

・ 97年度会費未納の方へ

おかげさまで、今年も生活文化同人に入会してくださった方も多く、現在の会報発行部数が100部を越えました。つきましては、まだ97年度会費未納方は、至急下記の要領で振り込みをお願い致します。8月末日までに入金が確認できなかつた方は、会報No.27より一時発送を見合わせていただきます。

1. 年会員 (会費 7,000 円/年)

定例会聴講(5回/年)、機関誌(1回/年予定)、会報(6回/年発行)

2. 会報購読会員 (会費 2,000 円/年)

会報(6回/年発行)

*年会員・会報購読会員の会費は1月から12月まで1年分とします。中途入会も上記の会費でお願いします。

*会員又は住所変更の方は事務局までFAX又は郵送にてお知らせください。

*会費納入は郵便局にて以下の口座にお振り込みをお願いします。

総合口座 10010-54101181

生活文化同人 代表吉田桂二

*不明な点は事務局にお問い合わせください。

・韓国建築文化研修ツアー(11/21~24) 参加者募集中
申し込み・問い合わせ 岡部知子まで ☎0429-77-0101

・会報原稿募集しています。私の近作、旅の報告、町並みスケッチなど何でもOK!
・毎号原稿締切:奇数月20日

大平宿おおくらや

編集後記

- ・今年の夏も、大平宿に集まる方々と、大平にすむ魚たちに会えることを楽しみしております。(D)
- ・ジョサイア・コンドル展を見にいってきました。彼の教え子でもある辰野金吾による東京駅のドローイングはとてもすばらしかった。彼の時代の建築家の絵は本当に見事なのが多いですね。十川さんの丸ビルの模型も相当の力作でした。(K)

会報編集局:〒102 東京都千代田区富士見2-13-7
連合設計社市谷建築事務所 新井/勝見



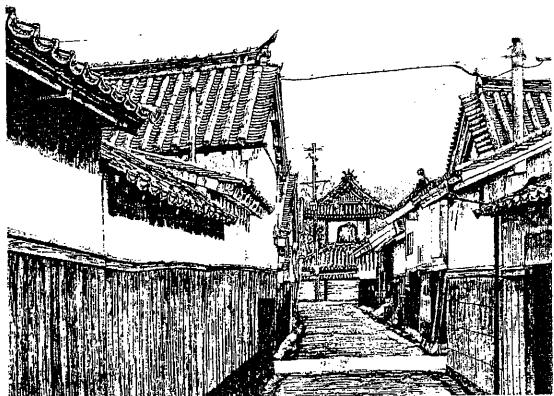
97年事務局:〒273 千葉県船橋市西船橋5-7-2-201 TEL/FAX0473-32-4413
生活文化同人事務局 松本昌義

生活文化

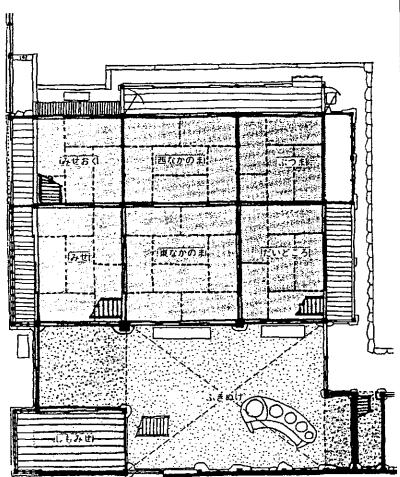
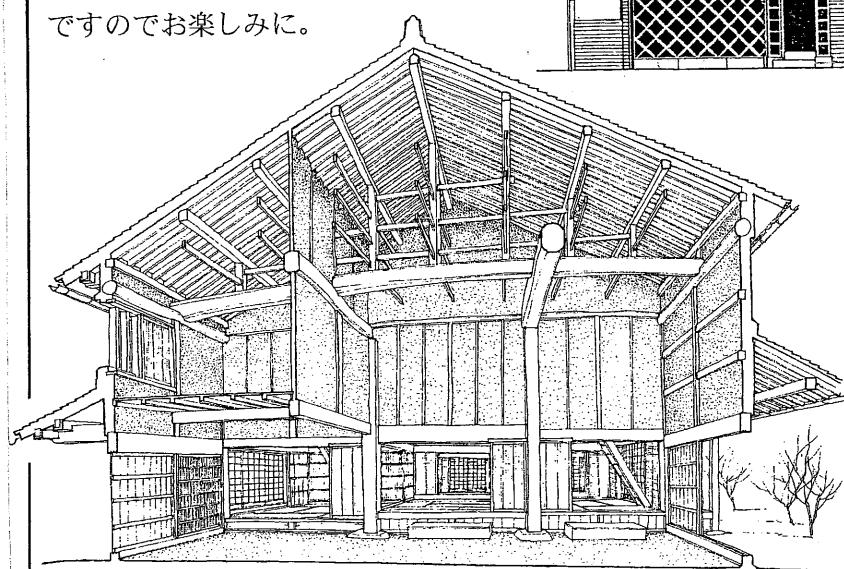
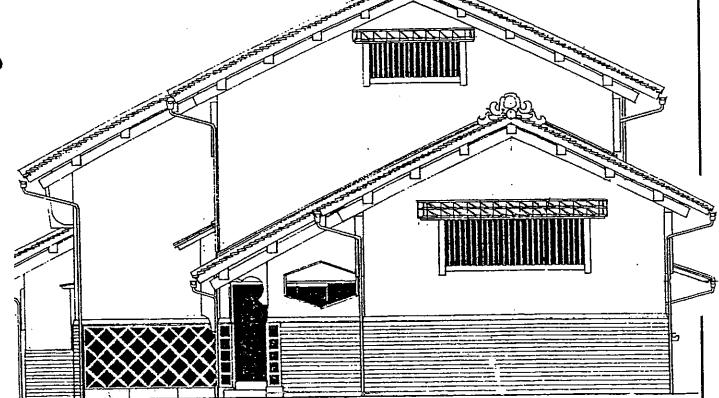
生活文化同人会報

1997(平成9)年10月号 No.27

次回定例会案内	1
⑤ 第4回大平建築宿に参加して	2
参加者のアンケート及び反省会から	17
12月定例会予告	20
⑥ 生活文化同人のための 内外装チェックリスト 1／日影良孝	22
連載「夢屋ものがたり」⑤	24
世話人会報告・同人活動 事務局より	26



大乗院庭園文化館、寺内町を訪ねる
 来る 10月 25・26 日に定例会（出張講座）
 が行われます。奈良方面という遠路ゆえ
 に参加者は少数ですが、中味の濃い2日
 間となることを期待しつつ秋深い大和路
 へ行ってきます。報告は次号に掲載予定
 ですのでお楽しみに。



■第4回大平宿に参加して (97.08.15~17)

今年も、参加された皆さんのが感想や思い、又運営上の問題点へのご指摘などを寄せ頂きました。事務局として次回からの建築宿運営の参考とさせて頂きます。ご協力ありがとうございました。

●大平の前日、五反田の飲み屋で深酒したせいか下着を忘れ、3日間汗と酒と煤の臭いに悩まされました。

今回は、江原さんからのお話によりカラ松の伐採をさせて頂きました。下紙屋前の広場のカラ松は、樹高14m、樹齢25年前後でした。樹木はじっとしているようで結構伸びるものでした。

「村が暗くなる」という声を聞くことがあります。離村した農家が裏の田園に植林し、その木が生長して家屋に日が当たらなくなることです。屋根には枝葉が積もり家屋は傷みます。廃屋は風雨を防ぐことからスズメ蜂の格好の巣にもなります。暗い村はもはや人の生活できる空間ではありません。

一方、大平の近くで恵那山の麓、中津川市の神坂地区霧原は、東山道の中継地点だったところですが、ここで参廻問題が持ち上がりました（住民の反対で白紙となりましたが）。バブル期に債務農家が参廻業関係者に土地を売り払ったことが発端です。

大平や霧原で感じることは、人が自然と対峙している場所は、人と自然がせめぎ合った緊張関係の下で調和した生活空間が保たれているのではないかということです。自然に対し人が手を抜くとそこは生活空間を喪失し、逆に、過度に自然に負担を掛けても同じようにそこは生活空間を喪失するような気がします。

その意味でも、羽場崎さんの日頃の活動に頭が下がる思いです。

今回、同宿の赤桐さんや参加者の皆さんのが熱意にふれて、自分自身4年間何をしてきたのだろうという焦りを感じているわけで、早く具体的な活動に結びつけたいと思っています。最後になりましたが、事務局の皆さんありがとうございました。

飛山 龍一



●土地には必ず地靈がいる。その気配を感じることを旅の楽しさと気づいたのは、2年前に訪れた波照間島のことでした。4日間の滞在中、私が多くの時間を過ごしたのは、日本最南端の高那岬。フィリピンの方角に広がる海に目を凝らし、波光の眩しさに疲れると展望台の東屋で風に吹かれる。それだけでも充分に心地良かったのだが、そこにいれば必ず誰かがやってきた。フタリとやってきてはフタリと立ち去る旅行者と、名前を教え合うこともなく取り留めもない話をし、話題が尽きると一緒に海を見る。そんなことを繰り返すうちに気持ちが和やかになっていったものだ。

断っておくが、私はどちらかというと人見知りの性格であり、干渉されるのも好きではない。それなのに、波照間では「今日はどんな人が来るだろう」と、自転車のペダルをこいでせっせと高那岬に通い詰めたのだ。

だが、それから何度も旅をしても、波照間の感覚は戻って来ない。当てもなく人を待つことを日課にしていた島の日々を、ずっと不思議な気持ちで思い出していたものだ。後になって気がついたのだが、たぶんそれが地靈の力なのだと思う。首里王朝の時代から波照間島の人々は、南の海のはるか彼方に浄土「パイパティローマ」があると信じ、海を渡って来るき稀人を歓待したという。その人々の念が高那岬に堆積し、時代の旅行者に作用したに違いない。

と考えるうちに、波照間での私は待つと同時に待たされる存在でもあったのだということに思い至り、この上もない幸福感に包まれるのである。

前置きが長くなったが、大平で私に取り憑いたのは、他でもない竈の主であった。正直言って、普段の私は人間はどうして食事をしなければ生きていけないのだろうと嘆いている口である。大平も自炊と聞いて、参加をためらったほどだ。それなのに、いざ来てみれば、朝食が済んだら昼食の準備、何を置いても飯、飯、飯のおっかさんには豹変してしまったのである。薪の煙に涙を流し、着ているものを煤で真っ黒にしても、頭の中は食べること、食べさせることで一杯であった。

文字どおり食べるため働くという人間の根源的な営みに対する新鮮な喜びは、私だけでなく同宿した人々で共有できたように思う。食事ごとに嬉々としてメニューを考え、自然に役割分担をして食事を作る。毎日の台所を預かってきた大平の女性たちの思いが染み込んだ竈が、私たちをそうさせたのだと、今でも勝手に信じている。

人生の多くの時間を竈の前で過ごしてきた女性たちが幸せだったかどうかはわからない。都会育ちの現代人の感傷といわれればそれまでである。だが、通りに漂う竈の煙の美しさに炊事の手を止め、しばし見とれたこともまた事実である。かつてこの地で暮らした人々は何を見つめ何を思っていたのだろう。想像を巡らせれば巡らせるほど、私たちに及ぼす地靈の力は強くなっていくのではないのだろうか。そんなことを、大平の夜の深い闇にと、囲炉裏に照らされた人々の輝きの狭間で考えていた。

平山友子

●今年はゆったりとした大平でした。そして多くの感動に浸ることのできた大平でした。宿は中村屋。きれいに出ているせがい、少し引いた浴室棟、大工の横田さんも出してくれた知恵のあれこれ、凍った土をドリルで割って、かい出した裸ん坊の中村屋、・・・土間に立ったらワーッと思い出してしまいました。

暮らす中で、やっぱり良かったと思える点も多くありました改善点もあります。水です。蛇口が台所と浴室に各1ヶだけ、イドッカワも無し。計画では台所に2ヶ外流し1ヶあるはずでした。脇に流れている湧水をもっと利用できそうです。

そして、これらの不便さを楽しみ代わりの方法を考え手間をおしまずやってみる大平家族のメンメン、素敵でした。

スムーズに動けるのはもちろん器としての家の計画の良さもあるでしょうが、暮らす人の関係が大きいとつくづく思いました。仕事と生活を分断せずに両方軽やかにやってしまう大人の集い、居心地良かったです。

静かに感動していました。『風のレジェンド』 囲炉裏端に座って、疲れた中年のつぶやきを聞いている臨場感は他人事とは思えず、受けた感動のお裾分けをするために、近所にある移築された民家で再演してくれるよう管理人を巻き込みに行ってこようと思います。

運営を担当してくださった方々、ありがとうございました。

島田真弓

●中央高速の飯田インターをおりて約2時間近く走ったでしょうか。そこには去年と全く変わっていない大平の風景が広がっていました。

初めて参加させていただいた去年に比べ、今年は一層強く大平の町を感じ、そして味わうことが出来ました。

観光地化されていない新鮮さがそこにはあり、まるで、自分自身が洗われるようでした。

朝起きると目の前には、すくすくと育った木々があり、そして、近くを流れる清流がまるで自分を呼んでいるかのごとく囁いていました。目覚まし時計で迎えるせせこましい朝とは全く異質のものでした。二日酔いもなんのその実に気持ちがよいものです。

ロケーションと並んで素晴らしいものは、芝居。そして、懇親会です。テレビもパソコンも無く、最小限の照明の中で普段会えない方々といろいろと語られたことは良い経験となりました。

特にこれといったふるさともない私にとって、大平は精神の拠り所となりつつあります。

そしてこれから先、大平で学び経験したことは、実践に反映されると思います。とにかく挑戦することの大切さに気づきました。

綾部孝司

●囲炉裏を囲んで虫の音を聞きながら更けていく静かな夜。

かまどで炊くほかほかご飯。

早朝の川の冷たさと流れる音、そしておいしい空気。

一年に一度しか会えないなつかしい人達との再会。そして、今年の新しい出会い。

そんな大平に惹きつけられて、今年もまた、来てしました。

今年初めて行わられた民家芝居は、特にすばらしく、囲炉裏のけむりを巧みに利用した照明効果、耳をつくづくばかりの銀河鉄道の音響効果、お二人の演じるということへの情熱を、最高の場所、最高の時間に鳥肌がたつほど、実感させていただきました。

現代社会の中ですさんでいく人の心の中に必ずある「一点の光」を、自らの力で苦しみながら増幅、成長させていく劇中の過程は、「大平」そのもののようにも感じます。

「近代化の功罪」が今回のテーマでしたが、ハングリーがバネと成り得るように、すさんでいること（罪）もまた明日への希望（功）につながると確信出来たように感じました。出来れば、芝居の後は囲炉裏の前で静かな夜をすごしたかったのですが…

また、先生のおっしゃられた、「保存と創造をいかにつなぐか。これを進めるのに人間の叡知がなければならない。これがエコロジーとなっていく。そして、21世紀の

テーマは環境しかない。」ということ。この言葉をお聞きしたとき、今まで私の心中でもやもやとしていたものの糸口がみつかったようでとてもうれしく思いました。

今回飛び入りでしたが、私共の「景観」をテーマとした模型展示にご来場いただきありがとうございました。特に、神戸の森崎建築設計事務所のご協力を頂き、震災復興に関連した現代の都市再生の景観を信州大平の民家の中で見ていただくことが出来たことは大きな喜びでした。日常から少し離れて我々の町を見る。鳥の目はいろいろなことを教えてくれます。

しばらくついていた大平の匂いも消えて、今年の夏も終わりました。また、お会いしましょう。

盛口尚子



●今回初参加の大平でした。長野の山奥まで来たのも初めてでした。いやぁ～昔はここが宿場町として栄えていたのは信じられないなあと思いましたが、夜の宴でにぎわう各家からもれる燈りを見て、大平が栄えていたこと、各家に残る生活のにおいのようなものを感じられた気がします。家のつくりもさることながら、立派な柱や梁が「この辺りで生えていたものだよ」ということにもおどろきました。大平に集まっている人達の前向きかつ、オープンな気持ちと、薪で火をおこす人達！すっかり文明の力にたよりきっていた私をおもい知らされました。来年はもっとたくましく、そして、大平の自然をもっと体験したいなあ～。あの家々を建てた大工さんに時代を越えて逢えたらいいなあ・・・・。うまく文章に書けませんが2泊3日で感じたことです。

一ノ瀬直子

●今年で2回目の大平建築宿。改修前の調査を含めると、3、4回目になるでしょうか。今年の大平は、慣れてきたせいもあってか、一泊だったにもかかわらず、リラックス出来、とても気持ち良く過ごせたように思います。

何が良かったのかをあげてみると、

その1. まずは台所や食器をきれいにすることから始めたので、その後の作業が気持ちよくできた。やっぱり“食”は要です。

その2. きれいな布巾、雑巾、新聞紙などを持参したので、とても重宝した。汚い雑巾では、そうじをする気もうせる。

その3. 同じ宿の皆さんのが、とても協力的で、各々が自分の得意とする作業を楽しんでやっていた。薪を割る人、火を起こす人、ご飯を炊く人etc・・・。皆なけっこううまいんだ、これが。

その4. 基調講演の後半をちょっと失礼して、静かな大平を散歩した。お天気も良くて、花や草木がきれいで、正に至福の時を過ごさせてもらいました。

おそらく、今年はゆとりを持ったスケジュールを立てていただいたおかげだろうな、と思います。やはり、時間に追われて、というのは寂しいですね。欲張りすぎない、というのが良かったと思います。

スタッフの方々をはじめ、参加された皆さん、本当にどうもありがとうございました。今年も大平宿を満喫しました。

〈P S〉民家芝居、『風のレジェンド 宮沢賢治スケッチ』とてもよかったです。民家ならではの、すばらしいお芝居を見せていただき、感謝、感激です。

西山珠美

良かった良かった大平

岡部知子

こここの処、同行してくれている亭主と子供が、大平へ行くことを楽しみにしてくれるようになった。自宅の隣が工場のため、休日とはいえ来客や電話が、絶えない我が家。仕事や時間から全く離れ、釣を楽しみ、仲間と語り合い、酒を酌み交わす亭主。大平友達との再会を喜ぶ娘。毎年父親と釣った魚を囲炉裏で焼き、皆の喜ぶ顔を楽しみに、骨酒作りに精を出している息子と、家族それぞれの形で全員参加の大平となってきた。

我が深見荘は、子供同伴組みのグループでこれが大変に良かった。子供達は従姉妹どうしの様に仲良しになり、母親達はお盆の親戚の集まりみたいねとはしゃぎながらの、和やかなご飯作り。亭主や子供は薪を割り、火を起こして食事作りに参加し、食べ終ると又子供同士遊びまわっていた。

夜の子供のお楽しみ会も仲間意識が出来たのか、用意していなかった子供まで参加者となり、前に出るのが恥ずかしいというシャイな元君と剛司君は力チカ棒を叩いて人集めに歩いてくれ、ほぼ全員の参加となった。何分もつか心配だったが、大人の飛び入りも出てくれて予想以上となった。

「自然を遊ぶ」第四分科会。 目を丸くし、爪を真っ黒にしながら芋を堀り、羽場崎さんに割ってもらった木を切り出しナイフで「My Hashi」作りに没頭する子供達・・・いいえ大人もかなり本気だった。

来年のお楽しみ会の出し物の話をしている娘達の横顔を見ながら、お酒が飲めない、難しい話が分からない、そんな子供達にも「自分は大平宿に参加している」ときっと感じてもらえたのでは・・・、そんな第四回大平宿だった。



ちょうど2年前に初めて参加して以来、3度目の大平建築宿でした。

今回は、懇親会で、自分の担当した建築作品を、紹介させていただきました。ここに来ている多くの方が深く興味をお持ちの（第3分科会のすごい人気を見て、改めて納得）伝統構法を用いたわけではなく、「自分の作品です」とは言えない建築（あくまでも飯田善彦建築工房の飯田の作品ですから）を、わざわざ“ここで”お見せしたかったのには、理由がありました。

2年前、長野県川上村の「林業センター」の設計監理の仕事が事務所に舞い込み、私が担当に決まりました。「地元のカラ松を使って欲しい」「村の林業についての展示もしたい」という村の希望に対し、木造建築すら初めて、「林業」について考えたこともなく、「カラ松」なんて詩でしか知らない…という私に、友人が紹介してくれたのが大平建築宿でした。

その際には、松本昌義さん（連合設計社）と岡部馨さん（岡部木材店）の分科会「輸入材依存と国産材の流通」に参加し、飛山さん（林野庁）達を交えて夜中まで、「日本にはこんなに豊かな森林があるのに、何故国産材を普通に使うことができないのか。国産材を使うことにはどんな意味があるのか。それに対して今自分たちは何を実践しているか。これから何をする必要があるだろう。」ということを話し合う場を持つことができました。自分にとっては全てが新鮮で、体験・実践を伴う意見は心に響くものでした。お陰様で、私はそれから2年間、この「林業センター」の仕事に深い思い入れをもって、向き合うことができたと思っています。そのお礼の気持ちを表したく、成果品のスライド上映をさせていただこうと考えたわけです。

大平建築宿の特徴の一つに、「誰でも参加できること」があると思います。

(…そのような意図で基調講演の人選や分科会のプログラムを工夫して下さっていると感じているているのですが…。) そして、今回「林業にも森林にも木造建築にも縁がなかった者が、それらに“縁”を感じながら一つの建築を竣工させた」ということは、「誰でも来ることができる大平建築宿」であったから“こそ”的、小さな成果だった、と受け取っていただければいいなあ、と思っています。

また来年も楽しみにしています。

のんびり大平 宮越喜彦

今年は大平にたどり着くまでに時間を要した。前日に夜行の急行で塩尻に着く。明るくなるまで待合い室で時間をつぶし、堀内家を外から見て、小野宿へ、そして昼に飯田まではちょっとハードであった。

大平に着き、さっそく草刈り。しかし、気分的にのんびりと過ごすことができた。「おおくらや」の薄暗い囲炉裏の前に座り、日の当たっている街道側を見ると「また来たなぁ」となつかしく感じる。毎年ここへやってくるのだけれど何かほっとするのは何故だろうか。変わらないものがそこあるからなのだろうか。逆に変わっていく自分がいるからなのだろうか。などとボーッと考えつつ。。。

また、「おおくらや」もだいぶ痛んできたなぁとも感じた。改修から5年が過ぎ適切な手入れも本格的になされにくく状況でもあり、特に、柱の傾斜が気にかかった。当然のこととして建具の建て付けも悪くなっている。障子の張り替え以上のことをしてしまずいという大きな問題に突き当たっているのだ。変わらないものの存在をどうやって維持していくのか、大平に関わる生活文化同人の課題ともなるだろう。

さて、囲炉裏やカマドの火のおこし方もみんな上手くなっているのは、毎年の学習の成果だろうか。ご飯の炊き方もさらに上達。うまい飯にありつけた。

今年は、座敷童子の参加を得る印象深い企画が大いに感動を呼んだ。立ち昇る煙。指し下ろす光。パワーと浮き出す下紙屋の梁組。童子の問いかけ。

映像と臭いが記憶に刻まれた。Mさんのいびきはよけいだったかな。

帰りは途中まで車で送ってもらうことができ（外岡さんお世話になりました）、今年も温泉（露天風呂）に寄れたのはラッキーであったのだが、囲炉裏の煙の臭いがきれいに洗い流されて、また雑踏の中に戻っていくのかと思うとちょっと気も重くなった。また来年、もっとのんびり大平を楽しみたい。

PS／年々、内容も充実し、参加者も安定してきたのは事務局各位の努力に負うところで、本当にご苦労様でした。



第4回大平建築宿に参加して

今年で3回目の参加。毎回工氏の運転する車で東京からやってくる。今年は飯田から登る道が土砂崩れで通行止めの箇所があるため、清内路を通って西側から上る。途中の疊神温泉の安い施設の温泉風呂をチェック！。もちろん帰り寄る為。来る途中では雨に降られたが、高地の大平宿に登れば心地よい気候。今年も何か良いことがおきそう。

今回は食糧担当係なので、初日の午後は深見荘の前でお店を開いて、食糧の分配の手伝い兼、お店番。各棟の担当者が三々五々に来る。早いもの勝ちが鉄則の大平宿。案の定、最後の班はお肉が足りない。（どこぞの班が多く持って行ったみたい？）宿場の旧道を桂二先生が参加者を率いて案内する行列が、前を通過。満寿屋の横では木を切り倒して鉈（なた）で何かを彫っているグループが。そういえばどこかで野草のてんぷらを食する催しがあるはずだが、場所が分からず・・・。

いつの間にやら時が経ち、夕食の時間。今夜の宿は「水道屋」。メンバーは旧知の人が約半分。人見知りの激しい私はひと安心。ここには下に大浴場がある。人々ゆっくりつかろうかと思ったが、酔いつぶれて翌日に延期。食事も女性陣がよく働いて下界より豪勢な？食事ができた。さあ、飯を食ったら本日のメインエヴェント「風のレジェンド」を見に行こう。

会場の「紙屋」へ着くと、あら不思議。みんな庭から入って行くではないか。後に続いて入ると座敷側が観客席で、土間・板の間側が舞台になっている様子。今夜の劇は主客が逆転、見る側が上座だ。もう観客は大方集まり、今か今かと開演を待つ。開演の合図と共に照明がおとされ、一同し～～んと静まる。土間の街道側の障子戸に道路側からライトがあたり、ひとりの男の影が・・・

この後の劇の模様はとても文章では表現出来ず。会場にいた人々のみ、この感動を分かちあえた。出演者が二人しかいないのに、大人も子供も、しょんべんするのも忘れて見入ってしまった。二人のせりふのかけあいと、何よりもこの民家の縦横に織りなす柱と梁とを意識した音と光の絶妙な効果。囲炉裏のけむり。全てがこの劇のために造られたのではないかと思う空間で、今回の大平建築宿のテーマ「近代化の功罪」を別の形で表現してくれた。「あなたの本当に欲しいものは何ですか？」の台詞を最後に男はまた障子戸の外へと・・・

あっという間に時は過ぎてしまい、しばらくの間観客は余韻に浸る。
が～！、しかし！、大平宿はそんなにあまくない！このあと、怒涛の懇親会へとなだれ込む。毎年会場となる「下紙屋」の宿泊客は、また今年も眠らせてもらえない。この後起きた出来事はそれこそそこでは書ききれない、いや醉っぱらって忘れてしまったのかも？覚えているのは一升瓶と、立松翁の大声と・・・

この様に大平建築宿の一日目は無事に過ぎ、各自「ちどり足」で自分の寝ぐらへと帰って行くのであった。

(完)

大平 秀和

大平

にしあか はる (小2)

いどがわで、あそいたのが、たのしかった。
おみせここをあおいちゃんといなみちと、
あるなちとゆう子
かい、たのしかった。ちと、やつたの
けうたです。ときあいの



今年初めて参加させて頂きましたが、とても楽しく過ごせました。
唯、炊事などに時間を取られてしまって、建物をじっくりと見る時間が少なかった事が残念でした。

親睦会では、急な事もあり、酒も入り、ギターを暫く弾いていなかったので、醜態をさらしてしまった事をお詫びいたします。来年はマイギターを持参して、本来の私の姿で素敵な演奏をする事をお約束いたします。

話は変わりますが、(社)全日本釣り団体協議会のフィッシングインストラクターとしての私(登録番号607号)から、痛切なお願いがあります。

小さいイワナやヤマメを串にさして焼いているのを見かけましたが、小さな渓流魚はリリースして下さい。長野県の条例では15cm以下の渓流魚の捕獲は禁ずる。という体長制限があります。

が、これでは小さ過ぎます。食用にキープするのはせめて20cm以上にして、必要最小限数をキープするよう心がけてください。

なお、体長制限等の法律違反をすると、6ヶ月以下の懲役、1万円以下の罰金、さらには拘留、科料などが併科される事になります。

私も15日の午前中に2時間程、大平の傍を流れる奥石沢川を釣ってみましたが、釣れるのは小さな魚ばかりで悲しくなりました。

川底の状態も悪く、川虫も多いとはいはず、堰堤が並び、コンクリート護岸が続き、周りは植林の針葉樹です。放流された魚が自然繁殖するにはいい条件とはいえません。

また、この川のように堰堤が連続して、川が小さく分断されてしまうと、生息範囲が狭くなり、魚は大きくなりにくくなってしまい数も減ります。

釣りは、美しい魚と出会えた事に感激するに留めて、できるだけキャッチアンドリリースを心がけましょう。 食べる事だけを目的にせず、出会う事が大切なのです。

また、奥石沢川などで釣りをする場合は入漁券が必要になります。販売店で入漁券を購入してから入川して下さい。入漁料金は養殖や放流の費用になるものですから、必ず納めましょう。 規則やルールを守り、魚たちを育てながら釣りを楽しむようにしたいものです。 古い建物を慈しむように、魚達にも深い愛情を持って接して頂きたくお願い申し上げます。

分科会の中でキーワードは環境と申されておりましたが、それを大平にあてはめるなら、川は病み、山はキノコもまともに生えない状況です。 正直がっかりしました。

川をよくする事を考えるなら、広葉樹を増やす、堰堤やコンクリート護岸を取り払いドイツのような近自然河川改修法で川を本来の姿に戻す、入漁規則を徹底する等、やるべき事は膨大にあります。 私の思い描く自然環境を実現させるのは、夢のような事ですが、美しく健康な自然環境に囲まれた大平に、ワクワクしながら毎年足を向けたいものです。

山が荒れているというのは、林業が荒廃しているという意味とは別に、人間の冷たいメスを入れられて山が不健康になっているという大変大きな問題も抱えているのです。

私がこの歳で建築家になろうと思った理由の中にも、この事が含まれています。その事は、長くなるのでとてもこの誌面では書ききれませんが、人間の暮らしだけを考えたり、美しい建築物にあこがれただけで思い立ったわけではありません。

私のキーワードは木です。

最後になりますが、夏の大平にはキンカンを持参しましょう。

夏山の特に渓流沿いでは、アブ(シロフアブ等)が多発し、お盆の頃にピークを迎えます。

幸か不幸か大平での発生は少ないようですが、注意が必要です。現に刺された人が何人もいました。アブに刺されると痛く赤く腫れあがり、足を何ヶ所も刺されると痛くて歩けなくなってしまう事もあります。人によっては発熱したり、頭痛がしたりと始末に終えません。

私の今までの経験では、刺された場合キンカンが一番効きます。他の軟膏などでは完治するまでに2週間以上もかかる事もあります。コツとしては刺されたらすぐにキンカンを塗り、一日に何回も患部に塗るのがコツです。患部を冷やしたり、抗生物質を合わせて飲むのも効果的ですが、あまり抗生物質を飲むのはひかえましょう。

それとアブには虫除けスプレーはあまり効果がなく、アブを寄せない為には黒っぽい服装を避ける位しか今のところ手がありません。アブは水辺の木陰などによく潜んでいます。そんな所でちょっと用足して大切な所を刺されたら大変な事になりかねません。注意しましょう。

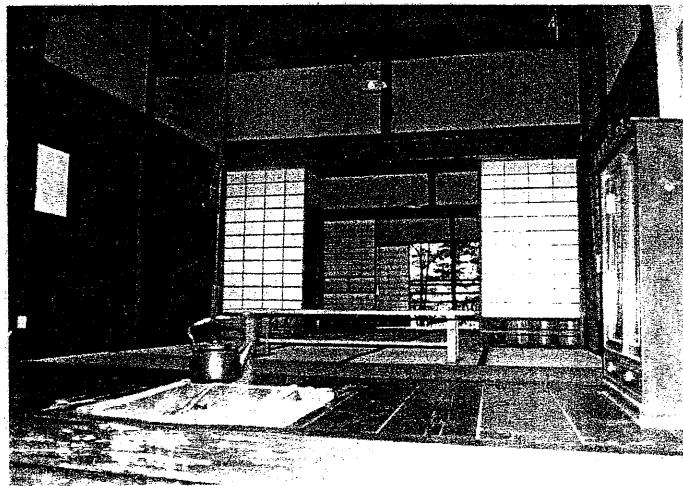
建築の勉強をするのもとても大切ですが、ちょっと心に余裕ができたら周りの自然にも目を向けてみて下さい。

そこに生きる木々や菌類、昆虫、獣、鳥、魚達の人々に聴いてほしい声が聞こえるはずです…。

職業・Gデザイン(Tアートプランニング)
(社)全釣り協フィッシングインストラクター
中央工学校夜間建築設計科1年
佐々木 貴彬



立派なお風呂からのロケーションは抜群：水道屋



みんなの食品庫だった：深見莊



キャンプ場になっている：大平小学校

1997 大平宿

去年は大平宿の空気を吸うことが出来なかった。だからかなー！？何か調子が悪かったっけ。今年こそは大平に帰るぞ！という感じで信濃路を訪ることにした。

さてさて、元気になるのかな？うーん、ここには、自分が浄化できる何かがあるような気がするのだ。水戸を離れること10時間（ちょっと寄り道？もしちゃったし・・・）夕御飯の煙が立ちこめる大平宿に到着。おおくら屋に上がり込んだ。ただいま！というカ・ン・ジ・・・何処の誰だか知らない者同士、一つ屋根の下で「食する」という事だけが生活の中心とも言えるであろう此處での暮らしの中で、何だか昔から知っていたようなそんな親近感が見えてくるのは不思議・・・。暖かいんだよなー。ホッとしたりするし。何だろう？

そんな中、初めて体験した民家劇は、自分の中を旅したような何とも言えぬ感じだったなー。「本当に欲しいモノは何か？」この生活の中でいつまでも何処までも続いていった。みんなもう見つかったかなー？おおくら屋で、と言うか大平宿で生活していて結構耳にしてた言葉だった。私は見つけることを始めることにした。

毎日薪を割って火を起こす生活は2、3日の生活では新鮮だよねー。でも毎日だったら大変だ！いつもは・・・ご飯はお米をといてタイマーセット！朝には炊き立てご飯の出来上がり！お風呂の温度調節も超簡単。水とお湯の分量を調節するだけの便利生活。（電気が止まればTHE END）・・・お風呂のかまどに居たときだった。お風呂から上がってきた少年が、薄暗いかまどに来て「ありがとう！」と言った。ーん？何で？ー「お風呂のお湯を暖めてくれてたから・・・」何だか心がポットした。その少年は、夏休みを日本でホームスティーしているドイツの17才の少年だった。ずっと火の番をしてくれた男の子の顔にも笑みが見えた。HAPPY HAPPY

食事の支度をしているときに女の子が2人「タマネギありませんか？」とやってきたのです。「え？あ、ちょっと待ってて・・・あー、丁度なくなっちゃった。ごめんね」丁度使いきってしまった後だったのだ。・・・あれ！？この感じ・・何かなつかしいな。何だっけ？そうだ、小さい頃隣のおばちゃんの所にお味噌借りに行かされたっけ・・・。うーん、この感じこの感じ。無ければ24時間営業のコンビニに行けばOKの今では少なくなったなー。生活はそれは一人一人のものだけど、容易じゃなければそれだけ感じる、人とのふれ合い。もっと大きな生活が見えてくる。日本における近代化は生活が便利（？）になった。でも人の心はささくれてきた。（私だけかもしれないな。）3日間大平宿で生活して人の暖かさを感じてしまった私は、だいぶ疲れていたのでは・・・日常の生活に・・・。まだ、蘇生するチャンスはあります。そう、自分の気持ちしろいで元気になれるのだ。いつもわかつっていたつもり、でいたのにね。

すごく長い独り言になってしまった・・・。独り言だから方言が入ってしまった。ゴメンナサイ・・・。おおくら屋さんと一緒に過ごしたみなさん、楽しかったです。元気になりました。ありがとう。

1997年 秋

外岡 生祖



□第4回 大平建築宿の感想

第4回大平建築宿実行委員長として運営上の問題点を含めて、感想を述べたいと思います。

まず、4回目ということで参加者数の落ち込みが予想されましたが、結果的には120名を超える人に集まっています。お互いの協力のもと、アンケートの結果によると、全体としては満足していただけたのではないかと、一安心しております。皆様のご協力に感謝申し上げます。日常の仕事をしながらの準備・運営であるために行き届かない点は多々あったことをお詫び申し上げます。今回は、運営上いかに合理化していくか、またマニュアルを作れないかと腐心しました。次回以降、実行委員には運営上の手間を掛けず、企画の構想・実現に時間を割いていただきたいと思います。

のために参加者の方にもいくつかご協力を願いしたいと思います。まず、参加者の登録は早めにお願いします。仕事の都合でぎりぎりまで参加できるかどうかわからない場合はいつ結論ができるかを明示し登録していただくと、名簿を整理する上で大変助かります。

次に、今回参加してみて次回も参加しようと思っている方は、気心の知れた方をお説いてください。内容を充実させるためには約140～150名の参加者を募りたいと思います。また、2回目以降の参加者は大平宿及び大平建築宿の改善に積極的にご協力ください。大平宿の保存の経緯を顧みても、一人一人が動かなければ何も改善されません。たとえば、便所を改修するには行政に働きかけたり、資金を募ったりと、自ら行動を起こさなければ改善されません。今回の不平は次回の改善への鍵になり、自ら改善に取り組むのきっかけになるので大いに歓迎します。

大平宿でいろいろを囲んでの体験合宿は、多少とも、かつてそこに暮らしていた住民の生活の追体験ができます。日頃、古民家の保存を訴え、ひょっと訪ねた民家で少しでも長く住み継いでほしいと無責任に言ってしまいますが、暗い・汚い・寒い・臭いなど住んでいる人にしかわからない苦労を強いていることにもなり、私にとってはそのことを認識するよい機会です。大平宿の改修後に感想を聞いたところ、改修前からの利用者は以前の方が大平宿らしいと言いながら、まだ改修されていない民家を平気で利用しています。大平宿の生活を追体験したいと思っていながら、快適性を求め過ぎていることに気がつきました。

今回の大平建築宿の「近代化の功罪」というテーマは、車でのアクセス・快適なアウトドアライフ・食料運搬の依頼・当然のごとく使う水道・ごみの処理などと、意識すれば全てのことにあてはまる意義深いテーマでした。「風の伝説レジェンド」の訴えていることと併せ、今後のものの考え方の指針になるよい機会でした。

江原 幸壱
木の建築設計

□第4回 大平建築宿の感想および意見（参加者のアンケートおよび反省会から）

《全体》

- ・大平建築宿は、単に大平宿の利活用だけではなく、一年毎の問題提起をテーマ化し、話合えるようにまでなってきた。
- ・今回民家芝居を行ったように利活用の方法を開発しながら大平宿を広めて行きたい。特に飯田市民を巻き込みたい。
- ・大平建築宿参加者の幅が広がって来た。
- ・「近代化の功罪」というテーマはよかったです。
- ・参加する毎に大平宿の見方が変わって来ている。
- ・今回は何もしないことを楽しめたので、次回もゆっくりとしたい。
- ・運営を合理化する必要がある。
- ・家族サービスの場になってきている。

《日程》

- ・初日をのんびり過ごせたので、基調講演が2日目でよかったです。
- ・職人にはお盆の方が休暇が取り易い。
- ・お盆の時期は高速バスは臨時便ができるので帰りのチケットは当日でも取れる。
- ・毎年続けてお盆に留守はできない。

《会計》

- ・酒を飲めない人は参加費を安くしてほしい。
- ・芝居などをプログラムに組入れると予算上参加者は150人位集めたい。
- ・名簿を作成するために登録の締切を早めにしたい。

《芝居》

- ・道路が遮断されたため飯田市民が観劇に来れなかった。

- ・福岡でも公演をしてほしい。

- ・続けてやってほしい。

《食事》

- ・お茶葉がほしい。
- ・牛乳、お茶が少ない。
- ・マヨネーズ、バターが少なかった。
- ・小さいビニール袋がなかった。
- ・子供用の飲み物が少ない。
- ・女性が二人しかいなかつたので、年中炊事をしていた。
- ・すいか、とうもろこしが美味しかった。
- ・朝食が少なかった。
- ・3食食作るのは大変なのでインスタント食品を取り入れてはどうか。

《連絡》

- ・街から公衆電話に連絡をするために「からまつや」の宿泊は必要。
- ・拍子木を使って集合の合図をする。

《広報》

- ・木曽方面からの参加を望みたい。
- ・食器持参を強調してほしかった。
- ・サンダルも持参したほうがいい。
- ・妻籠宿の救急病院を調べておく必要がある。
- ・マイクロバスに乗車する場合は酔止め薬を飲むように注意した方がいい。

《機材備品》

- ・低予算での協力を要請する。
- ・障子紙が足りなかった。張替は最終日のほうがいい。

《交通》

- ・運賃のことを考えると高速バスが利用

できるようにしてほしい。

- ・電車を利用した方がマイクロバスの送迎に便利である。

《分科会》

- ・今日は講義を聞かず体を動かす分科会に子供と一緒に参加したのでのんびりできてよかったです。

《ごみ》

- ・処理法を徹底すべき。
- ・コンポストの処理をした方がいい。

《宿》

- ・子供達は一緒の棟がよい。
- ・子供は幾つかの棟に分けてもお互い誘い合って遊ぶのでよいのではないか。
- ・「深見荘」の便所の鍵が壊れている。
- ・「深見荘」煙りがぬけない。
- ・「からまつや」の洗面所の水栓が壊れている。
- ・「満寿屋」の水がない。
- ・「満寿屋」の便所は虫が多い。
- ・畳がカビ臭い。
- ・子供たちは同じ宿がよい。
- ・かつて借りれなかった棟が借りられ、風呂にのんびり浸かれたので満足。
- ・便所の改修。水洗のほうがいい。
- ・シャワーがほしい。
- ・煙突の掃除をした方がいい。
- ・「水道屋」は狭い割に人が多かった。
- ・「満寿屋」は女性が少なかった。

《よかった企画》

- ・民家芝居。
- ・基調講演。
- ・第2、第3、第4分科会。
- ・障子紙貼替え。

・自然を食べる。

・樹木の伐採。

・大平宿ガイド

・懇親会。

・子供達の出し物。

・ぼーっとしたこと。

《企画の提案》

- ・環境というテーマをとりあげてはどうか。
- ・子供用の企画をもっと増やす。
- ・分科会を少人数で行う方がいい。
- ・手作り竿による魚釣り。
- ・同人間の情報交換。
- ・建物の修復。
- ・民家の内装についての話。
- ・住民参加のまちづくり。
- ・和太鼓、おはやし。
- ・畠作り。
- ・水の調査。
- ・自由時間。ごろ寝
- ・芝居、音楽の企画。
- ・左官の話。
- ・食のワークショップ。
- ・ディベート形式の講演。
- ・大平音頭をつくってほしい。
- ・かつて住んでいた人の生の話。
- ・星の観察
- ・ハイキング
- ・アイヌ民族の唄と踊り
- ・映画の上映
- ・木曽を巡る企画も加えてはどうか。
- ・かつて、大平宿に暮らしていた人の話を聞きたいという意見もあるが、苦い思い出もあり、安易に直接話を聞くことはしない方がいい。

大平建築宿も無事4回目を終えることができました。今後も、多くの人に愛される大平宿継続を目指し、生活文化同人より以下のような要望書を飯田市長に提出しました。

要　望　書

平成 9年 9月17日

飯田市長 殿

拝啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、長年、大平宿の保存運動に携わってきた「大平の自然と文化を守る会」、「大平宿をのこす会」および「大平宿を語る会」の努力が報われ、「ふるさとづくり特別対策事業」によって大平宿の改修工事が行われたことは全国の大平宿を愛するものにとってこの上もない喜びであり、飯田市民および飯田市長以下市職員の皆様に深く感謝申し上げます。

わたくしたち「生活文化同人」は改修工事以降、改修され生まれ変わった大平宿の民家を利用して、飯田市および飯田市教育委員会のご後援のもと、毎年夏期に「大平建築宿」を開催しております。この行事では大平の自然を満喫しながら町並み保存や自然と歴史環境保護について研修を重ねております。

このように大平宿を愛し利用している立場から大平宿の継続的存続を願い、以下のことを要望します。

- ・防災対策のため、民家周辺の樹木の伐採および畠の復活、用水の確保。
- ・民家の破損箇所の補修と設備の維持管理。
- ・永続的維持への対策。
- ・「いろいろの里」の適切な利用指導と利用促進。

何卒、ご配慮のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

敬具

生活文化同人代表
吉田桂二
㈲連合設計社市谷建築事務所
〒102 東京都千代田区富士見2-13-7

生活文化同人12月講演会

John Ruskin

「The Seven Lumps of Architecture」（建築の七灯）
を読む

連合設計社市谷建築事務所
高橋照男

ジョン・ラスキン（英國の美術・建築評論家1819-1900）著『The Seven Lamps of Architecture』（建築の七灯）の第6章2節に次の言葉がある。『人間の忘却に対する強き征服者はただ二つあるだけである、それは「詩」と「建築」である。しかも後者は幾分前者をも含み、その実在性において一層有力なものである。』人間の作り出す文化のうち忘れ難きものは詩と建築、しかも建築は詩以上のものであるとラスキンは言う。建築は詩以上のものであるとは我々を鼓舞する言葉である。

「建築の七灯」を通してラスキンは建築は単に物質の塊ではなく精神の結晶であることを言っている。そしてそれは神の栄光を表現する人間の営みであり、神への賛歌なのであると言う。「建築の七灯」（岩波文庫で復刊）はラスキン34才の時の建築論である。建築の本質を導くものとして七つの灯をあげ、この七つの灯を内にもつ建築をラスキンは理想とする。普通この本は建築史や芸術論の方面から取り上げられて論じられる場合が多いが、私は本書は「建築労働者の幸福論」であると読む。つまり神と建築と経済が調和するところに労働者の幸福がある。それを作図表現してみれば図のようになる。ではラスキンは何を「七つの灯」と言うのか、その本質と思われるキーワードを以下に記す。

第1章 懇意の灯

建築を神に捧げる精神（これを懇意と呼ぶ）が必要である。必要以外の部分（装飾）を造るのが「建築」である（1節）。建築の美はそれが神への奉仕に捧げられない限り決して榮えない。建築主は心から喜んで資金を出さなければ良い建築はできない（9節）。

第2章 真実の灯

「建築上の虚偽」はあってはならない。支持力がないのにあたかも支持しているように見せ掛ける事、違った材料に見せ掛けることなど（6節）、費用の掛かっていないものを掛かっているかのごとく装うことは罪悪である（19節）。

第3章 力の灯

建築作品に現れる神の靈力の心象は、価格（コスト）とか装飾（デザイン）とか構造的器用さ（架構力）に勝るものである。これが建築の本当の力である（1節）。

第4章 美の灯

建築はその最も豊かな植物模様をあたかも大自然がそれを配置するような所に配置すべきである（12節）。自然の形態の外は何物をも模倣するな（34節）建築を一種の有機的生物と見なさねばならぬ（36節）。

第5章 生命の灯

生ける建築（13節）。神の靈（聖靈）に溢れた建築（18節）。（建築の眞の価値は）それに携わった労働者がその建設に従事しつつある間幸福であったか、（によって計られる）……幸福なきところには生命もないであろう（24節）。

第6章 記憶の灯

建築の義務、現時の建築を歴史的ならしめなければならぬ。過去の時代の建築を遺産の中の最も貴重なものとして保存しなければならない（2節）。

第7章 徒順の灯

建築の形式は「国家」「生命」「歴史」および「宗教的信仰」の体現である。それを実現するための原則は「徒順」である。その徒順は自由のうえに基礎をおくものである。然らざればそれは單なる屈従である。（1，2節）手にて造られざるもの（神の造りたまえる天地大自然）を考えずして、すべての建築はいかに速やかに空に帰するであろう（10節）。（新約聖書使徒の働き7章48～49節）

建築は、それにたずさわる者が幸福であるときに良い建築になる、というラスキンの言葉は至言である。

ラスキンの根本思想をただ一言で表現すれば「生命以外に富はない」ということになる。（井伊玄太郎著「ラスキンの文明論」雄松堂 序文による）モ里斯がラスキンの影響を受けたのもこの辺にあろうかと思う。モ里斯だけでなく芸術家も建築家も経済学者もその他多くの人がラスキンに影響を受けるのはこの点であると解す。

「永遠」「愛」「生命」「美」「自然」「労働」などの言葉はラスキンにかかると急に輝いてくる。それはラスキンがその言葉の中に生きていたからであると思うのである。

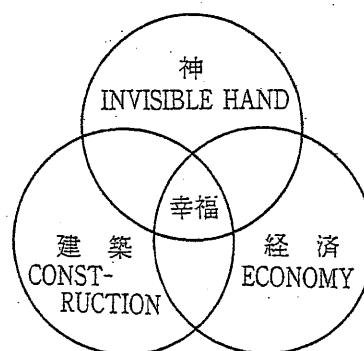


図 建設労働者の幸福

ジョン・ラスキン『建築の七灯』第5章24節の思想を筆者が作図表現した。

生活文化同人のための 内装外チェックリスト その1

作成：日影良孝建築アトリエ

健康と環境に配慮した素材一覧

■伝統的建材

土壁	色土に藁スサと砂と糊を混ぜ仕上材としたもの。白木の柱・畳・襖といった自然材料と相性がよく、地場の色土によって地方色を出すことが出来る。	
	砂藤商事（株） 京都市下京区五条通千本西入ル 075-311-0392 (株) 灰豊 京都市上京区東堀川通下立売下ル 075-222-1027	
伝統的な塗壁仕上材で、消石灰に糊とスサを練り合わせてつくる。空気中の炭酸ガスと結合し、堅い壁を造りだす。通気性に優れるほか、製造・処分時の環境負荷が少ない。		
土佐漆喰 高知県の地場の左官材料。塩焼き消石灰に発酵させた藁をいれ、練り合わせて造る。糊を使わずに、発酵した藁の繊維が材料のつなぎとなる。水に対して非常に強い。		
(株) 栗田商店 高知県高知市農人町5-26 0888-82-1105 田中石灰工業（株） 高知県高知市五台山3983 0888-82-1158		
漆		漆の樹液を精製し、塗料としたもの。漆液中のラッカーゼが酸化重合し、硬化。塗膜は耐水性、防腐性等に優れまた使い込むほどに艶を増す。だが紫外線に弱く、かぶれ等の問題もある。
木曾アルテック社 長野県木曾郡猪川村奈良井82-1 0264-34-3303 沢幸漆店 石川県小松市東町46 0761-22-7211		
シッコウ 石川県小松市吉竹町わ42-2 0761-24-2589		
柿渋 渋柿を発酵させ塗料としたもの。柿渋の不溶性皮膜を形成する性質を利用防腐性、耐水性に優れるが、水溶性のため、外部に使用する場合は注意が必要。		
トミヤマ 京都府相楽郡南山城村大字 南大河原小字阿僧6-5 07439-3-1017		
渡新老舗 京都市中京区河原町二条上ル清水町340 075-231-2021		
渡清 京都市上京区油小路丸太町上ル来屋町286 075-256-3252 空間工作所 東京都新宿区篠町37-602 03-5261-0211		
弁柄 古代中国から輸入された酸化鉄を含む赤色顔料で、塗装や左官に使用。深みのある赤色を出す。乾式と湿式工法があるが、乾式では有毒ガスが発生するため湿式が主流		
戸田工業（株） 広島市西区横川新町7-1 082-231-2181 利根産業（株） 埼玉県行田市大字下中条1612 0485-57-2111		
田中直染料店 京都市中京区三条通小川西入ル 075-221-4112		

久米蔵	久米蔵は本来、黒土を膠で溶いたもので、ゴマ油を仕上げに塗って使っていた左官材料であった。現在、柿渋+松煙+弁柄を配合、古色仕上げとする塗装方法。	
	古川建材	茨城県古河市本町3-4-9 0280-32-2447
和紙 紙等の皮の繊維と粘液を混ぜ漉き、仕上げる。襖・障子・照明また、壁紙としても使用される。採光・保温・調湿に優れているうえ、装飾としても大きな役割を持つ。		
紙舗 直 東京都文京区千石1-29-12-201 03-3944-4770 紙のさと 茨城県那珂郡山方町舟生90 02955-7-2252 からかみ屋 新宿区西新宿8-20-2アイリスビル1F 03-3369-1616		
■健康と環境に配慮した新建材		
珪藻土 珪藻（プランクトン）の死骸の堆積土=珪藻土を凝固材と混ぜ、仕上材としたもの。保温断熱、調湿、脱臭等に非常に優れた効果をもつ。施工時には、内装・外装と用途にあわせた材料選びが必要。		
大阪ガスケミカル [ケーソーウティカ他] 東京都港区芝公園2-2-2 03-5401-3796 内装・外装にあわせて、ケーソーウティカ・ケーソータタキ・ケーソーライトの3種を取扱う		
(株) BLM [BLMハウダー] 東京都府中市白糸台4-15-3 0423-63-7320 日本ダイヤコム工業（株） [MGボードQシリーズ] 石川県金沢市直江町イ4-2 0762-37-7433 用途に合わせて数種のMGボードを取り扱う		
(株) サメジマコーポレーション [BLMハウダー] 川崎市宮前区土橋1-21-11 044-888-0001 珪藻土を主原料とした「既調合粉末」。内装用は、塗布重量の約80%の吸水率で、結露（多湿）防止、消臭効果あり		
畳 恵仁環境研究所 [備長炭入り畳] 中央区八重洲1-5-8鳥居ビル7F 03-5202-7278 備長炭を組込んだ畳で、吸湿調整・脱臭・害虫忌避に効果がある		
（株）古代入スガオカ [ヒバ畳] 青森県十和田市稻吉121-448 0176-23-7612 ヒバのおが粉を内包したシートが組込まれた畳ヒバの成分であるヒノキチオールに防虫効果、抗菌作用がある。		
磯垣タタミ 京都市北区鞍馬口通烏丸西入 075-441-6500 発泡炭化コルクを芯材に使用。断熱・調湿・害虫忌避効果がある		

壁 紙	(株) 日本ルナファーザー [ルナファーザー] 港区赤坂5-1-38赤坂東商ビル 03-3583-1119 通気性・吸湿性に優れた塗装下地用壁紙。塗重ねが可能な為、改 装時に有効。	
	(株) トミタ [スプロノバ／モーメント] 中央区京橋2-3-16 03-3273-7551 スプロノバは再生紙を利用。有害物質を含まずどちらも還元可能	
	(株) リリカラ [ジオエース／エアロン] 新宿区西新宿7-5-20 03-3366-7825 調湿性に優れ、煙濃度低減により火災時の煙による被害を最小に 抑える事が可能	
	(株) 東リ [エコウォール] 兵庫県伊丹市東有岡5-125 06-492-1331 再生紙を利用した壁紙で。通気性に優れ、耐水性のインク使用に より川や海を汚さない。	
	(株) サンゲツ [天然シルク] 名古屋市西区幅下1-4-1 052-564-3111 シルクによる解毒効果があり、調湿性にも効果がある	
	(株) しんもく [ノンホルム合板] 埼玉県八潮市大曾根2198 0489-96-0235 合板から出るホルマリン臭を除去した低ホルムアルデヒド合板	
	いすゞ産業(株) 京都市下京区下魚町通西洞院西入東町261 075-343-2500	
	段谷産業(株) 北九州市小倉北区東港2-5-12 093-561-6337	
	イヌイ(株) [アウロ] 大阪市中央区道修町2-2-5 06-203-1871	
	ドイツ・アウロ社の自然塗料。各種植物の精油花・樹脂等が原料 日本オスモ(株) [オスモカラー] 西宮市山口町阪神流通センター1-54 078-903-5554 ドイツ・オスター・マン&シャイベ社による植物油をベースにした 無公害塗料。塗膜を作らず塗装面のワレ等を防ぎ調湿効果もある。 ウッディワールド [ファングオイル&蜜蠟WAX] 北海道帯広市東一条南6-12 0155-25-1371 植物油と無公害型の乾燥材が原料。ファングオイルは漆と混合 使用可能	
天 燃 塗 料	コーティングメディアサービス [ミルクペイント] 新宿区市ヶ谷田町1-19SPC市ヶ谷ビルB2 03-3266-0281 牛乳の成分であるミルクプロテインを主原料とした自然塗料	
	イヌイ(株) [アウロ自然接着材] 大阪市中央区道修町2-2-5 06-203-1871	
	燃接 系着 剤	
	東リ(株) [リノリューム] 兵庫県伊丹市東有岡5-125	06-492-1331
	リ	亜麻仁油・松脂など天然素材でつくられる床材。亜麻仁油の酸化 作用による抗菌効果がある。
	ノ	(株)サンゲツ [ウンボロ]
	リ	名古屋市西区幅下1-4-1 052-564-3111 100%還元可能で燃焼時の有毒ガスの発生がない
	ユ	アキレス(株) [エコリウム／アートレイアム]
	ム	新宿区四谷4-7新宿ヒロセビル5階 03-5379-4505 抗菌性・耐久性がある
	カ 丨 ベ ツ ト 内 装 テ ム	(株)リリカラ [エボック／エクリュ] 新宿区西新宿7-5-20 03-3366-7825 ペットボトルを再利用したカーペット シンコール(株) [環境II] 金沢市直江町12 076-237-7740 裏打ち材にオレフィン系の特殊樹脂を使い、燃焼処理、再利用を 可能としたタイルカーペット
木 製 サ ッ シ 加 茂 建 具 共 同 組 合	内シ 装ス テ ム	段谷産業(株) [ペプ] 北九州市小倉北区東港2-5-12 093-561-6337 パルプ繊維を使った内装材で、100%リサイクル可能
	木 製 サ ッ シ	木製サッシは木製窓枠とガラス戸が一体となった物で、 それを壁面に組み込み施工する木の持つ性質を生かし、 断熱性・防震性に優れる。気密性にも優れると共に、防 火性の面でも、大断面の物であれば、防火戸としての効 果も十分に持ち合わせる。
	加茂建具共同組合 [加茂サッシ] 新潟県加茂市寿町16-6 0256-52-0893	
	ピーラー材(柱目米松)を使用した純木製サッシ。ガラス戸のみでな く、網戸、戸襷、障子を組み込み、4重まで可能	
	大出産業(株) [BIG BOY] 東京都江東区東陽4-12-18 03-3645-9178	
	米松を使用する他、桧・ヒバ等を希望により使用。断熱性・気密 性・耐久性に優れる	
	(株) 新宮商行 [オリンピアウインドウズ] 北海道小樽市鏡函2-32-1 0134-62-2011	
	乙種防火認定品。木材枠の大断面化・網入れガラスの使用等によ り断熱性・気密性は基より、防火性にも優れる	
	久保木工(株) [NTシーザー他] 北海道旭川市南七条通20 0166-31-9389	
	乙種防火認定品。北海道産サクラ材、コーキ材(キハダ)を使用 収縮率はほとんどなく、気密性・耐久性・防火性にも優れる	
天 燃 塗 料	NPK JAPAN LTD [ピーエーウィンドウ他] 渋谷区代々木1-58-10 03-3374-1946 北欧パイン(赤松)を大型断面フレーム加工し防腐処理を施した 木製枠サッシ。断熱性・気密性を保持し、燃えても炭化するため 防火性に効果がある。	
	日本ベルックス [ベルックススルーフィンドウ] 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-23-14 03-3478-8141	
	窓枠にスウェーデンパインを使用。外装材はアルミニウム製で耐 候性・気密性に優れる。天窓のみを取り扱う	
	旭硝子建材販売(株) [もくまど] 文京区本郷3-34-3本郷第一ビル1F 03-5689-8410	
	天然木材(グラスファー)を用いた断熱性・遮熱性に優れた木製 サッシ。窓枠材はアルミと木を複合利用し防震性・耐久性を確保	
	カ 丨 ベ ツ ト 内 装 テ ム	

「おおやで歌ひ　みかんにまじていた手ぬ

ぐいをはずして手に持つと、ぼくに言った。

「ああ、風呂に入らう」

「わあ、豚汁だ！」
ぼくは、ぴょんぴょん圍炉裏の回りをはねま
わる。おばあが母さんに呼び掛ける。

ぼくと父さんが、風呂に入っている間に、

おばあと母さんは、にぎやかにしゃべりなが
ら夕食の支度にかかる。

「父さん？」

「え。」

「父さん？」

ぼくは、湯船の中で手足をのばしながら、流

し場だからだと洗つて、いる父さんに言つた。

「おばあと母さん、なしてああ、ようしゃぐ
るんだる。」

父さんは、少し考えた。

「女の楽しみは、しゃべる」と。男の楽しみ

は、黙つてそれを聞ける」と・・・かもし
れん。」

母さん

の母さん

そういって、桶に湯をくむとザザーとかぶつ
た。

ぼくと父さんが風呂から上ると、ボーン
ボーンと柱時計が六時を打つた。圍炉裏のほ
うから、おいしそうな豚汁の匂いがただよつ
てくる。



「所じや。」

そう言つて、母さんの座布団を置く。

「いいせ『よいじや』。昔からな、『よいじや』に

座るはネコ、バカ、坊主」と言つてな、一

家の主人が座ると決まりとるんじや。」

『よいじや』には、当たり前のように父さんが

座つて、いる。ぼくは、そんな決まりがあつた

なんて、知らなかつたから、むりやらネコ、
バカ、坊主の仲間だったようだ。

「おかあさん、こちらに座つて下さい。『か

かざ』には、おかあさんが居てくださいな
いと・・・。」

母さんが、おばあの青い座布団を、『かかざ』

のいつもの所へ戻しながら言うと、ぼくは、

大きくりんうんとうなづく。おばあが、おば

あの場所にいないと、なんとなく落ち着かな
い。だれも、座る場所を心配してくれないの
で、ぼくはしばらぐわのりをして、いた。



ものがたり

(5)

「まるつきり、わかるんのじやろうか」

「おかあさん。私にとつては、分かられても分かられなくとも同じに思うわあ。なんか抱きしめたいくらい、いとしい。」

しわの一本々々に、『生きる』歴史みたいなもんを人々々々刻んでみえて、その方の歴史に私みたいなもんが、かかわりを持てることが、なんか毎日うれしくて』

「お玉さんは、すこしき足が弱られて、この『』るは車椅子でしか動かれんのです。いつも、おかあさんのこと、うるやましいと、言つて『さるわ』

「ふーん、そうけえ。山田の春さんはどうけれども、手にすがつて『ありがとう。ありがとう』って、泣きながらおっしゃるんで、つらいんです」

「春さんは、まるで極楽に住んでおられるみたいでね。誰が行つても、何かして差し上げても、手にすがつて『ありがとう。ありがとう』って、泣きながらおっしゃるんで、つらいです」

母さんは、少し声を落とした。

大庭 桂

おばあの家の表の小さな小川で、大根は真っ白に洗い上げられ、軒のところの竹ざおに青々とした葉をたばねてしばり、ずらりと並べてつるされた。六十本は、あるだろうか。晩秋の西日に照らされて、白い大根は、ほんのり茜色に見えた。こうして一週間ほど干して風にさらし、大きなプラスチックのたる中のビニール袋に塩や糠ぬかをふりかけながら大根を詰め、ふたを置いて漬物石をのせる。ただこれだけのことなのに、おばあの大根漬けは、よそのよりずっとおいしい。おばあのおばあのおばあから、目から目へ、手から手へと伝えられた味、としか言いようがない。

ぼくは、茜色の大根を見上げて、「早く漬からねえかなあ」「まだまだ」と答え、はじけるように笑いだした。ぼくも

おばあはそう言つて、手を止めてほんの数秒裏の山を見つめた。

大根は、並べてピリミッシュの形に積み上げられた。

「ああて、これくらいにして、あとはもう少しあいど二つ。一度雪の下になつた大根は甘くなるからなあ。」

■同人活動

- ・日影良孝・・・民家再生と建築デザイン 住宅建築 9
- ・松井郁夫・・・小西別荘 住宅建築 9
- ・吉田桂二（連合設計社市谷建築事務所）・・・旧逸見勘兵衛家住宅、町並み保存地区における民家の再生 住宅建築 9
- ・内藤敬介・・・映画の中の住まい（生活文化同人定例会報告） 住宅建築 9
- ・宮脅喜彦・・・建築専用3次元CADの冒険 建築知識 9, 10
- ・研究集会、小国/民家再生 坂本善三美術館をめぐって 42「木の建築」木造建築研究フォラム 東京/解放かつ耐震的な木造住宅をつくるための方法

■事務局より

- ・訃報。同人の定例会にも、度々参加されていたGK設計取締役 朝倉則幸さんが8月18日病気のため亡くなられました。ご冥福をお祈りします。
- ・今回の大平宿の夜の部会で、長野県川上村の「林業センター」のスライド上映をしてくださった赤桐雅子さんより見学会のお知らせです。
川上村林業総合センター「森の交流館」（設計者飯田善彦氏）見学と
晩秋のカラマツ林を楽しむ会

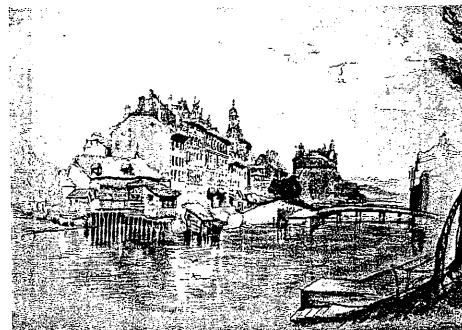
日時：10月25日（土）、26日（日）

- お問い合わせ TEL 0267-63 3154 長野県佐久地方事務所林業課 西岡氏
- ・次回定例会12月12日（金） ジョン・ラスキン『建築の七灯』を読む
 - ・生活文化同人総会、忘年会 12月22日（月）
 - ・会報原稿募集しています。私の近作、旅の報告、町並みスケッチなど何でもOK！
 - ・毎号原稿締切：奇数月20日

編集後記

- ・この秋サッカーファンにとって気になる時期となりましたね。そのあなた！カレンダーに日程を書き込んでいませんか。でも本当に日本はフランスへ行けるのかなあ？（☞）
- ・今年の大平建築宿も無事閉宿。楽しかった夏休みが終わり秋をむかえ、なんだか少し物悲しい今日この頃です。（K）

会報編集局：〒102 東京都千代田区富士見2-13-7
連合設計社市谷建築事務所 新井／勝見



ジョン・ラスキン画 1846

97年事務局：〒273 千葉県船橋市西船橋5-7-2-201 TEL/FAX0473-32-4413
生活文化同人事務局 松本昌義

----- キリトリ -----

・定例会 ジョン・ラスキン『建築の七灯』を読む に参加ご希望の方は事務局まで必ずFAXにて申し込んでください。

※11/20くらいまでにお願い致します。

定例会 ジョン・ラスキン『建築の七灯』を読む に参加希望します。

氏名：

TEL：

職場 ／ 自宅

生活文化

生活文化同人会報

1997(平成9)年12月号 No.28

次回定例会案内	1
出張定例会報告	2
私の近作／西岡麻里子	8
同人紹介／石引浩子	10
イタリア紀行／戎居連太	11
連載「夢屋ものがたり」⑥	14
1998年度会費について	16
掲示板	17
同人活動・事務局より・編集後記	18

■定例会 97/12/12(金) 6:30~8:30PM 於 中野区立商工会館大会議室

ジョン・ラスキン『建築の七灯』

講師、連合設計社市谷建築事務所 高橋 昭男

Introductory

Chapter I. The Lamp of Sacrifice

II. The Lamp of Truth

III. The Lamp of Power

IV. The Lamp of Beauty

V. The Lamp of Life

VI. The Lamp of Memory

VII. The Lamp of Obedience

John Ruskin THE SEVEN LAMPS OF ARCHITECTURE

With 14 Plates by the Author

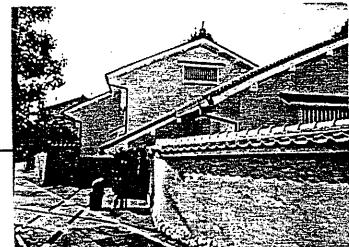
大乗院庭園文化館と寺内町を訪れる ——吉田先生と共に—

去る10月25日（土）、26日（日）。一泊二日の出張講座が大和で行われました。秋の青空、紅葉の始まりかけた野山と豊かに実った柿、そして、懐かしく温かい町並みが、とても印象的でした。参加者17名。益子昇さんのコーディネートで、関東、関西に加え、九州からの参加者もありました。出張講座のついでに奈良見学をしてきた方、正倉院展に行かれた方、新しい京都駅を見てきた方などもいらっしゃったようです。

◆1日目は、午後近鉄奈良駅に集合し、初めに吉田桂二さんと松本さんのご案内で大乗院庭園文化館を見学し、その後、益子さんのご案内で今井寺内町を訪れました。近鉄を乗り継ぎながらの移動でした。

宿泊先の社会教育センター「かつらぎ」。お風呂も食事もなかなか良かったです。翌朝早く起きて、周辺の池や林を散歩してきた方もいたようです。

◆2日目は、とにかくよく歩きました。地元出身で土地に詳しい鳥居辰夫さんのご案内で、當麻寺、傘堂、竹内街道、富田林寺内町と、時には畠の中を突っ切ったりもしながら、見て回りました。1日中歩いて歩いて疲れましたが、それはとても心地のよい疲れでした。解散前に富田林の喫茶店で飲んだコーヒー、帰りの新幹線で飲んだビール、本当においしかったです。



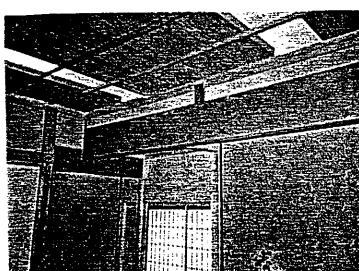
名勝大乗院庭園文化館（近鉄奈良駅から徒歩約15分、月曜休館）

どの部屋からの庭の眺めも美しく、ついつい長居してしまい

たくなる空間です。今回、2階の和室会議室は使用中で見学できませんでしたが、普段見せて頂けないナショナルトラストの会議室を拝見することができました。

照明、障子、窓、束など様々なところに楽しい（つくる方にとっては大変な？）

発見が散らばっています。「住宅建築」96年11月号を御参照下さい。

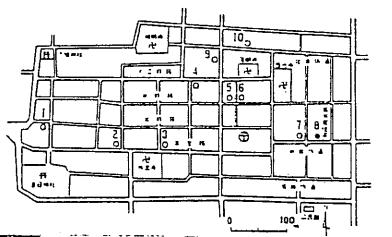


床の落し掛けは構造材を兼ねているそうです。
吉野材使用が基本ですが、この太い材は輸入材。

「国産材は今は5寸材までならある。あと10年経ったらもっと太い材がとれるようになる」と吉田先生。

今井町（近鉄八木駅下車すぐ）

今井に着いたのが夕方近く。急いで重文指定の今西家と高木家を見学させて頂きました。ちょうど祭りをやっていて、各軒先には赤い提灯が。路地で子供の姿をよく見かけました。



寺内町

W見学

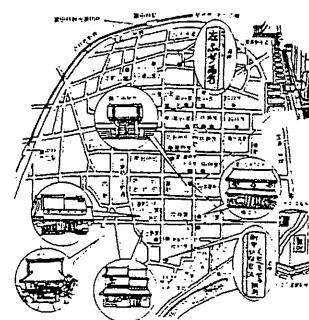
一步外へ出ればマンションや駐車場でガチャガチャした市街地。けれども、一步

中に踏み込めば昔ながらの町屋が並ぶ、一息つける町並みが。本瓦葺きの重たい屋根をぶつとい大和格子がしっかりと受けている様にも見えて、～調度良いバランス～

富田林町（近鉄富田林駅下車すぐ）

2日目の午後、鳥居さんのガイドで散策しました。杉山家（重文指定）と興正寺別院を見学させて頂きました。新しい保育所も町並みを意識。…日曜日で店が閉まっており、フィルムの足りない人が続出。

寺内町散策マップ



2つの町の整備状況を見て、電線の地中化が景観形成を左右する重要な要素であることを実感しました。

當麻町（当麻：たいま）散策

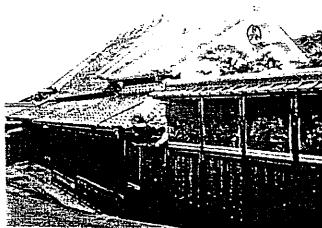
當麻寺 中之坊では胃腸薬<陀羅尼助>を売っていました。昔からの

妙薬だそうです。庭園には大きな樽の、唐傘天井のお茶室がありました。



散策中、錦絵を何度か見かけました。

竹内街道では大和棟を間近に見ることができました。



旧竹内街道（たけのうちかいどう）

難波宮と飛鳥京を結ぶ、最古の宮道（古代国道一号線？）だそうです。



最後に、最初から最後までお付き合い下さいました鳥居先生に心より感謝申し上げます。

参加者（敬称略） 男の方：綾部、飯島、岸、寺本、鳥居、藤間、益子、松本、簗原、吉田

女の方：石川、岡部、島田、外岡、西岡、松崎

報告者：中村美和子

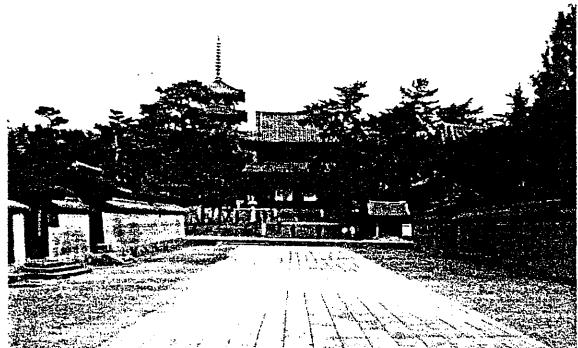
秋の大和路こぼれ旅

1997.10.25・26

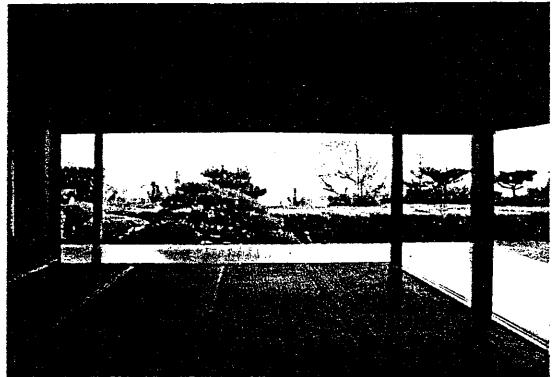
同人の出張講座として催された大和路を巡る旅は、これまで話をしたことのない人たちと交流を深めることのできた有意義なものでした。桂二さん、松本さんの設計による大乗院庭園文化館は、スライドで見ただけで今回初めて訪れ勉強になりましたし、今井町・富田林という寺内町は私にとって 2 度目の訪問となり、より深く観察できたように思います。それらメインの見学コースについては参加者から届いた感想に譲りまして、私は集合前に訪れた奈良の古寺について少しづかれて書きたいと思います。

初めに訪れたのは中学の修学旅行以来 11 年ぶりの法隆寺でした。当時は「裳階は『もこし』と読み、屋根としては数えない」ということ以外さしたる知識もなく、中門の外から眺めた全体のシルエットが印象に残っている程度でした。幸い大学で（最近まで）建築史研究室に身を置いていたため古建築に関して少しは知るようになり、構造的合理性を犠牲にしてまで全体のプロポーションに配慮した、という五重塔の強い遞減率をこの目で確認することができました。日本古代の特質は「形態が先行して、それに構造が付随するところ」にあるそうなのです。また金堂の軒の四隅には龍と獅子の彫物を伴なった支え棒があるのですが、これは後世に補修されたもので、深い軒の垂下防止のために隅尾垂木を支えています。このことも全体としての意匠的効果が優先された結果だということを改めて教えられました。また伽藍の外は色づき始めた紅葉や土塀が朝日に照らされ、いまも変らない古代的な風景に心が洗われる思いがしました。

次に訪れたのは斑鳩に程近い慈光院でした。ここは学生時代に茶室について勉強するようになって初めて耳にし、その後、幾つか茶室を見る機会を持つようになって一度訪ねたいと思っていたのです。ものの本に掲載される書院の写真は襖が全開になった極めて開放的な眺めのもので、桂二さんにも「あそこの書院はいいぞ」と薦められましたが、これは撮影のためだけに全開にしているのでは、という不安が拭えませんでし



た。しかし行ってみると期待通りに開放的な空間が広がり、お茶とお菓子のサービスもありました。京都の詩仙堂をご存知の方もいらっしゃると思いますが、私の印象では慈光院書院から見た庭と遠望の方に軍配が上がります。書院の広縁に続いた二畳台目茶室は、「床挿し」や「亭主床」など石州らしい独特の構成要素が散りばめられ、また片桐石州という武人茶人によるものでありながら、佗びに徹した抑えの利いた空間構成で好ましい印象を覚えました。

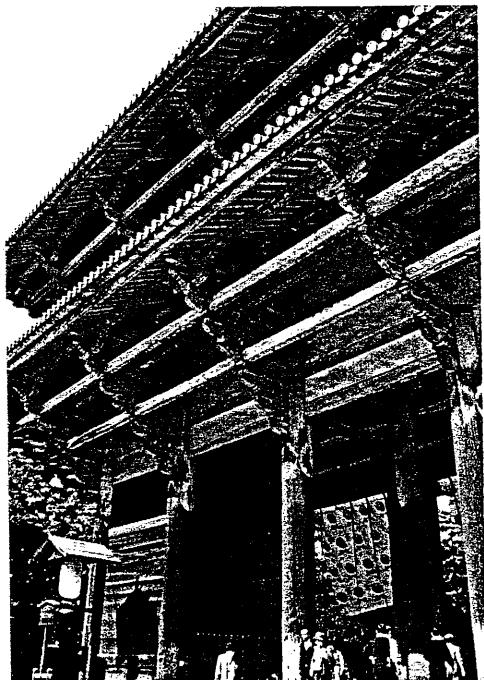


最後に訪れたのは東大寺です。言わずと知れた奈良の代表的観光スポットで、私も中学生のときに修学旅行と家族旅行で訪れていますが、この日も修学旅行生と一般旅行者で賑わっていました。当時は「大仏」を見に行く以外に目的があるはずもなく、まして南大門などは軽く通り過ぎていたものです。ところが、実は南大門こそが建築的に非常に重要なものだと知り、常々もう一度「南大門」を見たいと考えていました。東大寺南大門の重要な所以は、淨土寺淨土堂と共に「大仏様」様式をとどめた数少ない現存遺構だということです。「大仏様」とは貫通する貫の多用、遊離尾垂木の導入による軸組の合理化と自由な柱間の確保、意匠として積極的に取り込んだ架構、といった点に集約されます。「貫」の発見などの構造的発達が後の建築や一般の住宅に及ぼした影響は計り知れないと言われます。

そうした難しい話は置いておくとしても、南大門の軒を支える「挿肘木」の雄大さ、力強さは他では見られない圧倒的な存在感を示していました。

「すでに訪れたことのある場所、建築を再び訪ねる」という体験は、新鮮な発見をもたらしてくれます。そこに僅かばかりの知識が加われば、旅は尚楽しいものになると思います。

(岸 未希亜／連合設計社市谷建築事務所)



● 大乗院庭園文化館、寺内町を訪ねて

10月にしては暑すぎる中、近鉄奈良駅へ集合、定刻を少し過ぎ出発、猿沢池のそばを入ると車が接触しそうになりながら（この道を通るたびに思うのだが、せめて週末、祝祭日は歩行者だけにすべきだ。）大乗院庭園文化館へ、庭園は修復途中で池にも水はなく、残念だったが、空池の中を老鹿が一頭のんびりと歩き去っていき、いかにも奈良と云う雰囲気。庭園を歩きたかったが時間がなく残念。（荒れたままの当時に訪れているので美しく魅った時を楽しみにしておこう。）文化館を後にして近鉄を乗り継ぎ今井町へ、2年ぶりだ。足を踏み入れた途端にタイムスリップ、瓦の濃灰色、漆喰塗りの白壁、板壁の焦茶色、いつ見ても落ち着く、気分よく今西家へ、柱、梁の貫祿に圧倒される。寄り道をしながら高木家へ、上げ下げ窓等面白い。ちょうど町内のお祭りの日で町中に提灯が吊り下げられて幼児の祭はっぴにねじり鉢巻き姿もちらほらと可愛らしく、もう少し早い時間だったらお祭りも見られたかも。また又、近鉄を乗り継ぎ本日の宿舎である『かつらぎ』へ、神戸から車でなら1時間少しで来れる所なのにえらく遠くへきた様な気がする。

2日目、まずは当麻寺へ、周辺民家の屋根、堀に乗っている恵比須、大黒の瓦や銀絵のある壁等が楽しかった。当麻寺、中の坊書院の欄間が印象に残ったし東西両三重の塔、曼荼羅堂、講堂、金堂と見ごたえのある建物であった。少し歩いて竹内街道へ、ちょっと足を踏み入れただけであったが、往時を偲ばせる雰囲気が残っていたし、屋根、特に瓦に存在感があり面白かった。続いて富田林の寺内町へ、杉山家はさすがに裕福な生活が偲ばれた中でも黒光りするへっついさん（かまど）は芸術品だ。3階蔵、あて曲げの辻、鬼瓦、天女の瓦等々まだまだ見所一杯の寺内町であった。パンフレット、資料、報告書等でズッシリと重くなったサックを肩に近鉄富田林より帰路につく。

今回企画の益子さん、案内をしてくださった鳥居さん、そして吉田先生へ感謝！感謝！

〒657 神戸市灘区猿原中町5丁目11番3号

寺本 雅男

●出張定例会に参加して

生活文化同人の、旅というかこのような企画に参加できたことをとてもうれしく思います。いつも思うことなんですが、こんな何も知らない自分が参加して良いのだろうかと考えます。大学生なのに、と恥ずかしく思います。でもいつも帰路につくときは充実感でいっぱいになってます。僕なんかでも、木が好きで強く美しい家を建てたいというだけで仲間になれるからです。みんな気持ち良く接してくれて、それでいてそれぞれ目標があるのでとても熱いのです。今回も構造とかちんぶんかんぶんだったんですけど、中之坊や富田林の家を見ると感動して言葉がありませんでした。

来年から大工の修行に励む僕ですが、僕も人を感動させる家をつくりたいです。みんなに負けないように頑張ります。

僕にとって何も代えがたい二日間でした。ありがとうございました。

熊本大学 篠原 元

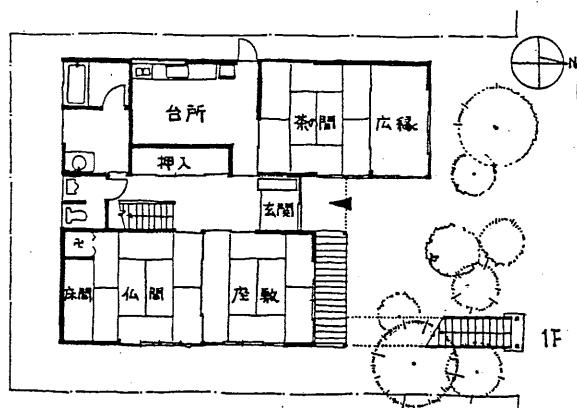
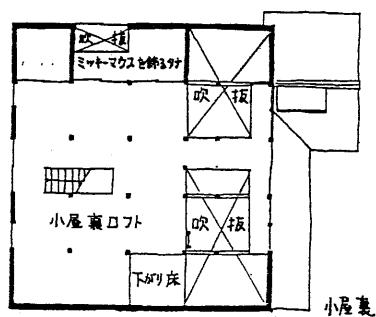
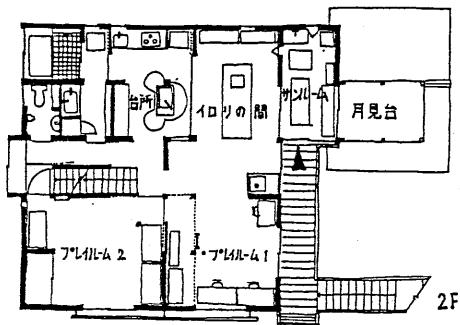


私の近作

西岡 麻里子

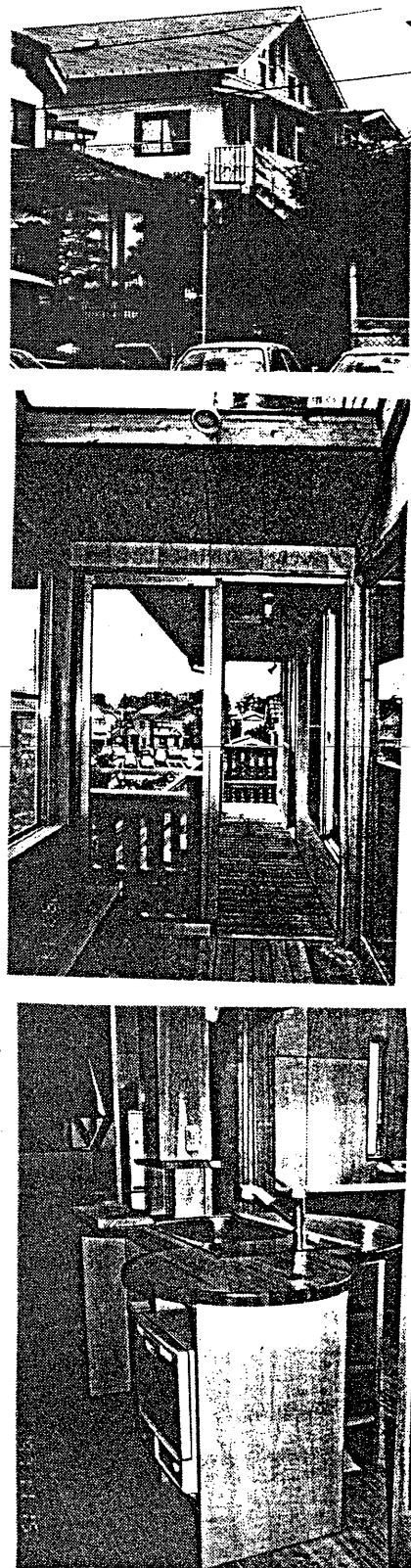
完成したばかりの 増改築の現場です。

両親の家を 増築し 小屋裏もできるだけ利用して 息子家族4人の住まいを作りたい
というのか 建主である 息子夫婦の希望でした。 築10年の 両親の家は 故郷
の秋田の大工さんを呼んで 治まり込んで 作ってもらつたとのこと。 二間続きの座敷
は、 秋田杉を使つた見事なものでした。 でも 家族が 蓋らう 茶の間や台所
は 大陸ビニールクロス貼りのつくりで 日当たりも、せかくの 庭の緑も 室内から
楽しめないので 少し残念に思えました。 大きな一階の上に 小さな二階が
のつている 家だったので、 2階の壁のほとんどと、小屋組の全てを取り払い。
総2階に近い増築をし、小屋組は 新しく 架けました。 予算は ローコスト。
既存の梁や柱は なるべく いじらないようにしたもの。 建主の希望は、
家中が オーブンで 烹あらわし。新建材は 使いたくない、できれば“民家風が
良い”ということでした。 結局 小屋組を 化粧にし 小さな戸のついた“イロリ



所在地	埼玉県浦和市
家族 1F	親夫婦+子 1人
2F	息子夫婦+子 3人
敷地面積	273.16 M ²
1F床面積	90.26 M ²
2F床面積	81.98 M ²
小屋裏面積	49.68 M ²
合計床面積	221.93 M ²

テーブルを 居間に 作ったことで、少しだけ
建主さんの夢が かなったように 思います。
この家のもう一つのテーマは ミッキー-マウス。
奥さんが 大ファンで コレクションも 沢山あります。
家のどこかに ミッキー-マウスの形を、といわれて フムフム と こちらが 考えているうちに、
台所のカウンターを ミッキー の形にしてほしい
という 希望が できました。 エーッ！ …でも
おもしろいかも。 巨大な耳が 2つ ついた キッチン
カウンターのおかげで 食の空間が 大きく
なりました。 出来上がってみると、耳のところに
まな板をおいて アゴのところを モーニングカウ
ンターにして、と でこぼこの形が けっこう
使いやすそう … ? 抜けない柱は 流しの
よこの 相当になりました。 "イロリテーブルの 杉板
は 岡部材木店 にお世話をになりました。
しかし、竣工当日、1オになる 3人目の女の子
が オムツのおしりで ピカッと テーブルにあわ
り、 炊事の中に 足をつこんで 楽しそうに 灰をか
きまわしていた そうです。 フタを作らべきだった。
火事に 火が入るのは 当分 先になりそうです。
後日談といえば…… 完成間近の頃、 ずっと
たまっていたおばあちゃんが 内階段を登って
きて 私に向かって 云いました。
「 なーんだか、 ピコに 客を通すんだか。 でっ
かいうちだけど、 部屋が 1つもない。 今の若い
モンの考えることは わからない。 」 そういうわけで 私は
「 …… 」 たしかに 一階とは 対照的な
間取りになりました。



◆同人紹介

— GENERATION — <私のルーツへ.>

石弓若子
イシヒキタココ

昭和48年。オイルショックの年。2次ベビーブームの中、私は、産声を上げました。

養鶏を営む、祖父母、両親、弟妹と4人家族の家で育ちました。

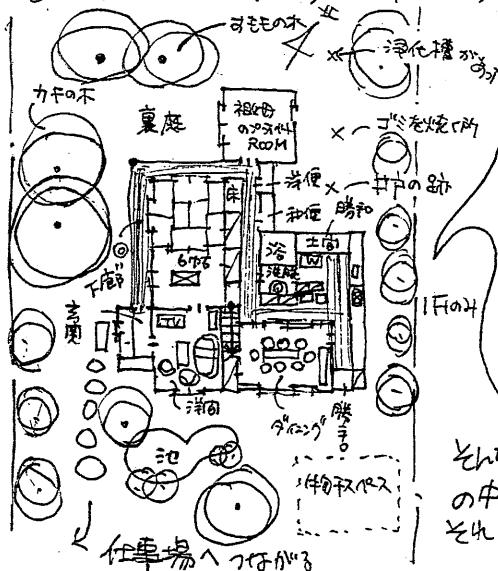
私の家は、私が“14歳まで”祖父母が“結婚の際建てた家”で築建を重ねられた家で生活し、14歳の冬 新築した家との生活が“スタート”しました。

生まれて14年、そして幼少の頃の生活の中で“体感”して得られた生活の豊かさなど、私の原点となつたと思われる事柄を、個人の経験の場面へ、簡単に“はありますか”、書かせて頂こうと思ひます。取引始めのない $\frac{1}{2}$ 歳ではありますか、御了承下さい。

増築を重ねてきた古い家は墓は、昭和17年(戦前)との頃の規定でその土地には、15坪ほどしか建てられず、少すう土地を貢い足しなからたくしていたそうです。私が“産まれた日”には、玄関入り口と10畳の座敷その奥に6畳の堀ごたつのある居間、8畳の床の間のある和室、玄関から6畳・8畳をつなぐ回り廊下があり、居間廊下より2階への階段、

ダイニング、浴室、便所などの奥に台所とあり、今見ると回り部と繋がる接子ではありますか日本人の配慮が共存するつくりたと見いました。

そして、何より、自然と環境に素直に生活を楽しんでいたと見えてきました。田舎団にあると下のようになります。



- よく6畳と回り廊下の所で夏ガラスの木達を全開にして風の通り所を設けて寝覚めをしていました。
ネコを飼っていたのでネコの後ろを入っていけばOKでした。
- 裏庭と回り廊下で夏ピクニック気分で食事をしました。
小漏れ日の下で気持ち良かつたのを思い出します。
- 廊下はマット電球しかなかったので夜トイレ行くのが怖かったです。
木の廊下はギミギミ音がなんとも小怖かったです。
年末の大掃除はがたみと障子の貼り替えがたいへんでした。
- 釜場の跡の残る土間に隣のニオイが染み込んで
やっかしさを思い出します

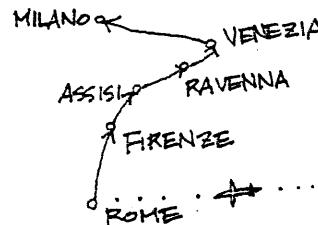
それは生活が私の中に積もり、今があり、ほとんどの家族の児童の中、一生をかなえ体調はみな健の中もあると見えますか？
それが生かせる仕事に力をこげる事を私は幸せに見ています。
<END>

イタリア。スケッチ紀行

1997・9・14 (SUN)



9・22 (MON)



旅の記録

イタリア人は常に樂しそうな気分。

朝は教会の鐘の音に伴い人々は目覚め、幾重にも時が重ねられ

て街に実際住み、生活している。

11時ごろ市場、路地で人々は朝から談笑し合っている。BARなどの
ところにあるかのようだ。

建物は歴史的建造物ばかりでなく“まち”。今生きる人々の中に
入り込む、市場は居間のようだ。あたかも1人1人のゆとりを求めるかのように。
広がりと繋がっている。

夙食からワインを飲み、ゆっくりとした時間のなかでランチを樂しむイタリアン。

地元の人と言わせるとワインは酒ではないらしい。

建築に限らず、一つの事象を観察すると、すべてが樂しそうだ。
これがいるかのようだ。

今回の旅行は、スケッチで建築は限定せず、好きなときに好きなものを
書こうとした。食べ物を書くことにあって何が食事として出くさが樂しけば
なり。市場、果物が並んでいて市場に行ったり、窓下視点で
非常的な生活の中で日常の豊かさを発見できたように思いました。



1号



TEA
ALLA
PESCA

柑橘のエキスの入ったアイスティー
は確かに日本には最高ですが。

2号



GELATO

ミルク味(latte)のアイス
이라고。本当に牛乳を飲
うる3分のよろ…

3号

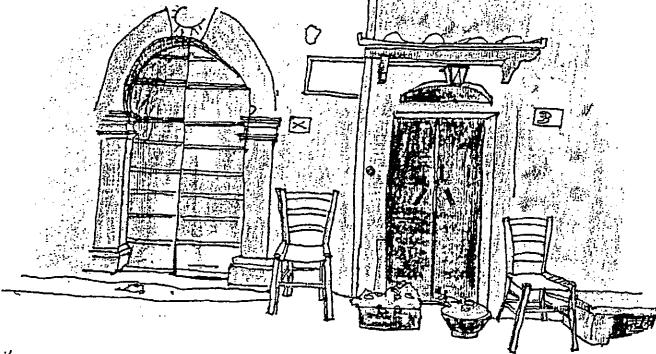


CAFF



MACCHIATO

ESPRESSOに少しだけ(少しのよろ)
ミルクを落としたコヒー



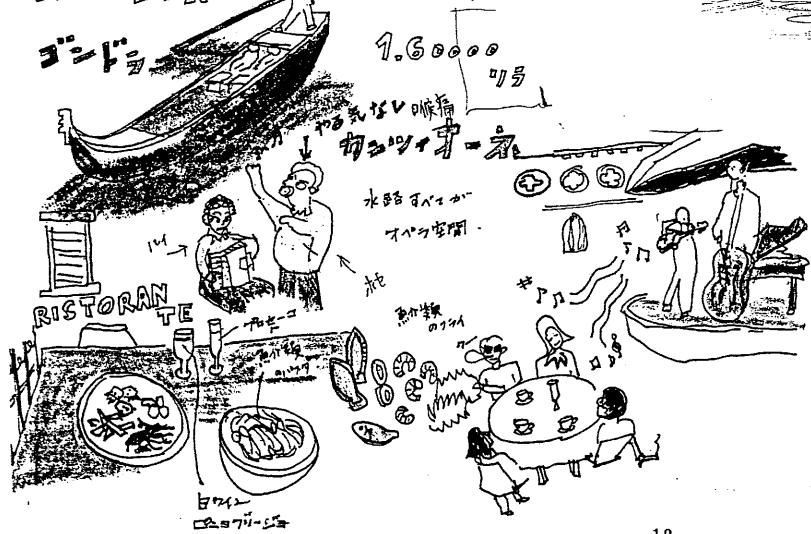
道が住むの一部であり、街に橋がある時は出でる。
また船も自分でアパート出で、道を住すの延長で大通りは違う。TOSCANA
公園部分を眺め果てた後は、アパートに住む。印象
で、美しい美しかった。

TOSCANA

ヨーロッパの水辺
水の都をやはり水辺から
視界が見たいと思ひゴトロに乗った。
ガネツィアには他にも水エバス、タクシー
と水運はあるが
ゴトロの良さは、カイル運河が海まで近く
歩いて水路にせ入れられるなど、また、
「カイ」というためスピードが遅く、先の
ウッドリッシュ中がのミーコンスのウッドリッシュが
すばらしいこと。アイルベーレが水面に
映りにくく並びに不思議だ。TIME SPLITEもあって
ガネツィアの夜はゴトロに乗って
先の日暮が、マルコの場のカイに
ウッドリッシュを見起す。昔かは時間
が流れました。



VENZIA



TEATRO SCALA ALLA

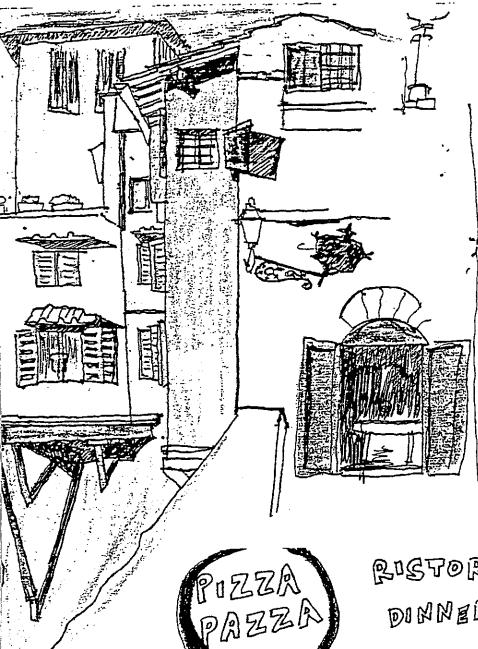


VECCHIO

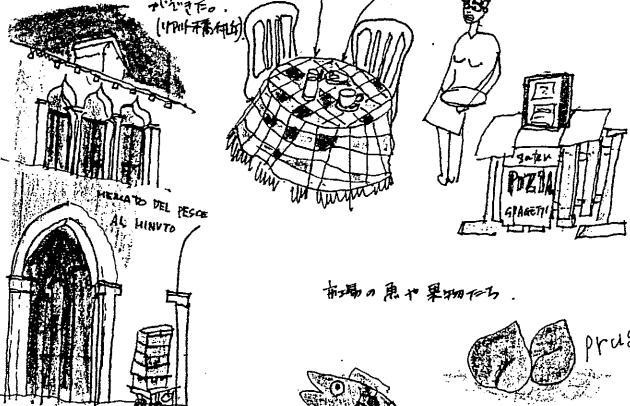


Palazzo

↑ ヴェッキオ宮・シヨーリ廣場
ヴェンツィエの大聖堂からヴェッキオ
橋に至るミーコンスは開けては
閉じて路地と広場にそこそ
繋げ歩いた。



カナルの朝市は朝の市場に行なわ。
新鮮な魚介類、果物、野菜などの販賣が行なわれる。
朝市は水辺で生活の風景が見えてくる。
(イタリア高橋)



市場の魚や果物たち。



↑ ヴェネツィアの
朝市の風景。

NTE =
CCHIO

PIZZA PAZZA

RISTORANTE DINNER

Antipasto
パスタ
トマト
トマトソース
トマトソース

火鍋
火鍋

チーズステーキ
チーズステーキ

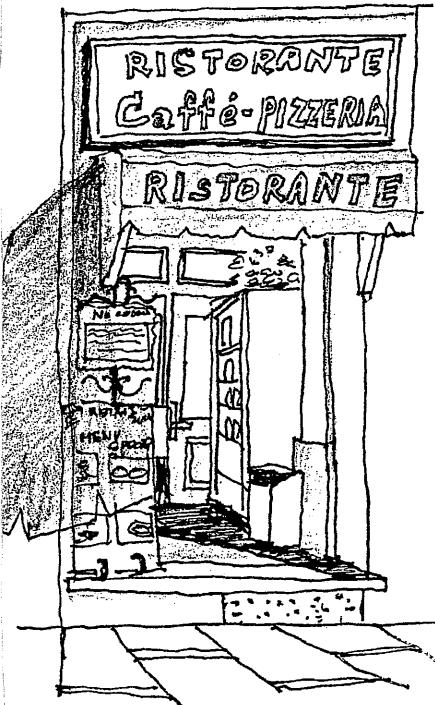


155.750 円
1/4



vino Bianco

CAFFEE



TRATTORIA ALLA MADONNA

アントラ
アントラ

Antipasto

Frutti di Mare



vino CASA



ZUPPA DI PEPE



INSALATA MISTA



魚介類のスープ



Creme caramel

VENZIA

カナル運河沿いの trattoria

↑ ヴェネツィア サンタ・ルチア教会前 Caffè in Z

「それでも、血圧も高じ過ぎるだじ、薬も飲ま
れないし、心配ですわ」

父さんは、何も答へなかつた。

次の休み、父さんとぼくは柿をもひだ。裏
庭の柿の木は、四メートルほどの高さで、渋
柿だった。ぼくは、小さじ時からこの柿の幹
に組み付いて、数えきれないほど上へて遊ん
だから、何番目の枝に足をかけるか、どれく
らいしなるか、すゝり覚えていた。

父さんとぼくでもひだ柿を、縁側で、おせあ
い母さんが、せひせと剥いてくれ。軒につる
したり、こわらの上につるしたつて十斤柿
にかる。毎日の冬のおせあになれるのだ。

「『ああもう』を残してな。」

おせあは、必ずやうすり。木になつたくだら
のをもぐ時にせ、必ず実を木の枝に残してお
くのだ。木の取り分りしこ。三の鳥に食べられ
てしまつ」ともあるわねど、一面の雪景色
の中に朱色のあざやかな『ああもう』の実を

見つけた

「ああ、まだないわ」

と、少しうれしそうな気がする。

皮に白い粉をふいた干し柿は、舌の感覚をま
ひかせる滋味が、魔法のように抜けた實に聞じ込む
てこむ。むづこいせつなのが、せんには少
かりない。父さんにも少からな。おせあに
置くといふと、

「ふーん。わかるねえな。冬のおせあもんか
もじこんねな。甘柿は、もたねえからな。」

と聞いて、首をかしげた。

こよご雪の季節が近くなると、大きな種
に葉をじきつめ、人参、大根、白菜、さとう
こも、じゃがいもを入れて、かこひとおべ。

採した木の運び出しがやうやすいからだ。
すぐり落ちてくる屋根雪から家を護る、「雪
の間は、貰い物にもなかなか行けなくな
からだ。藁の中に入れておくのは、凍らな
いにするためだ。一気に一戸ず、灯油入り
ム缶に日本、プロパンガス西キロは必要だ。

雪が本格的に降り始めるといつりうんぬ
のせあに朱色のあざやかな『ああもう』の実を

一ガ一が来て雪をすべり下りても、道幅は
ひんじん狭くなつて、車が互いに行き違
ひのせえもありかなびつて、もういつや
らなければたちまち凍った雪の上でスリップ

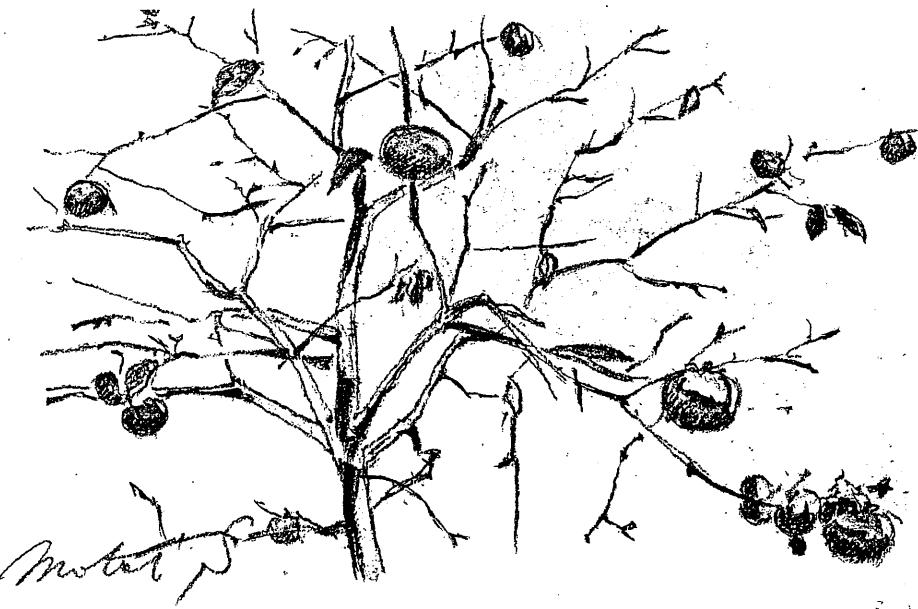
して事故になつてしまひ。その車もギトをセ
カンヤに入れで、二十キロくらいで走るが
と走らなければ危ない。吹雪になると、前
車のテールランプとタイヤの跡だけがたより
だ。ワイヤーは凍りつき、壁も道も崖も雪の
白一色で見分けられなくなるからこわい。貯
い物も配達もできなくな。そのため、十
分準備しておかなければなりないのだ。

父さんの林業の仕事は、雪が降つてから春
までのシーズンも忙しい。雪が積もると、伐
採した木の運び出しがやうやすいからだ。
すぐり落ちてくる屋根雪から家を護る、「雪
の間は、貰い物にもなかなか行けなくな
からだ。藁の中に入れておくのは、凍らな
いにするためだ。一気に一戸ず、灯油入り
ム缶に日本、プロパンガス西キロは必要だ。
たおせあの家は、冬に向かって鑑を着たよう
に見えた。

萬 もの の がたり

(6)

大庭 柱



きくせ、父さんのおまかのゆうに角の所に座る」とした。「よしひ」と何んと座った父さんは、おとなしく一人で熱燗を飲んで居る。ぐい飲みを置いて、悠然と醤油と酒で炊いた里芋を五、六個皿に取り、箸で口に運ぶ。わらじ、井戸のいだ豚汁を音をたててすする。黙々と食べる父さんになりつて、きくせいもいまさうになりなじきながら、豚汁をする。おばあとおじいは、相變わらずにぎやかにしゃべりこゑる。きくせ、「おかわり」

と叫びて、おも『かかわ』にせ聞こえない。父さんは、皿をきくと「四分でよそえ」と命図する。やじい、父さんとの分もと井戸をだす。ぼくが、おかわりを無事によそって戻ると、父さんは、黙つたままこいつら笑ひを受け取つた。きくせは、おばあのおまかのおまかから、皿から皿へ、手から手へと伝えられできた事が、おじやべりを通して、口から口へ、耳から耳へといふことでもあるなんぞ、思いなんじゃないか

も及ばなかつた。おばあおじいお母さんのおじやべりを、父さんが楽しそうに聞いていたのは、それを知っていたからかもしれない。

夕食が終わると、きくと父さんは手に正を見た。母さんは後片付けにかかり、おばあせ、風呂に入る。おばあの後から風呂に入った母さんが、上がりて来る頃、ボーンボーンと柱時計が九時を打つ。

「おかあさん、おやすみなさい」

「おばあ、おやすみ」

「おやすみ、おやすみ。また、あしたなあ」

きくたちは、おばあの家を後にする。家の帰り道、見上げると濃紺の空に、鋭いカッターで切り抜いたような三田月が、冷たく輝いている。

「おがあさん、あの寒い窓裏と炬燵だけの家で、」の外、大丈夫かじい

母さんが父さんに書いた。

「わいとあそ」に暮らしてきたんだ。大丈夫なんじゃないか

■ 1998年度会費について

1. 年会員 (会費 7,000 円／年)
定例会聴講(5回／年)、機関誌(1回／年予定)、会報(6回／年発行)
すべての同人の活動情報を会報以外にも提供する。
2. 会報購読会員 (会費 2,000 円／年)
会報(6回／年発行)
定例会聴講はそのつど下記聴講費を支払って頂く。
3. 定例会聴講 (聴講費 2,000 円／回 学生割引 1,000円／回)
年会員以外はそのつど聴講費を支払って頂く。

*年会員・会報購読会員の会費は1月から12月まで1年分とします。中途入会も上記の会費でお願いします。

*定例会等で特別に資料などある場合は別途実費。

*新規入会、会員変更等の方は以下の表に必要事項を記入の上事務局にFAX、又は郵送してください。

*会費納入は郵便局にて以下の口座にお振り込みお願いします。

総合口座 10010-54101181

生活文化同人 代表吉田桂二 1月30日(金)まで

*不明な点は事務局にお問い合わせください。

〒273 千葉県船橋市西船橋5-7-2-201 TEL/FAX0473-32-4413

生活文化同人事務局 松本昌義

- 生活文化同人はボランティアにて運営されている会です。滞りない会の運営のために会費の納入は期日内にお願い致します。

~~~~~キリトリ~~~~~

生活文化同人事務局 松本昌義 行

### ■1998年度生活文化同人新規入会申し込み、及び会員更新・変更届け

\*会員数等の把握、名簿整理のため97年度会員の方もお送りください。

新規会員 1.年会員 2.会報購読会員 (どちらか○をつけてください)

会員更新 1.継続 2.年会員に変更 3.会報購読会員に変更 4.退会する

フリガナ

氏名 :

勤務先 :

勤務先住所 : 〒 -

\*郵便番号は7桁でお願いします。

TEL

-

-

FAX

-

-

自宅住所 : 〒 -

TEL

-

-

FAX

-

-

会報送り先 : 勤務先 ・ 自宅 (どちらか○をつけてください)

# 生活文化同人の目的

一、われわれは、自らの建築（オリジナリティ）へと向かうアプローチ（方法論）について互いに研鑽し合う。

二、われわれは、生活文化という視点で各分野の伝統技法に学び、未来のモノづくりに活用する。

三、われわれは、旅を通して固有な地域環境に

学び、新たな創造活動への契機とする。

## ★掲示板

平成9年度特別展

# 本郷に生きた サムライの生涯

—幕臣・官僚・明治維新—

平成9年10月25日㈯～12月7日㈰

休館日 11月25日・26日 12月1日

文京区は江戸時代に多くの武士が住んでいた地域として知られています。今回の特別展ではその中から本郷三丁目（現・本郷一～二丁目）に住んでいた幕臣田村喜四郎・義質父子をとりあげ、江戸時代後期から明治時代にかけて生きたサムライの生涯を紹介します。



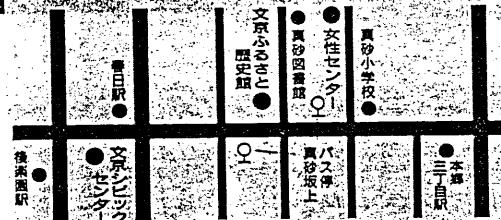
大観音で知られる光源寺（淨土宗。文京区向丘二丁目）の本堂は、じつは田村家から寄進された茶室を利用したもので。これが寄進されたのは昭和20年（1945）10月。戦災で焼失した本堂の代わりに使うため、三丁目から本郷通りを大八車に乗せて運んだそうです。この茶室の建築年代などはわかりませんが、移築された時点で築50年ほど経っていたと伝えられています。昭和27年に現本堂が茶室を覆うように増築されたあとも、本尊は茶室の床の間に安置されています。

## 文京ふるさと歴史館

〒113 東京都文京区本郷四丁目9番29号 ☎ (03)3818-7221

交通 ●地下鉄「九」内線「本郷三丁目駅」・都営三田線「喜多見駅」から徒歩5分 ●バス「[真砂坂上]から徒歩1分」

（光源寺の模型S1:20を製作ほした、十川造形工房）



## ■ 同人活動

- ・吉田桂二・・・『保存と創造をむすぶ』建築資料研究社発行
- ・宮坂公啓・・・木造軸組構法の持続可能な道を探る 住宅建築11
- ・松井郁夫・・・フィールドノート 日本列島伝統構法の旅 建築知識10
- ・宮腰喜彦・・・建築専用3次元CADの冒険 建築知識11
- ・小林一元・・・新しい住まいの設計 扶桑社11月号
- ・松本昌義、豊崎洋子・・・新しい住まいの設計 扶桑社12月号

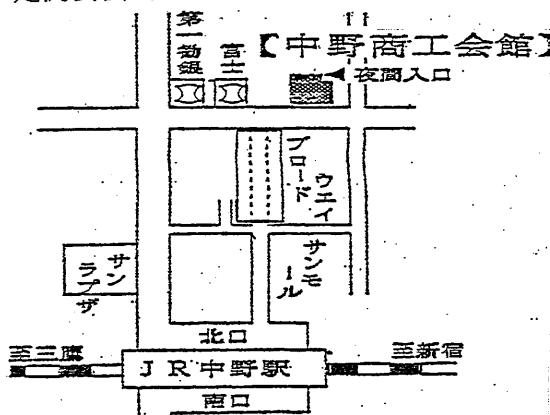
## ■ 事務局より

### ・生活文化同人総会／忘年会 12月22日(月)夜

※時間及び場所については、後日幹事より各会員へはがきにてお知らせ致します。  
初参加の方、大歓迎！

- ・次号予告 第2回韓国建築文化研修ツアーレポート お楽しみに。
- ・「シャガン」の江原君風邪でお休み。次号カムバック。
- ・会報原稿募集します。私の近作、旅の報告、町並みスケッチなど何でもOK！
- ・掲示板を活用してください。出版や個展、見学会等のお知らせを掲載します。
- ・毎号原稿締切：奇数月20日

#### 定例会会場



#### 編集後記

- ・半ばあきらめていたワールドカップフランス大会への日本の出場が決まり、楽しみも来年へとつながりましたね。よかったです。(D)
- ・アメリカの作家、ロバート・ニュートン・パックの『豚の死なない日』とその続編を読んで感動しました。現在のアメリカのイメージとは違い、土に根ざして素朴に誇り高く生きる人々の姿が鮮やかに描かれています。(K)
- ・無事、今年6回の会報を出し終えることができてほっとしております。来年もどうぞよろしく。(D&K)

会報編集局：〒102 東京都千代田区富士見2-13-7  
連合設計社市谷建築事務所 新井／勝見

97年事務局：〒273 千葉県船橋市西船橋5-7-2-201 TEL/FAX0473-32-4413  
生活文化同人事務局 松本昌義

~~~~~ キリトリ ~~~~

- ・定例会 ジョン・ラスキン『建築の七灯』を読む に参加ご希望の方は事務局まで必ずFAXにて申し込んでください。

※12/10くらいまでにお願い致します。

定例会 ジョン・ラスキン『建築の七灯』を読む に参加希望します。

氏名：

TEL：

職場 / 自宅